

4 人間形成学科（専門教育科目）

基幹科目

教育学概論 A
 教育学概論 B
 生涯教育論
 教育史
 発達心理学 I - A
 発達心理学 I - B
 発達心理学 II
 教育心理学概論（教育・学校心理学）
 子どもの保健
 臨床心理学概論（臨床心理学）
 教育相談
 教育相談（幼児教育）

展開科目（じゅもんコース）

教育制度論（関係行政論）
 保育者論
 保育学
 社会福祉 I
 社会福祉 II
 子ども家庭福祉（児童家庭福祉）
 子ども家庭支援論
 社会的養護 I（社会的養護）
 幼児理解の理論と方法
 子どもの食と栄養
 造形 I
 造形 II
 音楽 I
 音楽 II
 音楽 II
 体育 I
 体育 II
 児童文学
 子どもと遊び
 家庭支援論
 教育課程論（幼児教育）
 保育の計画と評価
 子どもの健康と安全（子どもの保健 II）
 特別支援教育
 障害児保育
 乳児保育 I
 保育方法論
 社会的養護内容 I
 保育相談支援
 保育内容総論
 保育内容・健康 I
 保育内容・健康 II
 保育内容・人間関係 I
 保育内容・人間関係 II
 幼児と環境
 幼児と言葉
 幼児と表現 A
 保育内容・表現 I
 保育内容・表現 II
 保育内容の指導法・環境
 保育内容の指導法・言葉
 保育内容の指導法・表現 A
 保育内容総論
 保育・教職実践演習（幼稚園）
 幼稚園教育実習事前事後指導

展開科目 （じゅもんコース）

幼稚園教育実習 I
 幼稚園教育実習 II
 保育実習指導 I
 保育実習 I
 保育実習指導 II - A
 保育実習 II - A
 保育実習指導 II - B
 保育実習 II - B

展開科目 心理学コース

学習心理学及び言語の習得
 （学習・言語心理学）
 心身科学
 比較心理学
 生理心理学及び神経心理学
 （神経・生理心理学）
 加齢基礎論
 知覚心理学（知覚・認知心理学）
 認知心理学（知覚・認知心理学）
 対人心理学
 社会心理学（社会・集団・家族心理学）
 産業・組織心理学（集団心理学）
 司法・犯罪心理学
 老年心理学
 家族心理学
 感情・人格心理学
 障害者・障害児心理学（障害者（児）心理学）
 健康・医療心理学（ストレスマネジメント論）
 心理学的支援法
 心理演習（心理面接演習）
 心理的アセスメント（心理アセスメント）
 精神保健学
 福祉心理学
 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）
 老年期医学
 精神医学 I（精神疾患とその治療 I）
 精神医学 II（精神疾患とその治療 II）
 心理学実験 I（心理学実験演習 I）
 心理学実験 II（心理学実験演習 II）
 心理学研究法
 心理学統計法（心理・教育統計法）
 心理実習 I
 心理実習 II
 心理実習 III
 公認心理師の職責
 保健医療福祉行政論 I（関係行政論）
 人的資源管理論（関係行政論）
 社会統計学 I
 データ処理とデータ解析 I
 データ処理とデータ解析 II

関連科目

社会教育論
図書館情報学
国際教育文化交流論
社会教育特講A
社会教育特講B
社会教育特講C
社会教育特講D
社会教育特講E
キャリア論
情報数学
Webデザイン演習
プログラミング概論
情報ネットワーク論
データベース論
プログラミング演習
情報検索システム論
問題解決演習
組織マネジメント
ビジネス倫理
個人情報法制

演習
卒業論文

入学年によって、(斜体)の科目に読替になります。

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育学概論 A			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Research A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種		
標準履修年次	1	開講時期	前期		
担当教員	董秋艶				
授業概要	この授業では、教育の基本的な原理を歴史や社会との関係をふまえながら学び、教えることと学ぶことに関わるペダゴジーの特徴や今日の教育が直面している諸課題を考える。また、学校はどのような意味と機能をもっているかを知り、そのことで、私たちの人生はどのような影響を受けているかを考える。保育者として、それを担い支えることへの社会的責任を自覚できることを目指す。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	この科目は保育士資格・幼稚園教諭免許取得希望者は必修となります。				
テキスト	配付資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。				
参考図書・教材等	木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣、2009年 董秋艶・他（共著）『子ども論エッセンス：教育の原点を求めて ～全ての子どもに権利・人権を保障するとは』 花書院 2015年				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問や相談等は、授業終了後またはメールにて受け付めます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	教育（学校）に関する基本的な意味と機能を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	教えることと学ぶことに関わるペダゴジーの特徴や今日の教育が直面している諸課題を考える。
		(DP 4)	教育の課題を学術的に捉える力を養う
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	10	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30	10	10	10		60
思考・判断・表現	(DP3)	10	5		5		20
	(DP4)	10	5		5		20
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人間の発達と教育	講義 (配布資料)	教育とは何かを考える
2	子どもとは何か① ～子どもの「発見」～	講義 (配布資料)	予習・復習
3	子どもとは何か② ～日本の子ども観の形成と展開～	講義 (配布資料)	予習・復習
4	映画『学校』(1993年)を観る～学ぶこと、生きることを考える～	演習	映画感想文の作成
5	映画『学校』(1993年)を観る～学ぶこと、生きることを考える～	演習	映画感想文の作成
6	学校とは何か① ～近代学校の成立～	講義 (配布資料)	予習・復習
7	学校とは何か② ～社会と学校 学歴社会って?～	講義 (配布資料)	課題レポートを作成
8	学校とは何か③ ～学校の意味	演習 (課題レポートを発表)	課題のふりかえる
9	学校とは何か④ ～学校で何を学ぶのか～	講義 (配布資料)	予習・復習
10	学校とは何か⑤ ～学校での学びは誰が決めるのか～	講義 (配布資料)	課題レポートを作成

11	学校とは何か⑥ ～学校って？	演習（課題レポートを発表）	課題のふりかえる
12	教育と子ども① ～『小皇帝の涙』（2008）を観る 中国の子どもの教育を考える～	演習	映画感想文の作成
13	教育と子ども② ～教育とは何か？～	講義（配布資料）	予習・復習
14	教育と子ども③ ～「学ぶ」と「働く」こと～	講義（配布資料）	課題レポートを作成
15	教育と子ども④ ～一人前になるとはどういうことか？	演習（課題レポートを発表）	課題のふりかえる
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育学概論B			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Research B			授業コード	
必修・選択	必修・選択	関連資格	高等学校教諭（公民）、中学校教諭（社会）、養護教諭		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察する。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学の基礎的概念を修得し、受講者による事前の調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	ポウルヴィ『母と子のアタッチメント』医歯薬出版、1993、勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015、学習指導要領（2017年度改訂）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。
		(DP4)	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通じ自らの思考を論理的に伝達できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項について正確に理解したうえで、自らの考えを論理的に伝達することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項にかかわる用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)			○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(教育の概念・本質・目標)	講義	シラバスの精読
2	教育政策の歴史と現代的な課題	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
3	教育の理念・思想(家庭教育と近代教育)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
4	「教育」の理念とは何か—これまでの体験から	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
5	教育の本質と目標(陶冶論、科学としての教育学)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
6	教育の本質と目標(家庭教育、人間形成の概念)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
7	教育の本質と目標(学校教育、現代の学校)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
8	近代の教育制度(義務制・無償制・中立性)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
9	現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
10	教育課題の歴史と現状	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
11	子どもと家庭教育(発達段階)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
12	子どもと家庭教育(経験主義と体験学習)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
13	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備

14	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
15	講義全体の振り返り	講義とグループワーク	指定資料の精読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	生涯教育論		単位	2
科目名（英語）	Lifelong Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、幼一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	董 秋艶			
授業概要	本授業を通して、生涯教育/学習を支える思想及び施策を学びとともに、人間形成に関わる教育/学習支援への在り方とその課題を知る。それらの学びを通して、教育/学習という側面から生涯教育の役割と機能をよりよく発揮できるかを考えるよう目指す。			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	形成学科の学生が必修			
テキスト	配付資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。			
参考図書 ・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』（エイデル研究所 2017年） 佐藤一子『現代社会教育学－生涯学習社会への道程』（東洋館出版社 2011年） 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房 2017年）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問や相談等は、授業終了後またはメールにて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生涯教育/学習の基礎的な知識について理解する
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	20	10	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	50	20	10	20			100
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（本授業の視点と概要）	講義	生涯教育を考える
2	「生涯教育」とは何か？ ～思想/概念～	講義（配布資料）	予習・復習
3	「生涯」を対象とした「教育」がなぜ必要か？ ～生涯にわたる人間形成～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
4	生涯教育は大人が対象なのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
5	生涯教育と社会教育	講義（配布資料）	予習・復習
6	生涯教育と生涯学習	講義（配布資料）	課題レポートの作成
7	「教育」と「学習」って何か違うのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
8	生涯教育の現代的課題を考える① ～夜間中学校～	講義（配布資料）	予習・復習
9	生涯教育の現代的課題を考える② ～図書館～	講義（配布資料）	予習・復習
10	生涯教育の現代的課題を考える③ ～公民館～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
11	生涯教育か生涯学習か？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ

12	生涯学習を実践する① ～あなたが好きな新書をおすすめしよう～	講義（配布資料）	予習・復習
13	生涯学習を実践する②	講義 グループワーク	好きな新書を選び、紹介文の作成
14	生涯学習を実践する③	グループワーク 発表	発表のふりかえ
15	まとめと学習のふりかえ	講義	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育史		単位	2
科目名（英語）	History of Education		授業コード	
必修・選択	必修・選択	関連資格	高等学校（公民）、中学校（社会）は選択必修	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	藤澤健一			
授業概要	教育の歴史に関する基礎的知識、家庭教育と学校教育、社会環境の関係を実践的に修得する。家庭教育と学校教育、社会環境の関係を理解する。「教育史」とは、(学校教育に限定されない)広義の「教育」についての歴史的研究を指す。この講義では、現代日本の教育史や自分史を基本的な素材とする。断片的な知識を集積するのではなく、かけがえのない自己を通じて「教育」について深く考える。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人間形成学科は必修、その他（教職課程など）は選択必修。			
テキスト				
参考図書・教材等	山本正身『日本教育史』慶応義塾大学出版会、2014、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、学習指導要領（2017年度改訂）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	近現代日本の教育史にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会事象、自己にかかわる事象を歴史的に分析できるようになる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	自らの考えを論理的に他者に伝えられるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育の歴史に関する基礎的知識、家庭教育と学校教育、社会環境の関係について正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育の歴史、家庭教育と学校教育、社会環境の関係にかかわる用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)				○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	シラバスの精読
2	教育の基礎的概念 (代表的な教育思想)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
3	日本の学校教育の理念と歴史 (近代教育の成立)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
4	現代日本の教育と家族・社会 (歴史的前提)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
5	現代日本の教育と家族・社会 (高度経済成長期)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
6	現代日本の教育と家族・社会 (低成長期から現在)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
7	日本の教育政策の課題と現在の動向	講義とグループワーク	レポートなどの準備
8	日本の入試制度改革の歴史と現在の動向	講義とグループワーク	レポートなどの準備
9	日本の子どもの貧困の歴史と現在の動向	講義とグループワーク	レポートなどの準備
10	学習指導要領・教育課程 (1960年代まで)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
11	学習指導要領・教育課程 (1970年代から90年代)	講義とグループワーク	レポートなどの準備
12	学習指導要領・教育課程の歴史 (2000年代以後)	講義とグループワーク	レポートなどの準備

13	現代日本の社会と教育課題（いじめの歴史）	講義とグループワーク	レポートなどの準備
14	現代日本の社会と教育課題（不登校の歴史）	講義とグループワーク	レポートなどの準備
15	現代日本の社会と教育課題（校内暴力の歴史）	講義とグループワーク	レポートなどの準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	発達心理学Ⅰ - A			単位	2
科目名（英語）	Developmental PsychologyⅠ -A			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種・養護教諭一種・中高教諭一種		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	池 志保				
授業概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、発達段階に沿って学んでいく。発達上の心身の障がいや問題についても取り上げ、将来、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	後期『発達心理学Ⅱ』へと続く科目です。『発達心理学Ⅱ』を履修予定の学生は、前期で『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。				
テキスト	『発達心理学』武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店。				
参考図書・教材等	『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』柏崎秀子編著、北樹出版社。 『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房。				
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。
		(DP4)	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が大変よく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことが大変よくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することが大変よくできている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がよく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがよくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがよくできている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がおおむね理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがおおむねできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがおおむねできている。	
C：60～69	到達目標を達成している。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がやや理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがややできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがややできている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が理解できていない。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができていない。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎	◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎	◎			
	(DP4)	◎	◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	発達心理学の誕生と歴史	テキストに沿って講義していく。テキストの他にも適宜資料等を配布する。 テキストで得た知識を具体的に理解するため、視聴覚学習を行う。	<p>事前学習</p> <p>次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習</p> <p>興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>
2	乳児の知的世界：選好注視、共同注視、社会的参照		
3	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論①：命名の爆発、学習と記憶、動機づけ理論①(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)		
4	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論②：ピアジェの発達理論、素朴理論と科学理論、心の理論、観察学習、学習の認知説など		
5	人の中への誕生と成長：インプリンティング、愛着理論		
6	情動の発生と自己の成長、主体的学習活動を支える集団作り		
7	学校への移行 —主体的学習活動を支える学習理論と学習評価の在り方—：学習理論②(外発的動機づけと内発的動機づけ)、学習と知能、学習指導法		

8	科学性の成長と世界の拡大		
9	発達の障がいと学習支援総論		
10	発達の障がい各論（自閉スペクトラム①） ～視聴覚教材～		
11	発達の障がい各論（自閉スペクトラム②） ～視聴覚教材～		
12	フロイトの発達理論		
13	性的成熟とアイデンティティの模索（エリクソンの発達理論）		
14	思春期・青年期のこころの発達・学習と親子関係		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ミニッツコメントによる双方向授業）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	発達心理学Ⅰ-B			単位	2
科目名（英語）	Developmental PsychologyⅠ-B			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	池 志保				
授業概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのかを学ぶ。また、各年齢段階の子どものDVDを視聴し、保育場面における子どもの行動を発達心理学的視点から理解し、対応を考える。幼児教育や保育場面に役立つ理論及び実践的な知識を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	『発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（本郷一夫著、建泉社）。				
参考図書・教材等	『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』（柏崎秀子編著、北樹出版社）。 その他、授業中に適宜資料を配布します。				
実務経験を生かした授業	発達臨床や園で実務経験のある教員（池・林）が担当しています。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識を身につける。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。
		(DP4)	心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べるることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識を身につける。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べるることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

<p>幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識を大変よく身につけている。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を大変よく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことが大変よくできる。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べることが大変よくできる。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>
<p>幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識をよく身につけている。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方をよく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがよくできる。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べることがよくできる。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識をおおむねよく身につけている。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方をおおむね理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがおおむねできる。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べることがおおむねできる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識をやや身につけている。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方をやや理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがややできる。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べることがややできる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識を身につけていない。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解できていない。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができていない。心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べることができていない。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	10				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎	◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎	◎			
	(DP4)	◎	◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	発達心理学とは？：発達段階、臨界期と最適期、遺伝と環境	講義 (担当：池・林)	
2	運動と認知発達理論：ピアジェとヴィゴツキーの発達理論	講義 (担当：池)	事前学習 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。
3	様々な学習の形態や概念の過程を説明する代表的学習理論と発達： 動機づけ理論、学習の認知説、記憶の発達		事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。
4	主体的学習活動を支える指導の基礎となる学習理論や集団作り：外発的動機づけ		

	と内発的動機づけ、観察学習、創造性、学習指導法		
5	情動と親子関係の発達		
6	性格・人格の発達		
7	遊びの発達と集団づくり		
8	子どもの発達障がいと学習支援		
9	0歳児の発達理解と対応実践（主に運動、愛着、認知）	講義とDVD視聴 （担当：林）	理解と対応の整理
10	1歳児の発達・学習理解と対応実践（主に言語、認知）		
11	2歳児の発達・学習理解と対応実践（主に社会性、自律）		
12	3歳児の発達・学習理解と対応実践（主に人間関係、保護者対応）		
13	4歳児の発達・学習理解と対応実践（主に集団づくり、安全配慮）		
14	5歳児の発達・学習理解と対応実践（主に主体的学習指導の実践）		
15	主体的な学習活動を促す支援と学習評価の在り方の実践		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ミニッツコメントによる双方向授業）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	発達心理学Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Developmental Psychology Ⅱ			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	公認心理師・保育士・幼稚園教諭一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	池 志保				
授業概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達を通して人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。講義では、親子関係、きょうだい関係、夫婦関係などに関する発達心理学の知見を取り上げ、思春期から老年期に関する発達心理学上の問題と心理的援助についても概説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前期から続く科目です。前期科目『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。				
テキスト	『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店。				
参考図書・教材等	『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房。				
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。
		(DP4)	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が大変よく理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことが大変よくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することが大変よくできている。			
A：80～89 履修目標を達成している。 思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がよく理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがよくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがよくできている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がおおむね理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがおおむねできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがおおむねできている。	
C：60～69	到達目標を達成している。
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がやや理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがややできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがややできている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が理解できていない。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができていない。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎	◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎	◎			
	(DP4)	◎	◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	生涯発達心理学（心身の発達、認知機能、発達障がい）	講義（配付資料）	<p>事前学習 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>
2	人格の発達	講義（配付資料）	
3	視聴学習－カイン・コンプレックス①	講義とDVD視聴	
4	視聴学習－カイン・コンプレックス②	講義とDVD視聴	
5	青年期の発達理論－ピーター・ブロス他	講義（配付資料）	
6	青年期の親子関係	講義（配付資料）	
7	「学校から就職へ」	講義（テキスト）	
8	「恋愛関係の発達」	講義（テキスト）	
9	「結婚生活とその推移」	講義（テキスト）	
10	「親になること・親であること」①	講義（テキスト）	
11	「親になること・親であること」②	講義（テキスト）	

12	中年期の発達心理①（知的能力・記憶・創造性）	講義（テキスト）
13	中年期の発達心理②（人格・社会性）	講義（テキスト）
14	高齢者に関する発達理論（認知機能・感情・人格・社会性）	講義（テキスト）
15	「発達心理学は何をするのか」及び発達に関する心理的援助	講義（配付資料）
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ミニッツコメントによる双方向授業）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育心理学概論（教育・学校心理学）		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Psychology (Educational and School Psychology)		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	教員免許（中学校社会，高校公民）	
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	福田 恭 介			
授業概要	教育現場においては、子どもと教師だけでなく、親も関わりながら学校を動かしている。ここでは、発達、学習、算数・文章理解、動機づけをどのように支援していくか、知能・学力の評価、子ども社会、発達障害児への対応、不登校への対応などの問題について考えていく必要がある。教育心理学とは、教育現場で起こるさまざまな問題について心理学的知見に基づいて考えていく学問である。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理学概論，発達心理学Ⅰを履修している方が望ましい。			
テキスト	①福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版 ￥2,860 ②市川伸一（著）「学ぶ意欲の心理学」PHP新書 ￥792			
参考図書・教材等	①森敏昭（著）「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓）eラーニングに保存 ②R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版 ③大村彰道（編）「教育心理学Ⅰ－発達と学習指導の心理学」東京大学出版会			
実務経験を生かした授業			授業中 の撮影	
学習相談・助言体制	授業に対するコメント・質問は，授業開始時に配布されるA5用紙に記述することで行う。次回の授業で紹介されたコメントが，授業への参加度として加点される。その他の質問に対しては，時間が空いていれば受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	図表や用語を，これまでの知識と関連づけて理解した上で説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	指定された文献や論文の内容を要約し，コメントを記述できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	授業内容について，これまでの教育経験と関連づけながら質問やコメントを記述できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業内容と自らの教育経験を結びつけ、指定された文献や論文の内容を手がかりにコメントを記述できる。			

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業 コメント	授業外 レポート	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		40	20	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎						
思考・判断・表現	(DP3)			◎				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		◎					
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め 方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	心理学における教育心理学の位置づけの紹介		
2	「21 世紀の教育心理学が目ざすもの（森敏明）」の紹介		
3	ピアジェの認知発達理論 ・ シェマの同化と調節による均衡化への過程 ・ 感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。	この授業では、規程に基づき、1 回の授業に対し事前・事後で 180 分（3 時間）の学習が求められる。そのため、その一部をレポートで補う。
4	発達障害 ・ 自閉スペクトラム症 ASD: Autism Spectrum Disorder	その内容は、e ラーニングに保存している。	授業 2 回の後、e ラーニングに保存された森敏昭（著）「21 世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓）を読み、その後、5 項目について、指定文字数で要約し、最後にコメントを 200 字程度で記述する。
5	・ 注意欠如多動症 AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder ・ 学習症 LD: Learning Disorder		
6	発達障害児のためのペアレントトレーニングから教師のトレーニングへ	コメントカードを利用した質問に対しては翌週	
7	・ 子どもの親（保護者）のためのペアレントトレーニング		

	・ペアレントトレーニングの保育・教育現場への応用	の授業で回答する。	授業3回までに、福田恭介(編)「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版の中の「2. ペアレントトレーニングの実際」17-63を指定の書式2頁以内で要約し、コメントを200字程度で記述する。		
8	学習のしくみ				
9	・条件づけ：レスポナント条件づけとオペラント条件づけ ・回避学習と観察学習 ・学習性無力感				
10	子どもの数量理解				
11	・子どもの足し算・引き算の考え方 ・小数・分数でのつまずき(加減算シエマでは解決できない) ・文章題の出現				
	子どもの動機づけ				
12	・外発的動機づけと内発的動機づけ ・内容関与動機と内容分離動機				
13	知的能力と学力				
14	・知能検査の成り立ちと、その測っているもの ・学力の評価				
15	不登校			授業12回までに、市川伸一(著)「学ぶ意欲の心理学」PHP新書を指定の書式2頁以内で要約し、コメントを200字程度で記述する。	
15	不登校			授業15回の後、インターネットで不登校に関するいくつかのウェブサイトを検索し、(1)ブログなどに書かれた不登校に対する本人の気持ち、(2)ブログなどに書かれた親の気持ち、(3)ブログなどに書かれた教師の気持ち、3つの立場から2頁以内に要約し、コメントを200字程度で記述する	
備考					

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				提示した課題について、近くの友だちと話し合う機会を設ける														

I. 科目情報

科目名（日本語）	子どもの保健	単位	2
科目名（英語）	Child Health	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士
標準履修年次	1年	開講時期	後期
担当教員	中原 雄一		
授業概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解を図るため、子どもの身体の発育や生理機能、運動機能、精神機能の発育について学習する。さらに、心身の健康状態とその把握方法や、子どもの疾病や対その応についても学習する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格必修科目であることから、資格取得希望学生は必ず履修すること。 なお、資格取得を希望しない学生でも履修は可能。		
テキスト	高内正子 編著「子どもの保健と安全」教育情報出版		
参考図書・教材等	随時紹介する		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	必要に応じて随時対応する		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・子どもの発育・発達について、様々な面から特徴を理解する。 ・健康にまつわる子ども特有の問題（環境や疾病など）について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	・子どもの心身の健康を保持・増進するために、子どもに対する保健的支援のあり方について考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解し、多面的に理解することができる。また、子どもの健康増進を図るためには様々な支援が必要であることがわかる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
子どもは様々な面で大人と異なることを理解し、そのための支援が必要であることがわかる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		45		30		25	100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)		○		○	○	
思考・判断・表現	(DP 3)		○		○		
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義	講義	シラバスを確認する。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
2	健康の概念と健康にまつわる諸問題	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
3	子どもを取り巻く環境① (少子化、社会環境など)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
4	子どもを取り巻く環境② (家庭環境、虐待など)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
5	小テスト① 子どもの発育・発達① (発育と発達の違い)	小テスト 講義	第 1 回～第 4 回の授業内容についてまとめる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
6	子どもの発育・発達② (身体の発育)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。

7	子どもの発育・発達③ (生理機能の発達)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
8	子どもの発育・発達④ (運動機能の発達)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
9	子どもの発育・発達⑤ (神経系と精神機能の発達)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
10	小テスト② 子どもの発育・発達⑥ (感覚と歯の発達)	小テスト 講義	第5回～第9回の授業内容についてまとめる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
11	子どもの健康状態の把握	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
12	子どもの疾病とその対応 (感染症とアレルギー)	講義	テキストの該当ページを読む。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
13	個人発表(感染症について)① 子どもに多い疾病とその特徴①	受講生によるプレゼンテーション 講義	発表の準備を行う。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
14	個人発表(感染症について)② 子どもに多い疾病とその特徴②	受講生によるプレゼンテーション 講義	発表の準備を行う。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
15	小テスト③ まとめ	小テスト 講義(授業の振り返りを行う)	第10回～第14回の授業内容についてまとめる。
備考	受講人数によって、第13回、第14回の発表内容が変わることもある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容				第13回、第14回に発表を行い、発表内容に対してディスカッションを行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	臨床心理学概論			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Clinical Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	岩橋宗哉				
授業概要	臨床心理学の成り立ちについて学ぶ。 クライアントへの基本的なかかわり方、理解の仕方について事例を通して学習する。 現代の代表的な臨床心理学の理論である、精神分析、体験過程療法、認知行動療法についての基本的な考え方について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	参考文献：成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）マラン「心理療法の臨床と科学」誠信書房（1992）、ミルトン「精神分析入門講座」岩崎学術出版社（2006）、北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）、松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）、アン・ワイザー・コーネル「フォーカシング・ニューマニュアル」コスモス・ライブラリー（2005）、福盛英明他編「マンガで学ぶフォーカシング入門」誠信書房（2005）、山上敏子「行動療法」岩崎学術出版社（1990）、内山喜久雄他編「＜ケーススタディ＞認知行動カウンセリング」至文堂（2004）				
実務経験を生かした授業	臨床心理士、公認心理師で病院臨床の経験がある者が、事例等を用いて臨床心理学の概念を説明する			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメール等で予約してください				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 代表的な心理療法の基本的考え方について説明することができる。 神経症性障害、パーソナリティ障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べるすることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP2の内容について、具体的な事例の理解を踏まえて説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

DP2の内容について説明することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			70
思考・判断・表現	(DP3)	○					30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	臨床心理学の成り立ち	講義	配布資料を読む
2	心理面接における共感	講義と体験学習	配布資料を読む
3	プレゼンスの重要性－認知症の事例を通して－	事例を活用した講義	配布資料を読む
4	フォーカシングと体験過程療法	講義	配布資料を読む
5	精神分析の基本的な枠組み（力動論）	講義	配布資料を読む
6	精神分析の基本的な枠組み（治療関係）	事例を活用した講義	配布資料を読む
7	遊戯療法の事例を通してみる心の世界1	事例を活用した講義	配布資料を読む

8	遊戯療法の事例を通してみる心の世界2	事例を活用した講義	配布資料を読む
9	認知行動療法の基本的枠組み	講義	配布資料を読む
10	認知行動療法の実際	事例を活用した講義	配布資料を読む
11	神経症性障害	講義	配布資料を読む
12	ナルシシズムとパーソナリティ障害	講義	配布資料を読む
13	事例を通して学ぶーひきこもりー	事例を活用した講義	配布資料を読む
14	うつ病について	講義	配布資料を読む
15	事例を通して学ぶーうつ病ー	事例を活用した講義	提示した課題をまとめる
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習					○														
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				共感的な応答について体験学習する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育相談	単位	2
科目名（英語）	Educational Counseling	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中学・高校教諭 養護教諭
標準履修年次	人社4年・看護3年	開講時期	前期
担当教員	岩橋宗哉		
授業概要	<p>この講義は、公認心理師、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした教育相談の講義である。</p> <p>1. 問題や課題の理解と支援(カウンセリングの基礎的知識を含む)の方法を学ぶ： 小学校から高校までの教育現場において、児童、生徒によくみられる問題やその背景について、発達課題も踏まえた理解やそれへの支援について事例を通して学ぶ。またそれにより、教育現場におけるカウンセリングの基礎的な知識とかわり方について理解する。</p> <p>2. 連携について学ぶ： 子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。授業内容や順序については、若干変更することもある。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	【参考文献】「チーム援助入門」（石隈利紀・村田節子著、図書文化）、「子どものこころの不思議」（村田豊久、慶応義塾大学出版社）、「現実に介入しつつ心に関わる」（田嶋誠一、金剛出版）など		
実務経験を生かした授業	臨床心理士、公認心理師でスクールカウンセラー経験がある者が担当し、学生とともに事例の検討等を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1. 教育現場において児童や生徒に生じる問題やその背景、及びその支援について説明できる。 2. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点について説明できる。 3. 子どもを中心にして、保護者や他の教員等さらに学校外の機関との連携について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	発表者は担当したテーマについて主体的に調べ発表し、参加者は自らの疑問や意見をまとめ、ディスカッションできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP2の内容について主体的に調べ、自分の意見を持ち、それも含めて説明することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
DP 2 の内容について説明することができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)		○					60
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)		○		○			40
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（授業の説明とカウンセリングの意義と理論について）	講義	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
2	小学校における事例(1) 発達障害	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
3	小学校における事例(2) 虐待、心身症	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
4	中学校における事例(1) 非行、いじめ	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。

5	中学校における事例(2) いじめ、不登校	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
6	高校における事例(1) 対人関係が不安定な生徒など	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
7	高校における事例(2) 摂食障害	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
8	高校における事例(3) かかわりを拒否する生徒	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
9	不登校をめぐって(1) 家庭訪問のしかた	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
10	不登校をめぐって(2) 別室登校・適応指導教室の利用	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
11	不登校をめぐって(3) ボランティア学生などの活用	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
12	教員と保護者及び校内における連携	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
13	外部機関との連携	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
14	学校の緊急支援・危機支援	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
15	まとめと小テスト		提示した課題をあらかじめまとめてくること
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				発表されたテーマについてグループ・ディスカッションする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育相談（幼児教育）		単位	2
科目名（英語）	Educational Counseling (Early Childhood Education)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許、認定心理士	
標準履修年次	4年	開講時期	前期	
担当教員	吉岡和子			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期によくみられる臨床的な問題の理解や対応について事例を通して学ぶ。さらにカウンセリングマインドの必要性を理解する。 ・カウンセリングの基礎的な姿勢（受容・共感的理解等）や傾聴技法を理解する。 ・子どもたちの臨床的な問題に対してより効果的に取り組み、子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者・教員・専門家などが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について学ぶ。 			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	①教育相談とカウンセリングー子ども発達理解を基盤として（金子智栄子編著、樹村房） ②ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援（福田恭介編、あいり出版）			
参考図書 ・教材等	①子どもの発達理解とカウンセリング（金子智栄子編著、樹村房）②お母さんの学習室（山上敏子監修、二瓶社）③完璧な親なんていない！（ジャニス・ウッド・キャタノ著、三沢直子監訳、幾島幸子翻訳、ひとなる書房）④教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門（西見奈子・黒山竜太・松尾伸一・下田芳幸、萌文書林）⑤アサーションの心 自分も相手も大切にコミュニケーション（平木典子、朝日選書）その他は講義中に紹介			
実務経験を生かした授業	保健センター等での保護者の相談に従事した経験及び幼稚園教諭への研修経験を生かして授業を行う。	授業中の撮影		
学習相談 ・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。 さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・援助を必要としている子どもや保護者に対して、教育相談を通して関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるのかについて説明できる。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	・子どもを中心に、どのように連携をしていくのかについて意見が述べられる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
講義中でのディスカッションや実習体験をもとに、DP 2、3について述べるができる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
DP 2、3について述べるができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	授業への参加度	発表	まとめレポート				合計
総合評価割合	30	40	30				100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	20	30	20			70
思考・判断・表現	(DP 3)	10	10	10			30
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP 10)						
備考	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	保育園・幼稚園等における教育相談の意義と課題	講義	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。
2	乳児期の不適応①反応性愛着障害—特徴の理解及び対応（カウンセリング）	発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。
3	乳児期の不適応②ことばの遅れ—特徴の理解及び対応（カウンセリング）	講義内容と関連した事例をもとに、グループ・ディスカッション及び全体シェアリングを行う。	発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。
4	幼児期の不適応①分離不安障害、かんしゃく—特	ビデオで実際の様子を見てもらい理	

	徴の理解及び対応（カウンセリング）	解を深める。	<p>具体的なかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。</p>	
5	幼児期の不適応②吃音（どもり）、チック症／チック障害—特徴の理解及び対応（カウンセリング）	適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。		
6	幼児期の不適応③夜尿（おねしょ）、夜驚—特徴の理解及び対応（カウンセリング）			
7	幼児期の不適応④指しゃぶり、性器いじり—特徴の理解及び対応（カウンセリング）			
8	発達障がい理解及び対応（カウンセリング）①LD、ADHD			
9	発達障がい理解及び対応（カウンセリング）②自閉症スペクトラム			
10	保護者への支援①観察と記録			
11	保護者への支援②望ましい行動を増やすには・困った行動を減らすには			
12	保護者への支援③できない時の手助けの仕方・環境の整え方			
13	効果的な連携のために①よりよいコミュニケーションを学ぶ～アサーション～	アサーションについて解説し、その後、グループワークをし、グループごとに活動内容を発表してもらう。		参考資料を読んでおく。
14	効果的な連携のために②アサーション：シナリオロールプレイ	アサーションについて解説し、その後、グループワークをし、グループごとに活動内容を発表してもらう。		ロールプレイに利用するシナリオを準備する。
15	カウンセリングの基礎的な姿勢や技法 まとめ	講義		講義内容を復習しておく。
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第2回から第12回にグループ・ディスカッションを行う。 第14回でグループ・ワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育制度論（関係行政論）		単位	2
科目名（英語）	The Japanese Education System		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員				
授業概要	日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の教育関係法令に基づき、教育に関する制度的事項についての理解を図る。特に学校教育、教育行政、教員免許、社会教育等に関連した事項を取り上げて講義を行う。なお公立学校教諭の実務経験を活かし、具体的例を挙げつつ解説を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	図解・表解 教育法規			
参考図書・教材等	授業で適宜紹介します。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	レポートの作成方法、定期試験等について授業時間内に指導・助言を行うほか、授業終了後の質問・相談にも、メールにて応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	基本的な学校教育制度に関して理解できる。
		(DP2)	教育制度に関する基本的な概念（専門用語）を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育制度に関する専門知識をもとにして、現代の教育の政策的な課題について検討できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①教育関係の法令の趣旨及び重要事項について理解する。			
②体罰やいじめなど学校を取り巻く諸問題を法制度的視点から分析できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育の制度的事項に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 教育の制度的事項に関する用語の意味を正確に理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について自らの考えを交えつつ法制度的視点から論じることができる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

教育の制度的事項に関する用語の意味を正確に理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について法制度的視点からまとめることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

教育の制度的事項に関する用語の意味をある程度理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について自らの考えをまとめることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

教育の制度的事項に関する用語の意味はある程度理解できている。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

教育の制度的事項に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		40	30	20			10	100
知識・理解	(DP1)	○	○	○			○	
	(DP2)	○	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション（本授業の目標・評価方法等の確認）	講義	シラバスを確認する
2	日本国憲法における教育理念と権利保障	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
3	教育基本法の理念と構造	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
4	公教育制度に関する法規定と学校教育法の基本的事項	質疑応答、講義、小テスト	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
5	教育委員会制度の理念と役割、地方自治体と公教育制度との関係性	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
6	校長・副校長・教頭、主幹教諭・指導教諭、教諭等の職務権限と機能	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
7	職員会議の機能と校務分掌、学校図書館の機能と司書教諭の職務	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
8	習指導要領の法的意義、教科書検定と教科書の採択制	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと

	度		
9	学校評議員、学校運営協議会、 学校評価、学校施設の管理	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
10	教員の服務	質疑応答、講義、小テスト	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
11	教員の採用システムと初任者 研修制度、 現職研修の意義、教員免許更 新講習	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
12	教育職員免許法と開放制教員 養成制度	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
13	生涯学習の理念と社会教育、 人権同和教育の推進、 家庭・地域との連携	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
14	学校事故と教員の責任、 子どもの安全・施設の安全	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
15	学習のふりかえりとまとめ	質疑応答、講義	これまでの授業を復習すること
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育者論		単位	2
科目名（英語）	Early Childhood Education and Care		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭1種免許・保育士資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	大久保淳子			
授業概要	この講義では、保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけ、保育者の専門性、保育者の連携・協働、保育者の資質向上とキャリア形成について概説する。また、我が国の今日の学校教育や教職の社会的意義、教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力、教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応するチーム学校運営などの必要性について概説する。適宜、グループワークをする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成30年 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
参考図書・教材等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省）適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での保育者の現状・今日的課題等を紹介します。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育者（教職）に関する専門的知識を有している。
	思考・判断・表現	(DP3)	保育者（教職）の役割と倫理、保育者（教職）の制度的な位置づけについて、関連する資料を収集し、考察することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	保育者（教職）の専門性について理解し、保育者（教職）の協働・専門職の成長についてし、示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて専門的に説明することができる。 ・現代社会における教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職の在り方を理解し、専門的に説明することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容、チーム学校運営への対応などに関連する資料を収集し、考察することができる。 		

・保育者の協働・専門職の成長についてし、示すことができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89 履修目標を達成している
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69 到達目標を達成している
不可：～59 到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30		10			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○					
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)			○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
3	幼稚園教諭・保育士・保育教諭の制度的位置づけ（免許・資格、責務）	講義・質疑応答	事前学習として、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。 事後学習として、関連のある先行研究を紹介するので、それを読んでまとめる。
4	保育士の専門性（養護と教育・資質・能力・知識・技術及び判断）	講義・質疑応答	
5	幼稚園教諭の専門性（教育・資質・能力・知識・技術及び判断）	講義・質疑応答	
6	保育教諭の専門性（養護と教育・資質・能力・知識・技術及び判断）	講義・質疑応答	
7	幼稚園教諭の専門性（保育の省察、保育の展開と自己評価）	講義・質疑応答	

8	保育士・保育教諭の専門性 (保育の省察、保育の展開と自己評価)	講義・質疑応答
9	保育の計画による保育の展開と自己評価	講義・質疑応答
10	教育課程による教育の展開と自己評価	講義・質疑応答
11	保育と保護者支援にかかわる協働・専門職 間及び専門機関との連携	講義・質疑応答
12	保護者及び地域社会との協働・家庭的保育 者等との連携	講義・質疑応答
13	保育者の専門職的成長・生涯発達とキャリア 形成(1)専門性の発達	講義・質疑応答
14	保育者の専門職的成長・生涯発達とキャリア 形成(2)生涯発達とキャリア形成	講義・質疑応答
15	まとめ・保育者の意義のふりかえり	講義
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他()																		
内容				適宜、グループワークをする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育学		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Early Childhood Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	董秋艶			
授業概要	本授業では、保育の歴史的及び社会的機能・役割に関する基礎的な知識と考えを身につけるとともに、これらの関連する課題を考察する。また、現代の保育政策や課題などを取り上げて、今後の保育のあり方について考える。これらの学びを通して保育者として、それを担い支えることへの社会的責任を自覚できることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格、幼稚園教諭1種免許の取得希望学生は、2年次に（保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習Ⅰの履修前に）履修すること（入学時に既修得単位として本学から認定を受けた者を除く）。			
テキスト	配付資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。			
参考図書・教材等	汐見稔幸・松本園子・他/日本の保育の歴史 子ども観と保育の歴史150年/萌文書林 日本保育学会編/保育学講座② 保育を支えるしくみ一制度と行政/東京大学出版社 幼稚園教育要領（平成29年告示 文部科学省）幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）等			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問や相談等は、授業終了後またはメールにて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育の歴史的及び社会的機能・役割に関する基礎的な知識と理解を身につける
	思考・判断・表現	(DP3)	保育に関する基礎的知識をもとに現在の保育に関する課題を自ら考える力を身につける
		(DP4)	自ら考えた保育の課題を学術的な手法で表現できる力を有する
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	10	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30	10	10	10		60
思考・判断・表現	(DP3)	10	5		5		20
	(DP4)	10	5		5		20
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション(保育学とは何か?)	講義	保育について考える
2	映画『私は二歳』(1962 年)を見る ~子育てについて考える~	演習	映画感想文の作成
3	子育てとは何か、保育とは何か?	演習(映画感想文発表・ディスカッション)	本日のディスカッション内容を自分の言葉で整理する
4	保育の歴史① ~「子ども」って?	講義(配布資料を中心に)	予習・復習
5	保育の歴史② ~教育思想について	講義(配布資料を中心に)	予習・復習
6	保育の歴史③ ~保育の始まりと定着~	講義(配布資料を中心に)	予習・復習
7	子どもと保育① ~子どもの発達とは~	講義(配布資料を中心に)	予習・復習
8	子どもと保育② ~保育の「遊び」から「学び」への捉え方	講義(配布資料を中心に)	予習・復習

9	子どもと保育③ ～養護と教育の「一体性」とはどうか?～	講義 (配布資料を中心に)	予習・復習
10	子どもと保育④ ～保育者の専門性とは何か?	演習	本日のディスカッション内容を自分の言葉で整理する
11	保育制度① ～子育て支援とは?	講義 (配布資料を中心に)	予習・復習
12	保育制度② ～認定こども園はなぜ誕生したのか?	講義 (配布資料を中心に) ディスカッション	予習・復習
13	保育制度③ ～OECD の保育 (ECEC) 政策へのインパクト～	講義 (配布資料を中心に)	予習・復習
14	保育制度④ ～諸外国の保育制度・政策の動向～	講義 (配布資料を中心に)	予習・復習
15	まとめと学習のふりかえ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																
体験学習/調査学習																
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																
その他 ()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉 I		単位	2
科目名（英語）	Social Welfare I		授業コード	
必修・選択		関連資格	保育士	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	杉野寿子			
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解するとともに、社会福祉の制度や実施体系、相談援助、利用者の保護に関わる仕組み、近年の動向や課題について学ぶ。講義形式だけでなく、学生自ら社会の問題に主体的に考えることができるよう、ディスカッションやグループ発表などの授業展開を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。			
参考図書・教材等	直島正樹・原田俊加奈編「図解で学ぶ保育 社会福祉」萌文書林、2017年、2,100円 倉石哲也・鶴宏史「保育ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房、2019年、2,200円 日本保育ソーシャルワーク学会編「改訂版保育ソーシャルワークの世界」2018年、2,000円 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」みらい、2016年			
実務経験を生かした授業	児童福祉施設、障害者施設、高齢者施設での実務経験を生かし、社会福祉の理念、制度、相談援助等の基礎について、事例を挙げながら講義する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、ソーシャルワークについて理解し説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解し、社会福祉の制度や実施体系、相談援助、利用者の保護に関わる仕組み、近年の動向や課題について意見が述べられる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解するとともに、社会福祉の制度や実施体系、相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	10	20	10			
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	社会福祉とは：現代社会と私たちの生活	講義、意見交換	現代社会の諸問題を挙げる
2	少子高齢化社会における子育て支援	講義	社会の変化と少子高齢化について調べる
3	子ども家庭支援：子どもの権利、子どもの貧困	講義、グループ討議	子どもの貧困について調べる
4	児童家庭福祉に関わる行政機関と法制度	講義	配布資料を読む、福祉行政について調べる
5	社会福祉サービス利用のしくみ、社会的養護、児童福祉施設	講義	配布資料を読む
6	社会保障制度のしくみ、低所得者の福祉（生活保護制度）	講義	配布資料を読む
7	障がいのある人（子ども）の福祉、障がいのとらえ方	講義、グループ討議	配布資料を読む
8	利用者の権利擁護と苦情解決	講義	配布資料を読む

9	ソーシャルワークの意義と機能、保育とソーシャルワーク	講義	参考図書を読む
10	ソーシャルワークの理念、原則、過程	講義	参考図書を読む
11	ソーシャルワークの方法と技術（1）	講義、グループ演習	参考図書を読む
12	ソーシャルワークの方法と技術（2）	講義、グループ演習	参考図書を読む
13	保育におけるソーシャルワークの実際	講義、グループ討議	配布資料を読む
14	世界の福祉	講義、意見交換	海外の福祉について調べる
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○		○				○				○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Social WelfareⅡ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	<p>国内外の社会福祉の動向、社会福祉と保育の関連、社会的養護の動向などを題材に挙げ、講義とディスカッションを中心に授業展開する。また、学生自身が関心のある領域における社会福祉について理解を深め、プレゼンテーションを行う。福祉の関係機関への見学も行う（日程については授業開始後に案内）。</p> <p>学生の関心に応じた内容も取り入れ、福祉や保育の現場を訪問して、理論と実践の連関を深める。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉Ⅰ」のほか、「社会的養護」「社会的養護内容Ⅰ」を受講済みであること。				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	児童福祉施設、障害者施設、高齢者施設での実務経験を生かし、社会福祉の理念、制度、相談援助等の基礎について、事例を挙げながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会福祉の意義、国内外の社会福祉の動向、さまざまな社会的養護の状況、生活に困難をかかえる人への支援について理解し、述べることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	自らの課題を見つけ、それについて調べ、論理的にまとめることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護、子育て支援、貧困と保育など、社会福祉に関するテーマについて、国内外の事例等を検討しながら現代社会における課題を述べるができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護、子育て支援、貧困と保育など、社会福祉に関するテーマについて総合的に理解し、その概要を説明できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発表	その他	合計
総合評価割合		10	20	20	50		
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○	○		
思考・判断・表現	(DP3)	○	○		○		
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義、グループ討議	社会福祉の意義や理念について調べる
2	社会福祉の意義	講義、グループ討議	現代社会の課題について挙げる
3	基本的人権の尊重を考える：ハンセン病の歴史から考える	講義、グループ討議	日本が行っていたハンセン病施策について調べる
4	社会福祉と権利擁護	講義、グループ討議	権利擁護について調べる
5	持続可能な開発目標(SDGs)：地球上の誰一人として取り残さない	講義、グループ討議	SDGsについて調べる
6	SDGsと海外の子どもたち	講義、グループ討議	配布資料を読む
7	SDGsと日本の子どもたち	講義、グループ討議	配布資料を読む
8	福祉施設等への見学と交流①	学外授業	訪問先について調べる、レポート作成

9	社会的養護と保育ソーシャルワーク①	講義、グループ討議	配布資料、参考図書を読む
10	社会的養護と保育ソーシャルワーク②	講義、グループ討議	参考図書を読む
11	福祉施設等への見学と交流②	学外授業	訪問先について調べる、レポート作成
12	福祉課題について考える（学生によるテーマ）①	グループ討議	テーマについて調べる
13	福祉課題について考える（学生によるテーマ）②	グループ討議	テーマについて調べる
14	学生による発表	個別での発表	海外の福祉について調べる
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習										○			○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○		
その他（プレゼン）																○	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	子ども家庭福祉	単位	2
科目名（英語）	Family and Child Welfare	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	西原尚之		
授業概要	本授業は児童福祉領域において専門職、とくに保育士になろうとする学生にたいして児童家庭福祉の基本的な知識を学習してもらうことを目的としています。具体的には児童福祉関連の法制度の概要を紹介した後、社会的養護、子ども虐待、子どもの貧困、障がい児福祉などの各論を取り上げます		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	使用しません。レジュメや必要な資料は授業で配布します。		
参考図書 ・教材等	授業で適宜紹介します。		
実務経験を 生かした授業	児童相談所の児童心理司経験者（担当教員）が経験事例などをもとに児童家庭福祉支援の方法を解説する。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見は「受講カード」で対応します。 ・授業後の質問、意見も歓迎します。 		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉の理念と法制度について説明できる。 ・現代社会における子どもの権利について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職として児童家庭福祉の理念にもとづきどのような支援が必要かを論理的に述べるができる。 ・現代社会の児童家庭福祉的課題がどのような背景から起るかを理解し、支援ネットワークのなかで保育士として果たすべき役割を述べるができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を十分に理解し、それを的確にまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

<p>児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を十分に理解し、それを的確にまとめることができる。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>
<p>児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を十分に理解し、それをまとめることができる。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を理解し、それをまとめることができる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題をある程度理解し、それをある程度まとめることができる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>児童福祉領域における法制度、及び現在注目されている児童福祉の課題を十分に理解できていない。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)	○				○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	
2	現代社会における児童家庭福祉の位置づけ	講義	自分の家族と地域の関係を吟味しておく
3	多様化する家族と児童家庭福祉	講義	家族の形の変化を調べておく
4	子どもの権利の歴史の変遷:子ども権利条約の意義	講義	子どもの権利条約を一読しておく
5	児童家庭福祉の法制度	講義	児童福祉法について調べておく
6	児童家庭福祉の実施体制と専門職	講義	児童福祉領域の専門機関と施設について調べておく
7	児童家庭福祉の現状と課題(1):社会的養護の概要	講義	里親について調べておく
8	児童家庭福祉の現状と課題(2):児童虐待の概要	講義	児童虐待の現状を調べておく
9	児童家庭福祉の現状と課題(3):被虐待児の理解と支援	講義	トラウマと愛着障害について調べておく
10	児童家庭福祉の現状と課題(4):障がい児とその家族の理解	講義	障害受容について調べておく
11	児童家庭福祉の現状と課題(5):障がい児領域の法制度	講義	障がい児施設について調べておく
12	児童家庭福祉の現状と課題(6):子どもの貧困	講義	子どもの貧困関連の書籍を読んでおく
13	児童家庭福祉の現状と課題(7):ひとり親家庭	講義	ひとり親家庭の困難について調べておく
14	児童家庭福祉の支援の実際(事例)	講義	事例の感想をまとめておく
15	まとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	子ども家庭支援論			単位	2
科目名（英語）	Family and Child Support Theory			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的、特に保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義を理解し、子ども家庭に対する支援の体制や家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携および現状と課題について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉Ⅰ」を履修済みまたは履修中であること。				
テキスト	「保育と子ども家庭支援論」井村圭壮ほか，勁草書房，2020年				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	子育て家庭を取り巻く社会状況と子育て家庭に対する支援の意義・目的、課題について述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	家庭支援に関する保育者の役割を理解し、事例に関する自分の意見を述べるができる。
		(DP4)	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携についてまとめることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の方法について説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況、保育士の役割について述べるができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み			合計
総合評価割合		50	10	30	10			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)	○		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回:通年) 90分 (30回:半期2コマ連続)
1	子ども家庭支援の意義と必要性	講義、ディスカッション	第1、2章を読む
2	子ども家庭支援の目的と機能	講義、グループワーク	第1、2章を読む
3	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義	講義、グループワーク	配布資料を読む
4	子どもの育ちの喜びの共有	講義、グループワーク	配布資料を読む
5	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	講義、グループワーク	配布資料を読む
6	保育士に求められる基本的態度	講義、グループワーク	第3～5章を読む
7	家庭の状況に応じた支援	講義、グループワーク (子育て経験者から話を聞く)	第6、7章を読む
8	地域の社会資源の活用	講義、グループワーク	第9、10章を読む
9	子育て支援施策・次世代育成支援事業など(1)	ジグソー(教え合う)	子育て支援施策や社会資源について調べる
10	子育て支援施策・次世代育成支援事業など(2)	ジグソー(教え合う)	子育て支援施策や社会資源について調べる

11	保育所等を利用する家庭への支援	講義、グループワーク	第12章を読む
12	地域の子育て家庭への支援	学外授業：子育て支援の現場を訪問	訪問先について調べる
13	要保護児童と家庭への支援	講義、グループワーク	第14章を読む
14	家庭支援における課題	講義、グループワーク	第15章を読む
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習													○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
その他（ジグソー）											○	○					
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会的養護Ⅰ			単位	2
科目名（英語）	Childhood Social Care Ⅰ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	社会的養護の意義と歴史、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について理解するとともに、社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解し、社会的養護の現状と課題について学ぶ。社会的養護の実際の支援例を参考に検討していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉Ⅰ」「子ども家庭福祉」を履修済み、または履修中のこと。				
テキスト	「図解で学ぶ保育 社会的養護内容Ⅰ」原田旬哉ほか、萌文書林				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	入所型・通所型の児童福祉施設での実務経験、および子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会的養護と児童福祉の関連を理解し、社会的養護の概念、歴史の変遷、制度を述べることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的養護における保育者の子どもとその家族に対する生活支援について、事例より考察し、考えを述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会的養護と家庭的養護の課題を抽出し、探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会的養護の意義と歴史、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について理解し、社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について、また社会的養護の現状と課題を説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解し、社会的養護の現状と課題について述べるができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発表	その他	合計
総合評価割合	50		20		30		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○	○		
思考・判断・表現	(DP3)	○		○	○		
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○		
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	現代社会と社会的養護	講義、討議	テキスト序章を読む
2	社会的養護の歴史	講義、討議	テキスト第4章を読む
3	社会的養護の仕組みと実施体系	講義	テキスト第1章を読む
4	社会的養護に関する機関と専門職	講義	テキスト第1章を読む
5	社会的養護関連施設(1)	DVD視聴、グループ討議	テキスト第2、3章を読む
6	社会的養護の関連施設(2)	DVD視聴、グループ討議	テキスト第2、3章を読む
7	支援の実際	講義、討議	テキスト第5章を読む
8	学外授業:社会的養護の現場の理解	学外授業	テキスト第5章を読む、レポート作成
9	里親制度と里親支援(1)	講義、討議	テキスト第7章を読む
10	里親制度と里親支援(2)	講義、討議	テキスト第7章を読む
11	社会的養育ビジョンとは	講義	配布資料を読む

12	社会的養護におけるソーシャルワーク	講義、討議	テキスト第6章を読む
13	社会的養護についての発表(1)	個別での発表	発表準備とまとめ
14	社会的養護についての発表(2)	個別での発表	発表準備とまとめ
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習											○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○			○	○	○		○	○		○				
その他 (プレゼン)																	○	○	
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼児理解の理論と方法			単位	2
科目名（英語）	Theory and Methodology for the Understanding of Children			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭1種免許		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	上村 眞生				
授業概要	保育者が保育を計画・実施する際、子どもの発達を含む現状をより正確に把握することは必要不可欠である。そこで本講義では、子ども理解のための基礎的な理論及びアセスメントのあり方を概説する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業	実践の中で保育者がどのような観点で幼児を理解しているかを、保育現場での観察を踏まえて解説する			授業中の撮影	×
学習相談 ・助言体制	メールにて受付				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	複数の発達理論・教育論・教育思想を基盤に、自身の幼児観を持つ。
	思考・判断・表現	(DP3)	先行研究の概観を踏まえて、自身の考えを他者に説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	客観的手法によって幼児の記録をとることができる。 観察記録を基に幼児の行動の意味や幼児の思考について分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
多角的に子どもを理解するために複数の手立てを用いて観察し、客観的な記録、データ収集をした上で、考察することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
子どもを理解する手立てを身に付け、記録することができるようになる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
多角的に子どもを理解するために複数の手立てを用いて観察し、客観的な記録、データ収集をした上で、考察することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

子どもを理解するために複数の手立てを用いて観察し、客観的な記録、データ収集をすることができる
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
子どもを理解する手立てを身に付け、客観的な記録をすることができるようになる。
C：60～69 到達目標を達成している。
子どもを理解する手立てを身に付け、記録することができるようになる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
記録をどのように子ども理解に結びつけるかが理解できていない 主観的な記録しかできない 自身の学修・資質向上に向けた意欲がない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				30	60		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)				○			
思考・判断・表現	(DP3)				○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション・子ども観についての概説	講義	自身の子ども観を意識する。
2	幼児理解の必要性について	講義	実習の振り返り
3	アセスメントの意義と目的	講義	授業で解説する各アセスメント手法について課題を出すので、記録を提出する。
4	アセスメントの方法1－記録方法1－	講義・演習	
5	アセスメントの方法2－記録方法2－	講義・演習	
6	アセスメントの方法3－記録方法3－	講義・演習	
7	アセスメントの方法4－記録方法4－	講義・演習	
8	発達についての基礎理論1	講義・発表	グループで発表準備をする。
9	発達についての基礎理論2	講義・発表	

10	発達についての基礎理論3	講義・発表	
11	幼児の発達の実際1－行動観察－	演習・講義	観察記録を作成しそれについて発表するための準備をする。
12	幼児の発達の実際2－観察記録の検討－	演習・講義	
13	幼児の発達の実際3－幼児の行動・思考の分析－	演習・講義	
14	幼児の発達の実際まとめ	発表	
15	まとめ	講義	課題レポートの作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習							○	○	○	○				○				
体験学習／調査学習											○	○	○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															○	○	○	
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	子どもの食と栄養		単位	2
科目名（英語）	Childhood Food and Nutrition		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	青木 哲美			
授業概要	子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割を果たしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学ぶ。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性についても理解をする。保育者も自らの食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み“食を営む力”を培う「食育」を実践し、活動展開する重要性についてもさらに理解を深める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	「子どもの食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子（編集）中央法規、[副教材]「646 食品成分表」646 食品成分表編集委員会（編集）東京法令出版株式会社			
参考図書・教材等	「子どもがかがやく-乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会（編）児童育成協会児童給食事業部、「平成28年度版-食育白書」農林水産省（編）、「元気な脳が君たちの未来をひらく」川島隆太著 くもん出版、「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子（編著）萌文書林			
実務経験を生かした授業	総合病院管理栄養士として食物アレルギーに対応した経験を持つ教員が、具体例を提示し、厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしながら緊急時個別対応票、経過記録票に実際に記入し対応、日常生活への配慮について考える。（28、29回目）		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも可。授業終了後、もしくは毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次回の授業時に質問に答える。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について理解できる。 地域社会における食文化との関わりのなかで食生活体験の重要性を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。 自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育していくことの重要性を理解できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	家庭で、また児童福祉施設での子どもの食生活の現状を把握し、健全な食習慣の確立を図り食育指導していくことの重要性についても理解できる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	自らも食生活を振り返りながら常に支援者であることに意識を持ち心身の健康に心がける。

	(DP10)	保育者として食育活動に関する方法について展開できる基礎的能力を身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。	
発育・発達のみごましい時期の子供の食生活と栄養の特性について理解できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。	
自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知識を保育の実践活動へ発展させる事が出来る。		
成績評価の基準		
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
子供の食生活と栄養の特性について理解したうえで、自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知識を保育の実践活動へ発展させる事が出来る。		
A：80～89 履修目標を達成している。		
子供の食生活と栄養の特性について、基本的な事は理解でき、実践できる。		
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
子供の食生活と栄養の特性について、基本的な事は理解できている。		
C：60～69 到達目標を達成している。		
子供の食生活と栄養の特性に関する用語の意味が理解できる。		
不可：～59 到達目標を達成できていない。		
子供の食生活と栄養の特性について理解できていない。		

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	演習	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50	10	10	10	10	10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○	○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)	○	○	○	○	○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)	○	○	○	○	○	
	(DP10)	○	○	○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）

1	授業概要、子どもの健康と食生活の意義	オリエンテーション・講義 講義 第1講	テキスト 第1講 Step1
2	子どもの食生活の現状と課題	演習 (講義)	テキスト第1講 Step2 食の安全の記事
3	・栄養の基本・「食べ物のゆくえ」理解のための絵と説明	講義	テキスト第1講、食の安全の記事 Step 3 第2講 Step1 食品成分表、参考書
4	・「適切な栄養」とは ・人のエネルギーの蓄え方、使い方	演習・講義	第2講 食品成分表 Step 2
5	五大栄養素の種類と働き 水分代謝	講義	テキスト第2講 Step 3 テキスト第3講 Step1 食品成分表
6	ビタミン、ミネラルの生理作用、欠乏症・ファイトケミカル	演習・講義	テキスト 第3講 Step2 食品成分表
7	「日本人の食事摂取基準」「食事バランスガイド」「食生活指針」	講義	テキスト 第3講 Step 3 第4講 Step1 食品成分表
8	食事バランスガイドで自分の食生活を点検	演習・講義	テキスト 第4講 Step2 食品成分表
9	献立作成・調理の基本	講義	テキスト第4講 Step 3 テキスト第5講 Step1 食品成分表
10	1日の献立作成 日本人の食生活の課題を把握する	演習・講義	テキスト 第5講 Step2 郷土料理資料
11	乳児期の授乳の意義と食生活	講義	テキスト第5講 Step 3 テキスト第6講 Step1 食品成分表
12	混合栄養や母乳育児の留意点について理解を深める	演習・講義	テキスト 第6講 Step2 食品成分表
13	乳児期の離乳の意義と食生活	講義	テキスト第6講 Step 3 テキスト第7講 Step1
14	手づかみ食べるの意義・支援について理解を深める	演習・講義	テキスト第7講 Step2
15	幼児期の心身の発達と食生活	講義・演習	テキスト第7講 Step3 テキスト第8講 Step1
16	3~5歳児のお弁当を考える おやつ大切さを学び家庭支援を考える	講義・演習	テキスト 第8講 Step 2
17	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	講義・演習	テキスト 第8講 Step 3 テキスト 第9講 Step1
18	学校給食の特徴を知る・栄養教諭制度や母性保護を理解する	演習・講義	テキスト 第9講 Step 2
19	食育基本法や保育所保育指針について学ぶ	講義・演習	テキスト 第9講 Step 3 テキスト 第10講 Step1
20	「食を営む力」を学ぶ。保育での「養護」と「教育」の関係を知る	演習・講義	テキスト 第10講 Step2
21	食育の基本と内容を学ぶ	講義	テキスト 第10講 Step 3 テキスト 第11講 Step1
22	保育所における食育の年間計画を作成	演習・講義	テキスト 第11講 Step2
23	地域や家庭と連携した食育の展開について学ぶ	講義	テキスト 第11講 Step 3 テキスト 第12講 Step1
24	「食育だより」をつくってみよう	演習・講義	第12講 Step 2,既存の食育計画
25	献立作成・調理の基本	講義	テキスト 第12講 Step 3 テキスト 第13講 Step1
26	1日の献立作成 日本人の食生活の課題を把握する	演習・講義	テキスト 第13講 Step2
27	子供の疾病及び体調不良の特徴と対応について理解する	講義	テキスト 第13講 Step 3 テキスト 第14講 Step1
28	経口補液をつくって経口補液療法を実践してみよう	実習・講義	テキスト 第14講 Step 2
29	食物アレルギー、摂食障害について学ぶ	講義	テキスト 第14講 Step 3 テキスト 第15講 Step1

30	食物アレルギーの緊急対応、日常生活への配慮について学ぶ まとめ	演習・講義	テキスト 第15講 Step2
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	少人数			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○		○		○		○		○		○		○					
その他 ()																			
内容	少人数のグループに分かれて課題作成・検討を行い、結果を発表する。																		

講義回数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	少人数
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習													○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○		○		○		○		○		○				○	
その他 ()																
内容	少人数のグループに分かれて課題作成・検討を行い、結果を発表する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	造形 I			単位	1
科目名（英語）	Plastic Art I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	櫻井晋伍				
授業概要	<p>本科目では、造形の製作課題を通して感性を豊かにするとともに、幼児の造形教育に必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>様々な描画素材を用いた作品製作を実践することで、造形に対する理解を深めるとともに、指導者に必要な応用力と創造性を身に付ける。また、幼児の造形活動の実践時における安全指導の方法についても学ぶ。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得希望者に限ります。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	原則として、授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	乳幼児期の造形教育に関する知識を理解し、説明出来る。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	グループワークやレポート課題等に主体的・積極的に取り組むことができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	乳幼児の遊びに必要な造形材料の使い方を習得し、それを用いた表現活動ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
乳幼児の造形教育に必要な知識・技能を習得し、それを応用した表現が出来る。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
乳幼児の造形教育に必要な知識・技能を習得している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20			50	30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)					○		
備考		「その他」については、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や、授業中の発言・態度、準備学習の取組状況を元に評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション 授業の概要、評価方法等の説明	講義、演習	今後の製作課題の構想を練ること。
2	切り紙製作①はさみを使った作品作りの基本	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
3	切り紙製作②ペーパーアートの創作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
4	紙立体・ポップアップカード製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
5	さまざまな表現テクニック① スタンプングI	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
6	さまざまな表現テクニック② スタンプングII	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
7	さまざまな表現テクニック③ マーブリング	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
8	さまざまな表現テクニック④ デカルコマニー、ブローイング	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
9	壁面製作① 年間行事にちなんだモチーフを表現する	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
10	壁面製作② 図案や切り紙などの応用技法	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。

11	プラ板制作 ぬり絵の要素が入った造形活動について	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
12	粘土造形① 三次元での基礎的な造形感覚を養う	演習	構想スケッチを完成させること。
13	粘土造形② 紙粘土を用いた立体造形製作	演習	彩色時のイメージを明確化させること。
14	粘土造形③ 彩色を施し、色彩と形態の関係について学ぶ	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
15	作品講評、まとめ	講義、演習	配布したプリント等を読み直して学習内容の振り返りを行い、レポートにまとめること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				個々の技能に応じた製作指導を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	造形Ⅱ			単位	1
科目名（英語）	Plastic Art Ⅱ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	櫻井晋伍				
授業概要	<p>本科目では、幼児の造形活動における指導力を身に付けるために、様々な素材・技法等に触れながら、実践的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>現場で用いられることの多い身近な素材を使って作品製作を行い、造形活動の内容を構想する基礎的な技能を養う。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得希望者に限ります。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	原則として、授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	乳幼児期の造形教育に関する知識を理解し、説明出来る。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	グループワークやレポート課題等に主体的・積極的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	乳幼児の遊びに必要な造形材料の使い方を習得し、それをを用いた表現活動ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
乳幼児の造形教育に必要な知識・技能を習得し、それを応用した表現が出来る。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
乳幼児の造形教育に必要な知識・技能を習得している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20			50	30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)					○		
備考		「その他」については、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や、授業中の発言・態度、準備学習の取組状況を元に評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 授業の概要、評価方法等の説明	講義、演習	今後の製作課題の構想を練ること。
2	「折り染め」活動のポイントと製作の実践	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
3	「クロッキー」グループでの似顔絵製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
4	「マジックスクリーン製作」視覚教材について	講義、演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
5	「折り紙教材製作①」教材のポイント解説と製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
6	「折り紙教材製作②」製作の仕上げ	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
7	「粉絵具を使った絵画制作」絵具の種類と粉絵具の特性	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
8	「石粉粘土キーホルダー製作①」ポイント解説と製作	演習	彩色時のイメージを明確化させること。
9	「石粉粘土キーホルダー製作②」製作の仕上げ	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
10	「裁縫の技術を使った教材製作①」手袋シアターの製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
11	「裁縫の技術を使った教材製作②」手袋シアター製作の続	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。

	き		
12	「裁縫の技術を使った教材製作③」手袋シアター製作の続き	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
13	「裁縫の技術を使った教材製作④」手袋シアターの仕上げ	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
14	「手袋シアターの発表会」教材発表と振り返り	演習	振り返りのレポートをまとめること。
15	作品講評、まとめ	講義、演習	配布したプリント等を読み直して学習内容の振り返りを行い、レポートにまとめること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				個々の技能に応じた製作指導を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	音楽 I	単位	2
科目名（英語）	Music I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許
標準履修年次	1年	開講時期	通年
担当教員	鷲野彰子・綾部資子・柏村晶子・馬渡英子		
授業概要	基本的な楽譜の読譜技能を身につけ、リズム練習や初見練習を継続的に行うことで、旋律部分のピアノ初見演奏技能を向上させる。また、弾き歌い課題 20 曲（No.1～No.20、前奏付き、暗譜、歌詞は 1 番のみ）を習得すると共に、各自のピアノ演奏技能を向上させる。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。		
テキスト	幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育（神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、教育芸術社）。その他、弾き歌い課題等は別途配布する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の撮影 <input type="radio"/>
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	保育の場における音楽活動に必要な、基本的な音楽理論の知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保育の場における音楽活動を意識して演奏することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	より高度な演奏技能を身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子どもと一緒に歌うことを想定して、指定された課題曲を楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
指定された課題曲を楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)					○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○		○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	保育・幼児教育における領域「表現」と音楽演奏(うたとピアノ)の技術	説明	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
2	楽譜の読譜(音高、拍子、リズム)、ピアノ基礎練習	講義・集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
3	リズム練習、ピアノ基礎練習	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
4	リズム練習、弾き歌い課題 No.1-3	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
5	弾き歌い課題 (No.1-3) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
6	リズム練習、弾き歌い課題 No.4	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
7	リズム練習、弾き歌い課題 No.5	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
8	リズム練習、弾き歌い課題 No.6	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
9	弾き歌い課題 (No.1-6) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
10	弾き歌い課題 No.7	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
11	弾き歌い課題 No.8	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
12	弾き歌い課題 No.9	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
13	弾き歌い課題 No.10	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
14	弾き歌い課題 10曲 (No.1-10) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する

15	弾き歌い発表会 (第1回)	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
16	音楽理論 (長調の構造)	講義・集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
17	カデンツ (ハ長調)、 弾き歌い課題 No.11-12、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
18	カデンツ (ハ長調)、 弾き歌い課題 No.13、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
19	カデンツ (様々な長調)、 弾き歌い課題 No.14-15、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
20	初見練習 (変ロ長調曲の旋律部分のみ)、 弾き歌い課題 No.16	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
21	初見練習 (様々な長調曲の旋律部分のみ)、 弾き歌い課題 No.17	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
22	弾き歌い課題 (No.11-17) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
23	弾き歌い課題 No.18、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
24	弾き歌い課題 No.19、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
25	弾き歌い課題 No.20、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
26	弾き歌い課題 (No.11-20) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
27	弾き歌い発表会 (第2回)	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
28	音楽理論の復習、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
29	ピアノ・ソロ曲発表会のリハーサル	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
30	ピアノ・ソロ曲発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容				個人レッスンでは個々の技術に応じた曲の個人指導を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	音楽Ⅱ	単位	1
科目名（英語）	MusicⅡ	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	鷲野彰子・綾部資子・柏村晶子・馬渡英子		
授業概要	基本的な楽譜の読譜技能を身につけ、比較的演奏の容易な弾き歌い曲（ハ長調）の初見練習を継続的に行うことでピアノ初見演奏技能の向上、そして各自のピアノ演奏技能の向上を目指す。また弾き歌い課題10曲（No.21～No.30、前奏付き、暗譜、歌詞は1番のみ）については、幼児と一緒に歌いながら弾けるよう目線や雰囲気づくりを意識した演奏方法を習得する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。		
テキスト	幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育（神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、教育芸術社）。その他、弾き歌い課題等は別途配布する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業		授業中の 撮影	○
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育の場における音楽活動に必要な、基本的な音楽理論の知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育の場における音楽活動を意識して演奏することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	より高度な演奏技能を身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
楽譜の初見能力と各自のピアノ演奏技能を向上させ、指定された課題曲を、保育・幼児教育の現場における活動を想定して楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
各自のピアノ演奏技能を向上させ、また、指定された課題曲を、保育・幼児教育の現場における活動を想定して楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B: 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60~69	到達目標を達成している。
不可: ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					50		50	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)						○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○		○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○		○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	初見演奏の基礎	説明	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
2	初見演奏(旋律)の練習	講義・集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
3	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.21-22	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
4	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.23-24	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
5	初見演奏(ハ長調)、弾き歌い課題(No.21-24)の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
6	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.25	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
7	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.26	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
8	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.27	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
9	初見演奏(ハ長調)、弾き歌い課題(No.21-27)の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
10	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.28	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
11	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.29	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
12	ピアノ・ソロ曲、弾き歌い課題 No.30	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
13	ピアノ・ソロ曲発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する

14	弾き歌い課題10曲 (No.21-30) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
15	弾き歌い発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				個人レッスンでは個々の技術に応じた曲の個人指導を行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	音楽III	単位	1
科目名（英語）	MusicIII	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	鷲野彰子・綾部資子・柏村晶子・馬渡英子		
授業概要	様々なパートナーと共に、2人または3人組で全4曲の連弾演奏を行う。その際、旋律と伴奏部分のバランス等に気を配り、共演相手を意識した演奏ができることを目指す。また弾き歌い課題10曲（No.31～No.40、前奏付き、暗譜、歌詞は1番のみ）については、幼児と一緒に歌いながら弾けるよう、目線や雰囲気づくりを意識した演奏方法を習得する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。		
テキスト	幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育（神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、教育芸術社）。その他、弾き歌い課題等は別途配布する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業		授業中の 撮影	○
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育の場における音楽活動に必要な、基本的な音楽理論の知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育の場における音楽活動や一緒に演奏する共演者を意識して演奏することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	より高度な演奏技能を身につけ、共演者を意識して演奏することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
4手及び6手連弾を、共演相手を意識しながら、旋律と伴奏部分のバランス等、細かな表現部分にまで気を配った演奏ができるようになる。また、指定された課題曲を、保育・幼児教育の現場における活動を想定して楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
4手及び6手連弾を、共演相手を意識しながら演奏でき、また、指定された課題曲を楽譜なしで弾き歌いすることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					50		50	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)						○	
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)				○		○	
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)				○		○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	連弾演奏の基礎	説明	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
2	連弾 (4 手・1 曲目) の練習	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
3	連弾曲 (4 手・1 曲目) 発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
4	弾き歌い課題 (No.31-33)	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
5	連弾 (4 手・2 曲目) の練習	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
6	連弾 (4 手・2 曲目) 発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
7	弾き歌い課題 (No.34-37)	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
8	連弾 (6 手) の練習	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
9	弾き歌い課題 (No.38-40)	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
10	連弾 (6 手) 発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
11	弾き歌い課題 (No.31-40) の復習	集団レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
12	弾き歌い発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する

13	連弾 (4手・3曲目) の練習	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
14	連弾 (4手・3曲目) 発表会のリハーサル	集団・個人レッスン	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
15	連弾 (4手・3曲目) 発表会	発表	弾き歌い曲とピアノ曲を練習する
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容				個人レッスンでは個々の技術に応じた曲の個人指導を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	体育 I		単位	1
科目名（英語）	Physical Education for Children I		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭 1 種免許、保育士資格	
標準履修年次	2 年	開講時期	通年	
担当教員	池田孝博			
授業概要	幼児期における身体活動の意義や運動能力の発達について学習する。また、運動指導や遊びの支援の場面で必要となる実技および安全配慮について体験的に学習する。さらに、保育現場における運動会について理解し、そのために必要な準備・練習などを学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格、幼稚園教諭免許を取得する意思を有し、学外の保育現場でそれに沿った振る舞いができること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	青柳領『子どもの発育発達と健康』ナカニシヤ出版、2006 年、¥3200			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	幼児期における身体および運動能力の発育発達の特徴を理解している。運動遊びに関する運動技能のコツ、練習方法について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	運動会およびその練習場面で子どもに関わることができる。与えられた学習課題に取り組む姿勢を示すことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	マット、縄（長短）、鉄棒等を用いた運動遊びや水遊びに関する基本的なスキルを修得している。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
幼児期における身体および運動能力の発育発達の特徴を十分に理解している。運動遊びに関する運動技能のコツ、練習方法について明確に説明できる。運動会およびその練習場面で積極的に子どもに関わることができる。与えられた学習課題に積極的に取り組む姿勢を示すことができる。マット、縄（長短）、鉄棒等を用いた運動遊びや水遊びに関する基本および応用スキルを修得している。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
幼児期における身体および運動能力の発育発達の特徴を理解している。運動遊びに関する運動技能のコツ、練習方法について説明できる。運動会およびその練習場面で子どもに関わることができる。与えられた学習課題に取り組む姿勢を示すことができる。マット、縄（長短）、鉄棒等を用いた運動遊びや水遊びに関する基本的なスキルを修得している。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			10	10			80	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		○	○			○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	幼児期における運動指導の考え方	講義	本時の復習、次回の実技内容の予習
2	マット運動の実技と指導法（支持系運動の基礎）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
3	マット運動の実技と指導法（支持系運動の応用）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
4	マット運動の実技と指導法（回転系運動の基礎）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
5	マット運動の実技と指導法（回転系運動の応用）	実技、実技テスト	本時の復習
6	水遊びと水難事故のための安全指導	講義、小テスト	本時の復習、次回の実技内容の予習
7	着衣泳（入水、浮き身）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
8	着衣泳（潜水、顔挙げ泳ぎ）	実技、実技テスト	本時の復習 次回の実験学習の準備
9	運動会について 年中児の練習の実際	実技、レポート課題	本時の振り返り 課題および次回の準備
10	運動会について 年長児の練習の実際	実技、レポート課題	本時の振り返り 課題および次回の予習

11	鉄棒運動の実技と指導法（基礎）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
12	鉄棒運動の実技と指導法（応用）	実技、実技テスト	本時の復習、次回の実技内容の予習
13	長縄・短縄の実技と指導法（基礎）	実技	本時の復習、次回の実技内容の予習
14	長縄・短縄の実技と指導法（応用）	実技、実技テスト	本時の復習
15	授業の総括 幼児期における運動指導の在り方	講義、小テスト	本時の復習、提出課題の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習												○	○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（実技授業）					○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
内容				保育現場での体験学習及び実技授業														

I. 科目情報

科目名（日本語）	体育 II		単位	2
科目名（英語）	Physical Education for Children II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭 1 種免許、保育士資格	
標準履修年次	3 年	開講時期	通年	
担当教員	池田孝博			
授業概要	幼児の運動指導や運動遊びの支援の計画を作成・実践する。また、幼児の運動能力テストの意義や具体的内容を理解し、その測定方法およびデータの集計分析方法について学習する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格、幼稚園教諭免許を取得する意思を有し、学外の保育現場でそれに沿った振る舞いができること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	青柳領『子どもの発育発達と健康』ナカニシヤ出版、2006 年、¥3200			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	幼児の運動能力測定の意義およびその発達を目的とした運動指導や遊びの支援に関する知識を有している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	作成された計画に基づいて幼児に適切に関わる態度を有している。与えられた学習課題に取り組む姿勢を示すことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	幼児の対象とした運動能力測定を計画し、実施できる。運動指導や運動遊び支援の計画を作成し、実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	幼児の運動能力測定の意義およびその発達を目的とした運動指導や遊びの支援に関する知識を有している。作成された計画に基づいて幼児に適切に関わる態度を有している。与えられた学習課題に取り組む姿勢を示すことができる。幼児の対象とした運動能力測定を計画し、実施できる。運動指導や運動遊び支援の計画を作成し、実践できる。		

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		25	25			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)					○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考	DP6 は現場での学習態度、課題に取り組む姿勢、DP10 は計画実施に関わる技能						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	幼児期における運動指導とその評価についての考え方	講義	本時の復習、課題
2-3	幼児の体力・運動能力について	講義	本時の復習、課題
4-5	幼児の体力・運動能力の測定方法（基礎）	講義	本時の復習、課題
6-7	幼児の体力・運動能力の測定方法（応用）	講義・演習	本時の復習、次回の体験学習の準備
8-10	幼児の体力・運動能力測定の実際（年中児）	体験学習	本時の復習、次回の体験学習の準備
11-13	幼児の体力・運動能力測定の実際（年長児）	体験学習	本時の復習、計画作成の準備
14-15	幼児の運動指導計画の作成（年長児の縄跳び）	講義・演習	本時の復習、計画作成の準備
16-17	幼児の運動指導計画の作成（年中児の前転）	演習	本時の復習、次回の体験学習の準備
18-19	幼児の運動指導の実際（年長児の縄跳び）	体験学習	本時の復習、次回の体験学習の準備
20-21	幼児の運動指導の実際（年中児の前転）	体験学習	本時の復習、課題

22	幼児期における運動遊びの意義と目的	講義	本時の復習、計画作成の準備
23-24	幼児の運動遊びの援助計画の作成（鬼遊び）	演習	本時の復習、計画作成の準備
25-26	幼児の運動遊びの援助計画の作成（ボール遊び）	演習	本時の復習、次回の体験学習の準備
27-28	幼児の運動遊び援助の実際（鬼遊び）	体験学習	本時の復習、次回の体験学習の準備
29-30	幼児の運動遊び援助の実際（ボール遊び）	体験学習	本時の復習、提出課題の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2-3	4-5	6-7	8-10	11-13	14-15	16-17	18-19	20-21	22	23-24	25-26	27-28	29-30
発見学習／問題解決学習						○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
体験学習／調査学習							○	○			○	○				○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（実技授業）																	
内容			実施計画の作成と保育現場での体験学習														

I. 科目情報

科目名（日本語）	児童文学		単位	2
科目名（英語）	Children's Literature		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許・保育士資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	大久保 淳子			
授業概要	児童文学の定義や歴史について概説する。次に、乳幼児期は絵本や物語の世界を楽しみ、想像してイメージを豊かに広げていく時期であることを踏まえて、発達に応じた絵本・紙芝居について概説する。また、児童文学を素話やパネルシアター・ペープサートなどで表現することを学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成30年 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
参考図書 ・教材等	「児童文学論」 岩波現代文庫 リリアン・H.スミス（著）、石井 桃子（翻訳） 適宜、資料を配布する。			
実務経験を 生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での読書の現状・課題等を紹介しします。		授業中 の撮影	○
学習相談 ・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	子どもの生活と児童文学とのかかわりについて、専門的知識を体系的に説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	乳幼児の発達に応じた児童文学財について自ら調べ、判断することができる。
		(DP4)	児童文学の定義について、自ら意見を述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	児童文化財等を用いて、児童文学を専門的スキルで表現することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活と児童文学とのかかわりについて、専門的知識を体系的に説明することができる。 ・乳幼児の発達に応じた児童文学財について自ら調べ、判断することができる 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童文学の定義について、自ら意見を述べるすることができる。 ・児童文化財等を用いて、児童文学を専門的スキルで表現することができる。 		
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる		

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	50	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)			○				
	(DP4)				○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
1	オリエンテーション 児童文学の定義	講義	
2	児童文学の歴史	講義	
3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と児童文学との関連 1	講義・発表	事前：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。 事後：配布資料で復習をする。
4	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と児童文学との関連 2	講義・発表	
5	海外の児童文学 1 (イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・ギリシャ・北欧)	講義・発表	事前：幼児期の読み聞かせに適した児童文学を調べる。 事後：授業のまとめをする。
6	海外の児童文学 2 (アメリカ・中国)	講義・発表	
7	日本の児童文学 1 (明治・大正時代)	講義・発表	
8	日本の児童文学 2 (昭和時代以降)	講義・発表	
9	発達の視点からみる絵本・紙芝居 1 (0歳児～2歳児)	講義・発表	事前：発達段階に適した絵本を調べる。 事後：授業のまとめをする。

10	発達の視点からみる絵本・紙芝居 2 (3歳児)	講義・発表	
11	発達の視点からみる絵本・紙芝居 3 (4歳児)	講義・発表	
12	発達の視点からみる絵本・紙芝居 4 (5歳児)	講義・発表	
13	様々な視点からみる絵本・紙芝居 (行事)	講義・発表	
14	素話・様々な児童文化財 (パネル シアター・ペープサートなど)	講義・発表	事前：配布資料を読む。 事後：授業のまとめをする。
15	まとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他 ()																		
内容				第3回～14回：グループに分かれての読み聞かせや児童文化財を用いて発表をする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	子どもと遊び		単位	2
科目名（英語）	Child-appropriate Play Activities		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	大久保 淳子			
授業概要	幼児期の発達の特徴に配慮し、5領域を踏まえた「遊びを通しての総合的な指導」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意し、子どもの遊びを豊かに展開するための保育技術について検討する。さらに、指導計画の作成の仕方、適切な遊びの指導（援助）、教材研究（教材製作・その活用）について解説する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を履修中であることが望ましい。			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」平成30年 文部科学省 「保育所保育指針解説」平成30年 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省			
参考図書・教材等	適宜、紹介します。			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での遊びの現状・課題等を紹介	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	子どもの発達を踏まえて、様々な遊びに関する適切な指導（援助）を具体的に説明することができる
	思考・判断・表現	(DP3)	5領域のねらい・内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開する教材や保育技術を考察することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	様々な遊びを提示し、専門的スキルを実践に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達を踏まえて、様々な遊びに関する適切な指導（援助）を具体的に説明することができる 5領域のねらい・内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開する教材や保育技術を考察することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びを提示し、専門的スキルを実践に活かすことができる。 		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	30	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)			○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)			○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	遊びとは何か。	講義・ディスカッション	事前:「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の関連箇所を読む。 事後:配布資料の復習をする。
2	幼児教育における遊びについて		
3	遊びを通しての総合的な指導について		
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について		
5	遊びを豊かにする環境のあり方	講義・指導計画案の検討・教材研究	
6	発達段階において経験したい遊び	講義・教材研究	
7	3歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討	講義・ディスカッション	
8	4歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討		
9	5歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討		
10	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(健康な心と体)	1. 指導計画作成 2. 模擬保育	

	教材研究	3. 各自、評価・省察をする。	事前：指導計画を作成する。 事後：授業のまとめをする。
11	5 領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（自立心・協同性）・教材研究		
12	5 領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（道徳性・社会生活）・教材研究		
13	5 領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（思考力・自然・生命尊重）・教材研究		
14	5 領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（数量・図形、文字・言葉他）・教材研究		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																		
内容				適宜、グループワークを取り入れます。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	家庭支援論			単位	2
科目名（英語）	Family Support Theory			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	多様性が増す現代社会において変化し続ける家庭のあり方について理解し、保育者の役割を学ぶ。高度経済成長の頃の日本と現代の日本を比較しながら、社会や子育ての変化を理解し、現代の子育て家庭のニーズを探る。身近な子育て経験者に話を聞く機会をもつなどして理解を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	「保育と子ども家庭支援論」井村圭壮ほか，勁草書房，2020年				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況について述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	家庭支援に関する保育者の役割を理解し、事例に関する自分の意見を述べるができる。
		(DP4)	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携とはどうあるべきかについてまとめることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の方法について説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況、保育士の役割について述べるができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発	合計
総合評価割合	50	10	30	10		100
知識・理解	(DP1)					
	(DP2)	○	○	○		
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○	
	(DP4)	○		○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)					
	(DP6)					
技能	(DP7)					
	(DP8)					
	(DP9)					
	(DP10)					
備考						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	家族とは・家庭とは	講義、ディスカッション	第1、2章を読む
2	家族の意義と機能、家庭支援の必要性	講義、グループワーク	第1、2章を読む
3	現代の家庭における人間関係	講義、グループワーク	配布資料を読む
4	地域社会の変容と家庭支援	講義、グループワーク	配布資料を読む
5	男女共同参画社会とワークライフバランス	講義、グループワーク	配布資料を読む
6	保育士が行う家庭支援	講義、グループワーク	第3～5章を読む
7	家庭の状況に応じた支援	講義、グループワーク (子育て経験者から話を聞く)	第6、7章を読む
8	地域の社会資源の活用	講義、グループワーク	第9、10章を読む
9	子育て支援施策・次世代育成支援事業など(1)	ジグソー (調べたことを相互に教え合う)	子育て支援施策や社会資源について調べる
10	子育て支援施策・次世代育成支援事業など(2)	ジグソー (調べたことを相互に教え合う)	子育て支援施策や社会資源について調べる
11	保育所等を利用する家庭への支援	講義、グループワーク	第12章を読む

12	地域の子育て家庭への支援	学外授業：子育て支援の現場を訪問	訪問先について調べる
13	要保護児童と家庭への支援	講義、グループワーク	第14章を読む
14	家庭支援における課題	講義、グループワーク	第15章を読む
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習												○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
その他（ジグソー）									○	○						
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育課程論（幼児教育）			単位	2
科目名（英語）	Early-childhood Education Curriculum Theory			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	伊勢 慎				
授業概要	学生自らが教育課程を長期的な視点と、短期的な視点から理解するために、実際に指導計画を作成することを中心として、その評価までを学生同士で行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の幼稚園教諭免許に関する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）				
参考図書・教材等	適宜、授業の中で指示する。				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、保育内容について、現場の経験、実践を交え演習をする。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼稚園における教育課程と指導計画の役割、意義がわかる。指導計画の種類と、それぞれの特性がわかる。
	思考・判断・表現	(DP3)	幼児の発達にそった、保育目標を達成するための指導計画を作成することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	計画と実践との関係がわかり、計画を実践につなげることができる。実践にともなう幼児の成長をもとに教育課程と指導計画の省察と評価、改善ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
幼稚園での教育の視点から、教育課程、そして指導計画の意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントと全体的な計画の作成を行うことの意義を理解する。加えて、子ども理解に基づいた保育内容の充実と質の向上に資するための教育課程におけるそれぞれの評価の視点についても理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
幼稚園での教育の視点から、教育課程、そして指導計画の意義や編成の方法を理解する。各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントと全体的な計画の作成を行うことの意義を理解する。加えて、子ども理解に基づいた保育内容の充実と質の向上に資するための教育課程におけるそれぞれの評価の視点についても理解する。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)			○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	教育課程の役割と意義	講義	テキストを読み、概略を理解する
2	教育課程と指導計画の関連性	講義	テキストを読み、概略を理解する
3	教育課程、指導計画モデルの検証	講義	教育課程の作成
4	検証にもとづいた教育課程、指導計画の作成	講義・グループ毎の検証	教育課程の作成
5	指導計画の種類とそれぞれの役割 長期と短期の指導計画	講義	教育課程の作成
6	指導計画モデルの検証と改善点の理解	講義・グループ毎の検証	指導計画の作成
7	指導計画作成の基礎1 指導	講義	指導計画の作成

	計画を構成するもの		
8	指導計画作成の基礎2 指導 計画作成の手がかり	講義	指導計画の作成
9	指導計画の作成 長期的指導 計画	講義	指導計画の作成
10	作成した長期的指導計画の改 善	講義・グループ毎の検証	指導計画の作成
11	指導計画の作成 短期的指導 計画	講義	指導計画の作成
12	作成した短期的指導計画の改 善	講義・グループ毎の検証	指導計画の作成
13	計画を実践に結びつける	講義・グループ毎の検証	指導計画の作成
14	実践にもとづく教育課程と指 導計画の振り返り	講義・グループ毎の評価	教育課程と指導計画の再考
15	教育課程、指導計画、保育実践 の評価	講義・グループ毎の評価	教育課程と指導計画の再考
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				少人数に分かれて、グループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育の計画と評価			単位	2
科目名（英語）	Childcare Curriculum Design and Evaluation			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	高口 知浩				
授業概要	保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。また、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解するとともに、子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携認定こども園教育・保育要領				
参考図書・教材等	適宜紹介します。				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が保育所指針に基づき、現場の経験を活かしながら実践を交え講義を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メール等による相談、助言を行います。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育所、幼稚園における全体的な計画・教育課程と指導計画の役割、意義が分かる。指導計画の種類と、それぞれの特性が分かる。
	思考・判断・表現	(DP3)	乳幼児の発達に沿った、保育目標を達成するための指導計画を作成することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	計画と実践との関係が分かり、計画を実践に繋げることができる。実践に伴う乳幼児の成長をもとに全体的な計画・教育課程と指導計画の省察と評価、改善ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画や指導計画の必要性を説明することができる。 ・保育目標を達成するための指導計画を作成することができる。 ・指導計画を実践に繋げ、実践を踏まえて改善することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画や指導計画の意義を理解する。 ・指導計画の立て方を理解する。 		
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				70	30			
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎				
思考・判断・表現	(DP3)				◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)				◎			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション 全体的な計画・教育課程、指導計画の役割と意義	講義	配布資料の復習 (45分)
2	全体的な計画・教育課程と指導計画の関連性	講義	配布資料の復習 (45分)
3	全体的な計画・教育課程モデルの検証	講義 グループ討議	全体的な計画・教育課程の作成 (45分)
4	検証に基づいた全体的な計画・教育課程の作成	講義 グループ討議	全体的な計画・教育課程の完成 (45分)
5	指導計画の種類とそれぞれの役割 - 長期と短期の指導計画 -	講義	作成した全体的な計画・教育課程の再考 (45分)
6	指導計画モデルの検証と改善点の理解	講義 グループ討議	配布資料の復習 (45分)
7	指導計画作成の基礎①指導計画を構成するもの	講義	配布資料の復習 (45分)
8	指導計画作成の基礎②指導計画作成の手がかり	講義	配布資料の復習 (45分)

9	指導計画の作成 - 長期的指導計画 -	講義	指導計画の作成 (45分)
10	作成した長期的指導計画の改善	講義	指導計画の再考 (45分)
11	指導計画の作成 - 短期的指導計画 -	講義	指導計画の作成 (45分)
12	作成した短期的指導計画の改善	講義	指導計画の再考 (45分)
13	計画を実践に結びつける	講義・実践	指導計画の再考 (45分)
14	実践に基づく全体的な計画・教育課程と指導計画の振り返り	講義・実践 グループ討議	指導計画の再考 (45分)
15	全体的な計画・教育課程と指導計画、保育実践の評価	講義・実践 グループ討議	全体の振り返り (45分)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○	○		○							○	○	○
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	子どもの健康と安全			単位	1
科目名（英語）	Child Health and Safety			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	田中美樹 吉川未桜				
授業概要	子どもの保健Ⅰで修得した学習を基礎にして、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解するとともに、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策、また子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解し実践する。さらに、子どもの発達や状態等に即した適切な対応・子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画・評価等について具体的に理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「子どもの保健」で学んだ子どもの発達・発育や心身の健康状態および疾病予防・対応に関する知識				
テキスト	各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	「子どもの保健」のテキスト・配布資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮しながら演習を行う。	授業中の撮影	無		
学習相談・助言体制	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答します。 授業中・後に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育所、福祉現場で行われているさまざまな保健活動の実践について知識を学習し説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	安全面に配慮し、子どもの発達に応じた適切な保健技術を主にモデル人形を使って体験し、学習したことを論理的に表現できる。 事例の中の子どもの状況をアセスメントし、発表することができる。
		(DP4)	他グループの発表に対して適切なコメントや評価ができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	子どもの保健・安全管理スキルについて根拠を探究しながら実践できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健・安全管理のスキルを身に付ける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について、自ら考えをまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について理解できる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法とその根拠を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備について、自ら考えをまとめることができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について、自ら考えをまとめることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について、アドバイスを受けながら考えまとめることができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法を理解し、ある程度実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理についてある程度理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を読まえた援助方法を理解が理解できず実践できない。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理についても理解できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		20		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)			○		○	
	(DP4)			○			
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	コースガイダンス 子どもの健康と保育における保健衛生の意義（田中）	講義 演習（グループ・ディスカッション）	事前：ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見る。
2	保険計画の作成と活用 保健活動の記録と評価	講義・演習	「子どもの保健」の講義内容を復習する。

	子どもの身体発育と観察と評価（個別・集団）（田中）		事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
3	保健的観点を踏まえた保育環境および援助① 子どもの生活習慣と心身の健康のための養護（吉川）	小テスト①（1～2回目の講義内容） 講義・演習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
4	保健的観点を踏まえた保育環境および援助② 清潔の保持（オムツ交換、更衣、歯みがきなど）（吉川）	講義・演習	
5	保健的観点を踏まえた保育環境および援助③ 子どもの栄養（授乳、離乳食）と援助方法（吉川）	講義・演習	
6	子どもの体調不良時の適切な判断と対応① 発熱、脱水、下痢・嘔吐時の観察・判断および対応	小テスト②（3～5回目の講義内容） 講義・演習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
7	子どもの体調不良時の適切な判断と対応② けいれん、呼吸困難時の観察・判断および対応	講義・演習	
8	子どもの体調不良時の適切な判断と対応③（応急手当など）	演習 グループワーク	
9	感染症の予防と対策・保育者の自己管理（手洗い）	小テスト③（6～8回目の講義内容） 演習 グループワーク	子どもが罹りやすい感染症について調べ、学習する。
10	特別・個別的な配慮が必要な子どもへの対応（慢性疾患・障がい・アレルギーなどをもつ子ども）	講義 グループワーク	特別な配慮が必要な子どもの特徴（疾患や症状）について調べ学習する。
11	子どもの事故防止と安全対策① 乳幼児に起こりやすい事故の特徴と予防・対処方法	小テスト④（9～10回目の講義内容） 講義 グループワーク	乳幼児の発達段階を復習した上で、起こりやすい事故について調べ学習する。
12	子どもの事故防止と安全対策② 事故事例をもとにグループワーク	講義 グループワーク・ディスカッション	事例の内容について調べ、意見をまとめる。
13	子どもの事故防止と安全対策③ 誤嚥・窒息など事故発生時の処置と心肺蘇生法	講義 演習	事前：乳幼児の事故について復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
14	健康・安全管理の実施体制① 災害・事故発生時等の組織的な取り組み 保健活動計画の立案と作成・評価	講義 グループワーク	災害が子どもに与える影響について、ニュースや新聞記事をもとに調べ学習する。
15	健康・安全管理の実施体制②	小テスト⑤（11～14回目の講義内容） 講義 グループワーク・ディスカッション	事前：14回目までの講義・演習の復習
備考	講義の順番が入れ替わる可能性あり。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習					○				○	○								
体験学習／調査学習						○	○	○					○		○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○							○	○	○	○	○		○	○
その他（実技演習）						○	○	○										
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	特別支援教育			単位	演習 1 単位
科目名（英語）	Special Needs Education			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭免許を取る人には必須です。		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	二見妙子				
授業概要	支援の必要性が想定される子どもたちへの理解を深め、資料分析と報告、意見交換ができるように授業を構成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にない。				
テキスト	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴、橋本好市、直島正樹）ミネルバ書房。				
参考図書・教材等	『バクバクっ子の在宅記』（平本歩）、『どもる君へ』（伊藤伸二）、『おこだてませんように』（くすのきいげのり）、『となりのしげちゃん』（星川ひろ子）、『さっちゃんの魔法の手』（先天性肢体不自由児父母の会）、『ぼくの耳ってすごいんだぞ』（北村小夜）など。（貸し出します）。				
実務経験を生かした授業	本授業担当者は、特別支援教育や療育支援の現場で働いたのち、障害学研究を学んだ。これらを生かし、現場実践を障害学の知見で相対化し、課題を明らかにした上で、「支援」のあり方を模索する授業をめざす。			授業中の撮影	理解を得る。
学習相談・助言体制	随時可（メールで事前に連絡いただいた方が助かります）。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	支援の必要性が想定される子どもたちへの理解を深める。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	資料分析とその報告、意見交換ができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	関連する情報の収集に積極的に取り組む。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
障害や貧困、母国語の違いなどにより、さまざまな支援を必要とする幼児の学習・生活上の困難を理解し、他の教員や関係機関と連携していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
障害や貧困、母国語の違いなどにより、さまざまな支援を必要とする幼児の学習・生活上の困難を理解し、他の教員や関係機関と連携していくことが必要であることを知る。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	20	20	30		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	10	10	10	40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		10	10	10	10	40
関心・意欲・態度	(DP5)			10	10		20
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	障害のとりえ方	講義・意見交換	障害・子どもに関する情報収集(新聞記事など)
2	世界的な障害児教育に関する法制度の動向	講義・意見交換	障害・子どもに関する情報収集(新聞記事など)
3	日本における特殊教育の歴史と特別支援教育	講義・意見交換	障害・子どもに関する情報収集(新聞記事など)
4	インクルーシブ教育について考える	講義(ビデオ、みんなの学校)・意見交換	障害・子どもに関する情報収集(新聞記事など)
5	実践現場の見学	グループごとに、大学近隣の園や学校などに出かける。	見学の計画と報告をまとめる。
6	実践現場の見学	グループごとに、大学近隣の園や学校などに出かける。	見学の計画と報告をまとめる。
7	Impairment の理解と合理的配慮(自閉症スペクトラム)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備
8	Impairment の理解と合理的配慮(視覚)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備
9	Impairment の理解と合理的配慮(聴覚)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備
10	Impairment の理解と合理的配慮(知的)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備
11	Impairment の理解と合理的配慮(身体)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備

12	Impairment の理解と合理的配慮(病弱・内部)	テキスト及び参考資料より、グループごとに概要を報告する	発表の準備
13	生活や学習に困難を抱える子どもたち（同和保育の取り組みに学ぶ）	講義・意見交換	障害・子どもに関する情報収集（新聞記事など）
14	連携と計画①（個別指導計画と保育計画）	ビデオ（レッジョエミリア幼児教育）視聴・記録・計画作成	障害・子どもに関する情報収集（新聞記事など）
15	連携と計画②（個別支援計画）小テスト	ビデオ(みんなの学校)・支援計画作成	障害・子どもに関する情報収集（新聞記事など）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習							○	○											
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																			
内容				自分の経験、考え、資料の考察、など、深く考えたことを自由に意見交換できる授業です。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	障害児保育			単位	演習2
科目名（英語）	Care and Social Inclusion for Disabled Children			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2	開講時期	後期		
担当教員	二見妙子				
授業概要	① 障害児と健常児が共に育つ「インクルーシブ」保育(教育)の意味について。 ② インクルーシブ保育（教育）に関する制度の変遷について。 ③ インクルーシブ保育（教育）を推進するための実践方法について。 これらについて、資料集と意見交換ができるよう授業を構成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特別支援教育（2年前期）の授業をすでに履修していること。				
テキスト	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴、橋本好市、直島正樹）ミネルバ書房。				
参考図書・教材等	新聞記事、関係論文など（随時紹介、各自資料収集）				
実務経験を生かした授業	本授業担当者は、特別支援教育や療育支援の現場で働いたのち、障害学研究を学んだ。これらを生かし、現場実践を障害学の知見で相対化し、課題を明らかにした上で、「支援」のあり方を模索する授業をめざす。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	随時可（メールで連絡いただいた方が助かります）。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・「インクルーシブ」保育(教育)の意味を捉える。 ・インクルーシブ保育（教育）に関する制度の変遷を把握する。 ・インクルーシブ保育（教育）を推進する実践の視点を捉える。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	・資料分析とその報告、意見交換ができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・関連する情報の収集に積極的に取り組む。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	・障害児と健常児が共に育つ「インクルーシブ」保育(教育)の意味を捉えることができる。 ・インクルーシブ保育（教育）に関する制度の変遷を把握することができる。 ・インクルーシブ保育（教育）を推進するための実践方法を検討することができる。 ・これらについて、資料集と意見交換ができる		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	・障害児と健常児が共に育つ「インクルーシブ」保育(教育)の意味を概ね捉えている。 ・インクルーシブ保育（教育）に関する制度の変遷を概ね把握している。		

・インクルーシブ保育（教育）を推進するための実践方法を検討する意欲がある。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他（ファシリテーション）	合計
総合評価割合		20	20	30		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	10	10	10	40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		10		10	10	30
関心・意欲・態度	(DP5)			10	10	10	30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	授業の目的・方法の確認 発表内容の役割分担。	自分の発表分担内容のまとめ。 関連する資料の収集。 テキストを読む。
2	インクルーシブな保育実践の事例	ビデオ「みんなよっといで」を見る。 意見交換。	自分の発表分担内容のまとめ。 関連する資料の収集。 テキストを読む。
3	障害のとりえ方	テキスト第1章「障害のとりえ方」 について分担発表・意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。 関連する資料の収集。 テキストを読む。
4	障害のとりえ方	テキスト第1章「障害のとりえ方」 について分担発表・意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。 関連する資料の収集。 テキストを読む。
5	障害児の生活理解	テキスト第3章「障害児の生活理解 に求められる視点」について分	自分の発表分担内容のまとめ。 関連する資料の収集。

		担発表と意見交換	テキストを読む。
6	障害児保育に関する理念と動向	テキスト第4章「障害児保育に関する理念と動向」+関係論文1点について分担発表と意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
7	障害児保育に関する法・制度	テキスト第5章「障害児保育に関する法・制度」+関係論文1点について分担発表と意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
8	障害児保育に関する法・制度	テキスト第5章「障害児保育に関する法・制度」+関係論文1点について分担発表と意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
9	障害児保育の実際	テキスト第6章「障害児保育の実際」+関係論文2点について分担発表と意見交換。	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
10	障害児保育の実際	テキスト第6章「障害児保育の実際」+関係論文2点について分担発表と意見交換。	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
11	保育所における保護者との連携	テキスト第7章「保育所における保護者との連携」+関係論文2点について分担発表と意見交換	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
12	障害児保育実践における関係機関との連携	テキスト第8章「障害児保育実践における関係機関との連携」+論文2本について分担発表と意見交換。	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
13	障害児・保護者への支援機関とその実際	テキスト第9章「障害児・保護者への支援機関とその実際」+論文2本について分担発表と意見交換。	自分の発表分担内容のまとめ。関連する資料の収集。テキストを読む。
14	インクルーシブ保育の理論と実践(テキスト序章)	講義と意見交換	関連する資料の収集。テキストを読む。
15	小テスト・一年間のまとめ	小テストと授業の感想、今後の課題など各自口頭で発表する。	テストの準備。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	乳児保育			単位	2
科目名（英語）	Infant Care			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	伊勢 慎				
授業概要	<p>保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。保育園は乳児が一日の大半を過ごす場となり、子育ての支援機関としての役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の保育士資格に関する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	『見る・考える・創りだす 乳児保育』CHS 子育て文化研究所、萌文書林、2002				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、保育内容について、現場の経験、実践を交え演習をする。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	0～2歳児の発育・発達を理解し、そのための援助の仕方について理解を深める。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	乳児向けの保育実践の展開ができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	乳児保育における保育者の専門性、役割について述べるができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	乳幼児の生活に必要なものをイメージし、具体的に準備できる力を養う。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解するとともに、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解することに加え、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。また、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解するとともに、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法と環境を具体的に理解する。</p>			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。また、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法と環境を理解する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	10	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			○	○		
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○				
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○	○		
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	乳児保育の理念と役割	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。
2	乳児保育の理念と歴史的変遷	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。
3	乳児保育の役割と機能	講義	自身の乳児期の詳細について記録をまとめる。

4	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。
6	6か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
7	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
8	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
9	2歳児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
10	指導計画の作成と観察・記録及び自己評価・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
11	個々の発達を促す生活と遊びの環境・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
12	保護者、保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。
13	発表1	発表	発表の準備、練習、振り返りを行う。
14	発表2	発表	発表の準備、練習、振り返りを行う。
15	まとめ・発表3	発表	発表の準備、練習、振り返りを行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				少人数に分かれて、保育実践のグループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	乳児保育 I	単位	2
科目名（英語）	Infant Care I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	高口 知浩		
授業概要	<p>本授業では、保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義、歴史の変遷、役割について学ぶ。 2. 乳児保育の現状と課題を理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を理解するとともに、保育の在り方を学ぶ。 4. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	なし		
参考図書・教材等	適宜紹介します。		
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が保育所指針に基づき、現場の経験を活かしながら実践を交え講義を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メール等による相談、助言を行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	3歳未満児の発育・発達を理解し、そのための援助の仕方について理解を深める。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	乳児向けの保育実践の展開ができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	乳児保育における保育者の専門性、役割について述べるができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	乳幼児の生活に必要なものをイメージし、具体的に準備できる力を養う。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義、歴史の変遷、役割について説明できる。 ・乳児保育の現状と課題を説明できる。 ・3歳未満児の発育・発達を理解し、簡単な保育を実践できる。 ・保護者や関係機関との連携方法を説明できる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の重要性について理解する。 ・3歳未満児の発達を理解する。 ・保護者との連携の重要性を理解する。 		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20		20			
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎	◎					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		◎			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		○		○			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○			◎			
備考		理解度を図るための小テストを行います。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 乳児保育の役割と理念	講義	配布資料の復習（45分）
2	乳児保育の理念と歴史的変遷	講義	配布資料の復習（45分）
3	乳児保育の役割と機能	講義	配布資料の復習（45分）
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況	講義	配布資料の復習（45分）
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助方法	講義・小テスト	1～4回の内容を復習して授業に臨む（45分）
6	3歳未満児の遊び・生活と環境	講義	配布資料の復習（45分）
7	0歳児クラスの発達と保育内容	講義・実践	保育実践の準備（45分）
8	1歳児クラスの発達と保育内容	講義・実践	保育実践の準備（45分）

9	2歳児クラスの発達と保育内容	講義・実践	保育実践の準備（45分）
10	発達を促す生活と遊びの環境構成の在り方	講義・小テスト	1～4回の内容を復習して授業に臨む（45分）
11	職員間の連携と協働	講義	配布資料の復習（45分）
12	保護者との連携の重要性、連絡帳の記入方法	講義	配布資料の復習（45分）
13	保健・医療機関、地域子育て支援等との連携	講義	配布資料の復習（45分）
14	乳児保育における保育者の専門性	講義	配布資料の復習（45分）
15	テスト・まとめ	講義	全体の振り返り（45分）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○	○	○						
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育方法論		単位	2
科目名（英語）	Childcare Methodology Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許・保育士資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	大久保 淳子			
授業概要	<p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法・技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能、また、「育みたい資質・能力」と幼児理解に基づいた評価について、概説する。</p> <p>その後、現在の保育現場で実施されている多様な保育の現状を考察し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法についてのグループワーク、さらに、就学前の教育と小学校教育の円滑な接続のための接続期カリキュラムについて概説する。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成30年 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
参考図書・教材等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省）適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での多様な保育に関する現状・今日的課題等を紹介します。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児期の発達特性を踏まえた教育・保育のねらいを達成するために指導する基本的事項と方法・ICTの活用などについて説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	多様な保育方法に関する資料を収集・考察し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法を説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	就学前の教育と小学校教育の円滑な接続を系統立てたカリキュラムを作成するなど、専門的スキルを社会に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児期の発達特性を踏まえた教育・保育のねらいを達成するために指導する基本的事項と方法などを専門的に説明できる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

- ・多様な保育を理解し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法を説明できる。
- ・就学前の教育と小学校教育の円滑な接続のための方法を系統立てたカリキュラムを作成することができる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		40			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)			○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	幼稚園教育要領（平成29年3月告示）について	講義	事前：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。 事後：授業と関連のある箇所を読んで、復習をする。
2	「育みたい資質・能力」について	講義・質疑応答	
3	「育みたい資質・能力」と幼児理解に基づいた評価について	講義・質疑応答	
4	教育・保育計画書の作成（教員制作設定保育 DVD 視聴）	講義・グループに分かれて討議を行い、発表する。	事前：指導計画書の作成 事後：討議した点をまとめる。
5	教育・保育指導計画書の発表		
6	保育実践の現状と課題 1 主体的・対話的で深い学びの実現について	講義・グループに分かれて討議を行い、発表する。	事前：幼児教育における主体的・対話的で深い学びについてまとめる。 事後：討議した点をまとめる。

7	保育実践の現状と課題 2 環境を通して行う教育		事前：環境を通して行う教育についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる。
8	第8回：保育実践の現状と課題 3 幼児期にふさわしい生活の展開		事前：幼児期にふさわしい生活の展開についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
9	保育実践の現状と課題 4 遊びを通しての総合的な指導		事前：遊びを通しての総合的な指導についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
10	保育実践の現状と課題 5 一人一人の発達の特性に応じた指導		事前：一人一人の発達の特性に応じた指導についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
11	保育実践の現状と課題 6 保育における個と集団の関係と学級経営		事前：個と集団の関係と学級経営についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
12	保育実践の現状と課題 7 行事を生かした保育の展開、ICTの活用		事前：行事を生かした保育の展開、ICTの活用についてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
13	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について (アプローチカリキュラム)		事前：各自治体の接続期カリキュラムについてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
14	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について (スタートカリキュラム)		事前：各自治体の接続期カリキュラムについてまとめる。 事後：討議した点をまとめる
15	まとめ・これまでの授業の省察	講義	これまでの授業についてまとめる。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
その他（ ）																		
内容	2回～14回：グループに分かれて検討を行い、結果を発表する。																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会的養護内容 I			単位	1
科目名（英語）	Issues in Childhood Social Care I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	牛島 豊広				
授業概要	本授業は、社会的養護の理念を基盤に据えた支援の実践について理解をすることを目的とする。社会的養護の支援においては、高い専門性による支援が求められており、保育の視点をもって施設種別毎の取り組みについて学んでいくこととする。学びをすすめていく基本的な視点として、社会的養護を必要とする子どもたちを生活の主体者として捉え、基本的人権をはじめ、生まれながらにして持つ権利を保障するという支援のあり方を意識して考察していく。そして、日常生活支援や治療的支援、子どもへの個別的なケアにとどまらず 家族支援、地域支援等支援の視点も含めて様々な支援のあり方を考えていく。さらに、保育ソーシャルワークの方法と技術も合わせて理解し、支援の展開を通じて保育士の倫理を育む。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、社会福祉関連する科目を復習しておくことが望ましい。				
テキスト	喜多一憲 監修・堀場純矢 編『社会的養護Ⅱ』みらい				
参考図書・教材等	倉石哲也監修 伊藤嘉余子・小池由佳編「社会的養護内容」(株) ミネルヴァ書房				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後及びメール等において個別相談に応じます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会的養護の支援、また家庭や地域を基盤とした支援の方法について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的養護において社会的な理解をふまえ、それに対する支援の取り組みについて意見を整理することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会的養護における支援の内容をふまえ、支援の実際に参加することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安心、安全な暮らしのために求められる支援について説明することができる。 ・家庭を基盤とし、地域を含めた支援について説明することができる。 ・子どもの個別のニーズを反映した支援計画の立案ができる 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の取り組みにおける課題の整理をし、今後の支援のあり方について考察し、分かりやすくまとめることができる。 		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
社会的養護における対象の理解と支援の方法について実践での応用方法も含めて理解したうえで自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
社会的養護における対象の理解と支援の方法について正確に理解したうえで自らの考えをまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
社会的養護における対象の理解と支援の方法についてある程度理解したうえで自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
社会的養護における対象の理解と支援の方法について内容、用語の意味が理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
社会的養護における対象の理解と支援の方法について内容、用語の意味が理解できていない。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	10		40			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○		○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○		○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	社会的養護の実践と保育士の支援	演習、質疑応答	社会的養護の現状を事前学習し、授業資料で事後学習をする。
2	家庭的養護の理念と法制度の仕組み	演習、質疑応答	社会的養護の支援の仕組みを事前学習し、授業資料で事後学習をする。
3	社会的養護を必要とする子どもの権利	演習、質疑応答	子どもがもつ主体的な権利を事前学習し、授業資料で事後学習をする。
4	社会的養護施設で暮らす子どもの生活環境への支援	演習、質疑応答	社会的養護施設の特徴を事前学習し、授業資料で事後学習をする。
5	社会的養護施設における支援プロセス	演習、質疑応答	社会的養護施設で取り込まれる支援を事前学習し授業資料で事後学習をする。
6	社会的養護施設の社会化	演習、質疑応答	社会的養護施設の社会的役割を事前学習し、授業資料で事後学習をする。

7	社会資源としての社会的養護施設と地域連携	演習、質疑応答	社会資源の意味、内容について事前学習し、授業資料で事後学習をする。
8	社会的養護実践における記録および評価	演習、質疑応答	支援に必要な記録および評価の視点を事前学習し授業資料で事後学習をする。
9	社会的養護施設における支援計画の意義と役割	演習、質疑応答	支援計画の内容について事前学習し、授業資料で事後学習をする。
10	社会的養護施設における自立支援の取り組み	演習、質疑応答	将来の生活の営みについて事前学習し、授業資料で事後学習をする。
11	保育ソーシャルワークの視点を用いた家庭支援	演習、質疑応答	保育ソーシャルワークの支援の視点を事前学習し授業資料で事後学習をする。
12	施設養護から家庭養護への生活環境の移行支援	演習、質疑応答	家庭養護を推進する施策を事前学習し、授業資料で事後学習をする。
13	社会的養護施設における支援者の資質と倫理	演習、質疑応答	支援に関わる専門職について事前学習し、授業資料で事後学習をする。
14	社会的養護施設で求められる支援者の専門性	演習、質疑応答	社会的養護の推進について事前学習し、授業資料で事後学習をする。
15	社会的養護における今後の実践的支援の課題	演習、質疑応答	社会的養護の支援のあり方について事前学習し、授業資料で事後学習をする。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																		
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他 ()																				
内容				少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育相談支援			単位	1
科目名（英語）	Social Work in Child Care			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	4年	開講時期	前期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	保育相談支援の意義と原則など基本を理解し、保育相談支援の実際を学びその内容や方法を習得する。さまざまな事例をもとに、グループディスカッションやロールプレイを行いながら、スキルを身につけていく。相談援助などこれまで関連科目で学んだことを応用していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「相談援助」を履修済みのこと。				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	入所型・通所型の児童福祉施設での実務経験、および子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本について説明できる。さらに、保育相談支援の方法と技術について述べることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	保護者支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、自分の意見を述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保護者支援の実践例より、課題を抽出し、探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本について、また保育相談支援の方法と技術について説明するとともに、相談場面を想定したロールプレイにおいて適切な対応ができる。。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本を理解し、保育相談支援の方法と技術について述べるができる			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80～89	履修目標を達成している。
B : 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発表	その他	合計
総合評価割合		20	50	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション、保育相談支援とは	講義、ディスカッション	相談援助の基礎を復習する
2	保育現場の事例から考える(1)	グループワーク	これまでの実習での保護者とのかかわりをまとめる
3	保育現場の事例から考える(2)	DVD視聴、グループワーク	これまでの実習での保護者とのかかわりをまとめる
4	保育相談支援のねらい、家庭の変容と保育相談支援	講義、グループワーク	家庭の変容と保育について調べる
5	保育所保育指針と保育士倫理綱領からみる保護者支援	講義、グループワーク	保育士倫理綱領を理解する
6	保育者としての価値と倫理、個人の価値観、自己覚知	講義、グループワーク	保育士の価値と倫理をまとめる
7	対人援助の基本、受容的かかわり	講義、グループワーク	受容的かかわりについてまとめる
8	保育相談支援の進め方：より効果的な保育相談をするために	講義、グループワーク	相談支援のプロセスをまとめる
9	保育相談支援の技術：面接技術、電話相談	講義、グループワーク	相談支援の技術をまとめる

10	学外授業：子育て支援の現場の理解	学外の子育て支援の現場を訪問し、支援の実際を学ぶ	訪問先について調べる
11	保育所の保育相談支援の事例①	グループワーク	配布資料を読む
12	保育所の保育相談支援の事例②	グループワーク	配布資料を読む
13	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例①	グループワーク	配布資料を読む
14	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例②	グループワーク	配布資料を読む
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習												○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容総論			単位	2
科目名（英語）	Early Childhood Education Organization and Design			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士・幼稚園教諭		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	伊勢 慎				
授業概要	授業の前半は、保育内容について、課題を設定してそれらに取り組みつつ、保育所保育指針・幼稚園教育要領等をテキストとしながら内容、変遷等について理解を深めていく。後半は、発達段階を踏まえ、保育内容と実践を関連付けつつ、授業内でも指導案を計画し、保育実践を通して具体的に学ぶ。その際、保育実践に関する映像資料を活用し、その実際についても学習を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の保育士資格、幼稚園教諭免許に関する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）				
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、保育内容について、現場の経験、実践を交え演習をする。			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼稚園教育要領と保育所保育指針を中心に、保育内容について理解し、乳幼児に沿った保育内容の知識を取捨選択できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	保育内容の歴史、意義をマクロな視点とミクロな視点から分析し、現代の保育現場で求められている育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育内容を考察できる。
		(DP4)	各年齢の保育内容を理解した上で、年齢・発達にあった保育実践の発表を行うことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育・幼児教育において、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解すると共に、保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示された当該領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域、指針・要領の各章と関連させて理解を深める。また、乳児から幼児の発達や生活に即して、養護を含めつ			

つ、主体的・対話的で深い学びが実現する過程（計画・実践・観察・記録・評価・改善）を踏まえて具体的、且つ多様な展開を想定して保育を構想し、実践的に学ぶ。その際、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷についても学ぶ。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
保育・幼児教育において、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解すると共に、保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示された当該領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域、指針・要領の各章と関連させて理解する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)			○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	保育内容の基本的な視点について	演習・課題設定	テキストを読む（該当箇所は、授業で指示する。）

2	保育内容と遊び・保育内容と発達・保育内容と計画・評価	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
3	保育内容の歴史・変遷	演習・課題演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
4	幼稚園・保育所の1日	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
5	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較 1 教育と養護	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
6	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較 2 ねらいと内容	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
7	領域と保育内容1 健康と人間関係	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
8	領域と保育内容2 環境と言葉と表現	演習・課題設定	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
9	0歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
10	1歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
11	2歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
12	3歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
13	4歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
14	5歳児の保育内容と演習(保育実践映像資料視聴)	演習	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
15	保育の多様な展開(保育実践映像資料視聴)	演習・授業のまとめの課題	テキストを読む(該当箇所は、授業で指示する。)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			少人数に分かれて、グループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・健康 I			単位	1
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Health I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭 1 種免許、保育士資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期		
担当教員	池田孝博				
授業概要	幼児期における健康課題や健康の発達の意味、幼児期の身体機能・運動機能の発達と生活習慣の関連、安全な生活と怪我や疾病の予防について、近年の研究成果をもとに理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格、幼稚園教諭免許を取得する意思を有し、学外の保育現場でそれに沿った振る舞いができること				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	幼稚園教育要領（文部科学省平成 29 年 3 月告示） 保育所保育指針（厚生労働省平成 29 年 3 月） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成 29 年 3 月告示）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	領域「健康」のねらいと内容について理解し説明することが出来る。 乳幼児の発達をふまえ、遊びについて理解を深め、乳幼児期にふさわしい運動遊びについての考察が出来る。
	思考・判断・表現	(DP 3)	乳幼児期の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点・改善の方策を考察し、意見として述べる事が出来る。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	「健康」のねらいや内容・乳幼児の発達をふまえ、指導案の構成を理解し、指導案を作成することが出来る。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
領域「健康」のねらいと内容について十分に理解し説明することが出来る。乳幼児の発達をふまえ、遊びについて十分に理解を深め、乳幼児期にふさわしい運動遊びについての考察が出来る。乳幼児期の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点・改善の方策を深く考察し、意見として明確に述べる事が出来る。「健康」のねらいや内容・乳幼児の発達をふまえ、指導案の構成を十分に理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
領域「健康」のねらいと内容について理解し説明することが出来る。乳幼児の発達をふまえ、遊びについて理解を深め、乳幼児期にふさわしい運動遊びについての考察が出来る。乳幼児期の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点・改善の方			

策を考察し、意見として述べる事が出来る。「健康」のねらいや内容・乳幼児の発達をふまえ、指導案の構成を理解し、指導案を作成することが出来る。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	乳幼児期の健康課題（心身の発達）	講義	授業の復習、課題への取り組み
2	乳幼児期の健康課題（幼児期における運動発達）	講義	授業の復習、課題への取り組み
3	健康の定義と乳幼児期の健康の意義	講義	授業の復習、課題への取り組み
4	乳幼児期の身体的発達の特徴	講義	授業の復習、課題への取り組み
5	乳幼児期の身体的発達の特徴	講義	授業の復習、課題への取り組み
6	乳幼児期の基本的生活習慣の形成	講義	授業の復習、課題への取り組み
7	乳幼児期の基本的生活習慣の意義	講義	授業の復習、課題への取り組み
8	幼児の安全教育	講義	授業の復習、課題への取り組み

9	幼児の健康管理（安全管理の理解）	講義	授業の復習、課題への取り組み
10	幼児期の怪我の特徴と予防	講義	授業の復習、課題への取り組み
11	幼児期の疾病の特徴と予防	講義	授業の復習、課題への取り組み
12	幼児期における運動機能の発達	講義・体験学習	授業の復習、課題への取り組み
13	幼児期における運動機能の発達	講義・体験学習	授業の復習、課題への取り組み
14	幼児期の身体活動量	講義	授業の復習、課題への取り組み
15	幼児の心身の発達と領域「健康」の関わり	講義	授業の復習、課題への取り組み
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習															○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				保育現場における運動機能の発達に関する体験学習														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・健康II		単位	1
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Health II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭1種免許、保育士資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	池田孝博			
授業概要	領域「健康」について、様々な保育事例などに基づき、保育環境や指導・援助の方法についてグループ討議や実践を通して理解する。また、保育者間、保護者、地域の専門職との連携の方法や、安全教育に関する教材作成を通じて指導・援助の方法を理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育士資格、幼稚園教諭免許を取得する意思を有し、学外の保育現場でそれに沿った振る舞いができること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	幼稚園教育要領（文部科学省平成29年3月告示） 保育所保育指針（厚生労働省平成29年3月） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	体力や運動能力などの「体」の問題・乳幼児の遊びと生活の関係性について説明することができる。 安全や衛生の習慣、食育の問題点について自分なりの意見を述べることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	乳幼児の発達の特徴や今日的課題の知識を生かし、実習や乳幼児に関わる活動に参加することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	安全教育の教材を作成し、それを使っての模擬保育を実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
体力や運動能力などの「体」の問題・乳幼児の遊びと生活の関係性について明確に説明することができる。安全や衛生の習慣、食育の問題点について自分なりの意見を述べる事が出来る。乳幼児の発達の特徴や今日的課題の知識を生かし、将来の保育者として学んでおくべきことを明確にした上で、実習や乳幼児に関わる活動に積極的に参加することができる。安全教育の教材を作成し、それを使っての模擬保育を実施できるとともに、保育の内容を改善する視点を身に付けることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

体力や運動能力などの「体」の問題・乳幼児の遊びと生活の関係性について説明することができる。安全や衛生の習慣、食育の問題点について自分なりの意見を述べるすることができる。乳幼児の発達の特徴や今日的課題の知識を生かし、実習や乳幼児に関わる活動に参加することができる。安全教育の教材を作成し、それを使っての模擬保育を実施できる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	幼児教育・保育の基本 領域「健康」のねらい	講義	本時の復習、課題
2	幼児教育・保育の基本 領域「健康」と他領域のつながり	講義	本時の復習、課題
3	子どもの「健康」と育ち	講義	本時の復習、課題
4	子どもの「健康」と遊び 幼児の遊びとは何か／遊びの種類	講義	本時の復習、課題
5	子どもの「健康」と遊び 事例や資料に基づく遊び体験、遊びに関する保育計画と指導案	講義・演習	本時の復習、課題 発表準備
6	遊びの指導計画作成と発表（前半グループ）	模擬授業	本時の復習、課題 発表準備

7	遊びの指導計画作成と発表（後半グループ）	模擬授業	本時の復習、課題
8	子どもの「健康」と環境構成 室内・遊具の配置	講義・演習	本時の復習、課題
9	子どもの「健康」と環境構成 戸外での遊び	講義・演習	本時の復習、課題
10	子どもの生活習慣の形成	講義・演習	本時の復習、課題
11	子どもの「健康」と食育	講義・演習	本時の復習、課題
12	子どもの「健康」と安全教育	講義・演習	本時の復習、課題 発表準備
13	安全教育の実践 視聴覚機器を用いた教材作成と発表（前半グループ）	模擬授業	本時の復習、課題 発表準備
14	安全教育の実践 視聴覚機器を用いた教材作成と発表（後半グループ）	模擬授業	本時の復習、課題
15	授業の総括 今日の課題と領域「健康」	講義	本時の復習、課題
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習								○	○						○	○	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ 模擬授業 ）								○	○						○	○	
内容			模擬授業の実施と模擬授業に対する評価（自己評価・他者評価）														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・人間関係Ⅰ			単位	1
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Human Relations I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	飯田大輔				
授業概要	領域「人間関係」のねらい・保育内容と活動の展開・援助の方法を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	田代和美・榎本眞実編著「演習 保育内容人間関係 ー基礎的事項の理解と指導法ー」建帛社 20019年 1,600円（税抜き）				
参考図書・教材等	（参考図書）保育所保育指針（教材等）適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業	保育現場における保育経験がある者が、その経験を生かして今日的な課題（ネグレクト、社会格差、多様性社会）への対応を指導する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	レスポンスカードまたは、授業後に受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼稚園・保育園における人的環境としての保育者の役割について記述できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育現場に対して理解を深める。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、について子ども、保育者、保護者、社会それぞれに即した理解をした上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、について保育者として適した理解をした上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、についてある程度理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
乳幼児保育の全般的な理解、「領域」の視点と活用方法、実践モデルとアプローチの内容、保育所保育の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	演習	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		40	20		15	10	15	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○		○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○		○	○	○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
2	私たちにとっての人間関係とは	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
3	子どもをとりまく様々な環境	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
4	乳児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
5	乳児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
6	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
7	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
8	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅲ	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針

9	3歳以上児の遊びと人間関係 I	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
10	3歳以上児の遊びと人間関係 II	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
11	3歳以上児の遊びと人間関係 III	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
12	園生活の中での人間関係の育ち—気にかかる子どもへの援助	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
13	園生活の中での人間関係の育ち—特別な支援を必要とする子どもへの援助	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
14	人間関係の育ちをはぐくむ環境	講義・演習	幼稚園教育要領、保育所保育指針
15	まとめ	講義	幼稚園教育要領、保育所保育指針
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容			少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・人間関係Ⅱ			単位	1
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Human Relations II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭1種免許、保育士資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	上村 眞生				
授業概要	保育者としての子どもや保護者に対する援助のあり方を修得する				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保育内容・人間関係Ⅰを履修していること				
テキスト					
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業	子どもとの関係づくりのための実践について、体験を交えて解説する			授業中の撮影	×
学習相談 ・助言体制	メールで受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	子どもたちの人とかかわる力をどのように育てていくか、発達に即して記述できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	乳幼児期における人とかかわりの発達について記述できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	人とかかわりを育てる遊びを保育者として実践をふまえて修得する
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
子どもとの関係作りにおいて、事前に複数の行動予測ができ、それを踏まえて自ら考案した道具や手法を用いて子どもとの関係づくりができる。また、自己評価、省察を次の実践に生かすことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
子どもの発達を踏まえ、子どもとの関係づくりができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
子どもとの関係作りにおいて、事前に複数の行動予測ができ、それを踏まえて自ら考案した道具や手法を用いて子どもとの関係づくりができる。また、自己評価、省察を次の実践に生かすことができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

子どもとの関係作りにおいて、発達を踏まえ、自ら考案した道具や手法を用いて子どもとの関係づくりができる。
また、実践後に自己評価をすることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

子どもとの関係作りにおいて、発達を踏まえ、自ら考案した道具や手法を用いて子どもとの関係づくりができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

子どもの発達を踏まえ、子どもとの関係づくりができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

子どもの発達を理解していない

子どもとの関係づくりができない

自身の学修・資質向上に向けた意欲がない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				60	30		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)				○			
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)						○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○			○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義	
2	子どもとの関係づくりとその実際1	講義・演習	実践につながる試料作成
3	子どもとの関係づくりとその実際2	講義・演習	
4	3歳未満児との関係作り1	講義・演習	
5	3歳未満児との関係作り2	演習	子どもとの関係づくりのための実技練習
6	3歳未満児との関係作り3	演習	
7	3歳以上児との関係作り1	講義・演習	
8	3歳以上児との関係作り2	演習	子どもとの関係づくりのための実技練習
9	3歳以上児との関係作り3	演習	

10	子どもとの関係づくりの実際 1	演習	実践の準備と事後評価
11	子どもとの関係づくりの実際 2	演習	
12	子どもとの関係づくりの実際 3	演習	
13	子どもとの関係づくりの実際 4	演習	
14	子どもとの関係づくりの実際 5	演習	
15	子どもと共に育っていける 保育者になるために	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習				○	○												
体験学習／調査学習						○	○	○				○	○	○	○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○	○	○						
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼児と環境			単位	1
科目名（英語）	Children and the Environment			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	幼稚園教諭、保育士		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	中藤広美				
授業概要	本講義では、幼児自らが主体的に環境を取り入れて遊ぶ活動を体験的に学んだり、幼児が環境とのかかわる力を育てる保育について事例検討をしたりして、幼児の発達の特徴をふまえながら幼児を取り巻く環境と幼児の活動について検討する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の幼稚園教諭免許、保育士資格取得に関係する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	『保育内容「環境」』（柴崎正行・若月芳浩（編）、ミネルヴァ書房）				
参考図書・教材等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領				
実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように理論と実践の往還を心がけた授業展開とします。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	最近の子どもたちの現状とそれを取り巻く環境の実態を理解し、説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	子どもが身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成について考え、発達にそった保育内容を考え表現できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	幼児教育に従事する立場の倫理・道徳に従って行動できる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	子どもたちの生きる力を培うための保育、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと身近な環境とのかかわりを深める実践的な保育を自ら考えることができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	幼児の発達の特徴をふまえながら幼児を取り巻く環境と幼児の活動について検討し意見が述べられる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
当該科目では、領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境とのかかわりについて専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業外レポート	演習	模擬保育実践	発表		合計
総合評価割合	50	30	10	5	5		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○	○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○	○	○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回)	【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達	講義	事前学習：テキスト第 2 章-1 を通読 事後学習：レポート 1 : 「MAP 幼児を取り巻く生活環境や自然環境」を作成して今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成	
2	幼児を取り巻く生活環境や自然環境 1 (身近な施設、標識、マーク、植物、生き物)	講義と調査		
3	幼児を取り巻く生活環境や自然環境 2 (MAP 作成)	演習		
4	幼児を取り巻く生活環境や自然環境 3 (MAP 報告会)	発表		
5	幼児と環境の関わり方 1 (専門的概念について: 能動性、好奇心、探究心、有能感 等)	講義	事前学習：テキスト第 2 章通読	
6	幼児と環境の関わり方 2 (実践: 能動性、好奇心、探究心、有能感を育てる遊び)	演習	事後学習：発表に向けての準備	
7	幼児と環境の関わり方 3 (遊びの実践報告)	発表	事前学習：発表に向けての準備	
8	環境と関わる力の発達 (認知的発達の特徴と筋道)	講義	事前学習：前操作期と具体的操作期	
9	身近な自然と生き物 1 (幼児と植物の栽培)	講義	授業外レポート 2 : 「身近な環境と関わる遊び (自然、生き物、文字、数量、図形)」 作成詳細は授業外レポート 1 に準拠する	
10	身近な自然と生き物 2 (演習: 生き物の飼育)	演習と発表		
11	文字、数量、図形 1 (文字、数量、図形とのかかわり)	講義		
12	文字、数量、図形 2 (演習: 幼児と身体測定)	演習と発表		

13	自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解(身近な自然環境の変化)	講義と調査	事前学習：第4回で発表した内容を振り返り調査に備える
14	自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解(身近な自然環境の変化の調査報告)	発表	事前学習：発表準備
15	まとめ 保育の場と環境構成	講義	事前学習：これまでの授業内容を振り返り、配布資料に目を通しておく
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習	○					○			○		○						○
体験学習/調査学習		○				○							○				
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		○	○	○		○	○			○		○		○			
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼児と言葉		単位	1
科目名（英語）	Children and Language		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許・保育士資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	大久保 淳子			
授業概要	乳幼児の言葉の意義や機能、乳幼児期の言葉の発達過程、コミュニケーション、文字の機能、言葉の発達を促す児童文化財の意義や活用について講義をする。また、理論と実践の往還・融合のために視聴覚教材（映像）も取り入れる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許取得と保育士資格を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成30年 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
参考図書・教材等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省） 適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での言葉の発達に関する現状・課題等を紹介します。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	領域「言葉」に関する専門的知識を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	領域「言葉」の諸問題に関する資料を収集・考察し、説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	「言葉」に関する専門的スキルを身につけ、保育・教育の実践ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
領域「言葉」の指導の基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針などの領域「言葉」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程を踏まえた保育・教育の実践における専門的な事項を説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
幼稚園教育要領・保育所保育指針などの領域「言葉」のねらいと内容を基盤とした、乳幼児期の言葉の発達過程に応じた保育活動を提示し、保育・教育の実践ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○					
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)				○		
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	幼稚園教育要領の基本・5領域と領域「言葉」との関連	講義	
2	領域「言葉」のねらい、内容、内容の取り扱い・言葉の意義や機能について	講義・質疑応答	事前：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の領域「言葉」を読む。 事後：領域「言葉」を読んで、復習をする。
3	乳幼児期の言葉の発達過程 乳児のDVD視聴後、グループワーク	講義、グループに分かれて討議を行う。	事前：3歳児の言葉の発達について調べる 事後：領域「言葉」を読んで、復習をする。
4	乳幼児期の言葉の発達過程 3歳児のDVD視聴後、グループワーク		事前：4歳児の言葉の発達について調べる 事後：領域「言葉」を読んで、復習をする。
5	乳幼児期の言葉の発達過程 4歳児のDVD視聴後、グループワーク		事前：5歳児の言葉の発達について調べる 事後：領域「言葉」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と他の領域との関連について復習をする。
6	乳幼児期の言葉の発達過程 5歳児のDVD視聴後、グループワーク		事前：「言葉遊び」について調べる。 事後：領域「言葉」と他の領域との関連について復習をする。
7	言葉の感覚を豊かにする活動と幼児の言葉の発達との関連（1）（言葉遊び）	講義、グループ・ワーク	事前：「言葉遊び」について調べる。 事後：領域「言葉」と他の領域との関連について復習をする。

8	言葉の感覚を豊かにする活動と幼児の言葉の発達との関連(2)(表現遊び)	講義、グループ・ワーク	事前:「表現遊び」について調べる。 事後:領域「言葉」と他の領域との関連について復習をする。
9	言葉の感覚を豊かにする活動と幼児の言葉の発達との関連(3)(劇遊び)	講義、グループ・ワーク	事前:「劇遊び」について調べる。 事後:領域「言葉」と他の領域との関連について復習をする。
10	言葉による伝え合いについて(コミュニケーション)	講義、グループ・ワーク	事前:領域「言葉」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べる。 事後:配布資料を読む
11	日常生活のなかでの文字に対する興味や関心について(文字の機能)	講義、グループ・ワーク	
12	児童文化財の意義について	講義	事前:「児童文化財」について調べる。 事後:領域「言葉」と児童文化財との関連について復習をする。
13	児童文化財の活用(絵本・物語・紙芝居)(1)日本のお話		事前:「日本昔話」について調べる。 事後:配布資料を読む。
14	児童文化財の活用(絵本・物語・紙芝居)(2)世界の国々のお話	講義、グループに分かれて発表する。	事前:「世界昔話」について調べる。 事後:配布資料を読む。
15	現代の子どもを取り巻く環境と領域「言葉」の関連について	講義	事前:領域「言葉」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読む。 事後:領域「言葉」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と他の領域との関連について復習をする。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
その他()																	
内容	2回~11回、13回、14回はグループに分かれて討議や発表をする。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼児と表現A		単位	1
科目名（英語）	Children and Self-expression A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	櫻井晋伍			
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について、造形表現の視点から、実技の体験も通して理解を深める。造形Ⅰ・Ⅱ等で身に付けた知識を基に、幼児の表現のあり方について理解を深める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得希望者に限ります。			
テキスト	適宜、資料を配布する。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	原則として、授業の前後に対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼稚園教育要領等に示されている領域「表現」のねらい及び内容について理解し、造形教育の視点から説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	グループワークやレポート課題等に主体的・積極的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	乳幼児の遊びに必要な造形材料の使い方を習得し、それを用いた表現活動ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育内容「表現」のねらいと内容を理解し、幼児の造形教育に関する基礎的な実践力が身に付いている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
保育内容「表現」のねらいと内容を理解し、自己の造形表現等に活かすことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20			50	30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)					○		
備考		「その他」については、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や、授業中の発言・態度、準備学習の取組状況を元に評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 授業の概要、評価方法等の説明	講義、演習	今後の製作課題等の構想を練ること。
2	造形表現の特性及び他領域との関連性	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
3	「幼児の発達と造形表現①」 描画	講義、演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
4	「幼児の発達と造形表現②」 立体工作	講義、演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
5	自然素材を使った造形活動の実践事例紹介と製作活動	講義、演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
6	幼児期の造形表現活動における適切な環境構成について	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
7	「視覚教材の製作①」ペープサート等の製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
8	「視覚教材の製作②」ペープサート等の製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
9	「視覚教材を用いた発表会」	演習	振り返りのレポートをまとめること。
10	「寒天ゼリー製作①」色遊びのレパートリーの習得	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
11	「寒天ゼリー製作②」製作の仕上げ	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。

12	「スライム製作」塑性のある材料を用いた製作活動	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
13	「ステンシル製作」スプレーを用いた製作活動	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
14	「スパッタリング」モダンテクニックの習得	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
15	講評、まとめ	講義、演習	配布したプリント等を読み直して学習内容の振り返りを行い、レポートにまとめること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（実技演習）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
内容	個々の技能に応じた製作指導等を行う。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・表現 I		単位	1
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Self-expression I		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	鷲野彰子・櫻井晋伍			
授業概要	保育所保育指針および幼稚園教育要領に記される、領域「表現」について理解する。 音楽や造形等による表現を中心に、音楽 I・II や造形 I・II で身につけた知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら子どもの表現のありかたについて学習する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽 I と造形 I の単位を修得していること。			
テキスト	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及び CD・VTR 等は大学で準備する。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の撮影 ○
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	子どもの表現について、心身の発達と関連させながら理解し、保育の題材に活用することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	「表現」を実際に実技として表現するだけでなく、主体的に、その表現の意味合いや方法を考え、人に伝えることができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	表現手法・手段のスキルを身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育・幼児教育の現場における「表現」のあり方を理解し、実践に活かすことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
保育・幼児教育の現場における「表現」のあり方について理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				15	35	35	15	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○	○	○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○	○	○	○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (担当: 鷺野)	説明	
2	音楽による表現について 歌唱指導方法の検討 (担当: 鷺野)	保育所実習を視野に入れ、子どもたちに歌唱指導する際にどのようなことに気をつけなくてはいけないかを、実際に教える/教えられる経験を行うことで考える。	教えた歌を準備し、その方法を考えてくること (第 1 回の授業で課題については説明します)。
3	簡易楽器の使い方・合奏 1 (担当: 鷺野)	簡易楽器の使い方、子どもに合奏を指導する際の注意点を学ぶ。合奏曲の演奏を体験する。	授業時間以外にも練習すること。
4	簡易楽器の使い方・合奏 2 (担当: 鷺野)		
5	簡易楽器の使い方・合奏 3 (担当: 鷺野)		
6	造形による表現について 造形遊びの種類と内容 1 パネルシアター 1 (担当: 櫻井)	実習で実践することを想定して、パネルシアターを製作する。	学習した内容について整理しておく。学習した保育教材をレポトリーとして蓄積する。
7	造形遊びの種類と内容 2 パネルシアター 2 (担当: 櫻井)	同上。パネルシアターの製作の続きと発表会に向けた練習を行う。	
8	保育の題材と導入について パネルシアター 3 (担当: 櫻井)	保育実践における導入のあり方について考える。保育者としての子どもに対する援助の仕方などについても考える。	
9	パネルシアター 4 (担当: 櫻井)	パネルシアターの発表会を行う。	
10	「七夕まつり」の企画と実施 1 (担当: 鷺野)	保育実習 I (保育園) での体験をふま	

11	「七夕まつり」の企画と実施2 (担当：鷺野)	え、乳幼児のためのお楽しみ会を企画・実施する。	も練習すること。
12	「七夕まつり」の企画と実施3 (担当：鷺野)		
13	乳幼児に対する様々な提示方法 (担当：櫻井)	乳幼児向けの提示方法を紹介し、作り方や遊び方について学ぶ。	学習した保育教材をレポーターとして蓄積する。
14	動くおもちゃをつくって遊ぶ1 (担当：櫻井)	折り紙や身近な材料を用いて、動くおもちゃをつくって遊ぶ。	
15	動くおもちゃをつくって遊ぶ2 (担当：櫻井)		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容・表現Ⅱ		単位	1	
科目名（英語）	Early Childhood Education Content: Self-expression II		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	櫻井晋伍・鷲野彰子				
授業概要	音楽Ⅰ・Ⅱや造形Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰで学習した知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら学習を進める。音による表現の可能性やリズムについて学習し、保育における「表現」の可能性について考える。また、乳幼児期における造形表現の知識について、心身の発達と関連させながら理解を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽Ⅰと造形Ⅰ、保育内容・表現Ⅰの単位を修得していること。				
テキスト	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	乳幼児期の造形表現について心身の発達と関連させながら理解し、説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	表現方法を自ら考えだすことができ、考えたものを実際に表現できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	表現手法・手段のスキルを身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
多彩なパフォーマンス能力を身につけ、他者と協働して、表現し、伝えることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
表現する技術や手法を理解し、実際に実践的に表現する行為を行うことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				15	35	35	15	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○	○	○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○	○	○	
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション リトミック (担当:鷺野)	身体を使った身体表現を音楽表現にいかにつなげていくか、保育の場におけるリトミックの在り方について考える。	学習した内容を応用し、状況に応じた展開を考える。
2			
3			
4	3つの課題を「表現」する1 (担当:鷺野)	グループに分かれて、次の3つの課題を創作・表現する。 ・絵本を朗読や効果音などを使って、音のみで表現 ・第1～3回のリトミックの学習内容を取り入れた創作表現 ・課題曲(授業で指定)の振付	グループで時間を調整し、練習する。
5	3つの課題を「表現」する2 (担当:鷺野)		
6	3つの課題を「表現」する3 (担当:鷺野)		
7	発表会 (担当:鷺野)	第4～6回で創作・練習したパフォーマンスの発表会を行う。	舞台配置やマイクの使用方法について検討する。
8	つくったものを用いて遊ぶ (担当:櫻井)	つくったものを身に着けてゲームをする。	学習した保育教材をレポートリーとして蓄積する。
9	絵の具で遊ぶ (担当:櫻井)	絵の具をじかに触りながら、造形遊びをする。	
10	遊びと表現1 (担当:櫻井)	・シャボン玉を使った造形遊びをする。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。	
11	遊びと表現2 (担当:櫻井)	・小麦粉粘土を作り、子どもの発達に応じた遊び方を考える。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。	
12	児童画1 (担当:櫻井)	乳幼児期の造形表現における、特徴的な表現様式について理解を深める。特に、平面表現(児童画)を中心にして	
13	児童画2 (担当:櫻井)		学習した内容について復習し、理解を深める。

14	児童画3 (担当: 櫻井)	子どもの発達と表現に関する知識を習得する。
15	児童画4 (担当: 櫻井)	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容の指導法・環境		単位	1
科目名（英語）	Instructional Method of Contents in Early Childhood Care and Education (Environment)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	幼稚園教諭 保育士資格	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	中藤広美			
授業概要	幼児が好奇心や探求心を持ちやすい身近な環境について検討し、幼児が環境にかかわる力を育成していくための理論や方法および実践方法を学ぶ。また、園外保育を想定した野外活動を取り入れ、身近な環境とのかかわりを重視した自然体験を通して、幼児が身近な環境への興味関心を深める保育展開に必要な基礎知識を学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の幼稚園教諭免許、保育士資格取得に関係する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	『保育内容「環境」』（柴崎正行・若月芳浩（編）、ミネルヴァ書房）			
参考図書・教材等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領			
実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように理論と実践の往還を心がけた授業展開とします。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	身近な植物、生き物、自然現象の基礎的事柄（種名や特徴など）について関心を深め説明することができる。 数量、図形に関する認知の発達を知り、発達にそった遊びの提案ができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	子どもの身近な環境について、その内容や現状・問題点について把握し、発達にそった環境との関わり方について自分の意見を表現・主張できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	幼児教育に従事する立場の倫理・道徳に従って行動できる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に行うことができる。 自然の基礎知識を活用した実践的野外保育を計画することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
幼児が身近な環境への興味関心を深める保育展開に必要な基礎知識について説明でき、さらに幼児が環境にかかわる力を育成していくための保育方法を実践できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	幼児教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業外レポート	演習	模擬保育実践	発表		合計
総合評価割合	50	30	10	5	5		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○	○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○	○	○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業ガイダンス 保育内容と領域「環境」と専門領域との関連	講義	事前学習：テキスト該当箇所を読む
2	領域「環境」のねらいと内容 1 （総合的な活動と領域「環境」）	講義	事前学習：テキスト該当箇所を読む
3	領域「環境」のねらいと内容 2 （事例を読み解く）	演習と発表	事後学習：演習内容のまとめ
4	身近な環境と幼児の発達理解 1（好奇心や探求心と主体的な活動、保育実践ビデオ）	ビデオ視聴と演習	事後学習：レポート1 「好奇心や探求心を持ち、身近な環境に主体的にかかわろうとする子どもの育成を目指す援助のありかた」
5	身近な環境と幼児の発達理解 2（幼児の姿と保育者の援助、保育実践ビデオ）	ビデオ視聴と演習	
6	領域「環境」の内容と指導上の留意点	講義	事前学習：テキスト該当箇所を読む

7	幼児教育と小学校教育の連携（スタートプログラム：幼児と生活環境）	講義と演習	事後学習：演習内容のまとめ
8	幼児教育と小学校教育の連携（スタートプログラム：文字、数量、図形）	講義と演習	事後学習：演習内容のまとめ
9	幼児の遊び場環境と園外保育（遊び場環境の調査）	講義 学外授業 演習 報告 *第9、10回は2 コマ連続授業 日程については授業 内でお知らせします	事後学習：模擬保育実践に備えての準備
10	幼児の遊び場環境と園外保育（園外保育計画作成）		事前学習：模擬保育実践のための指導計画 仕上げ
11	幼児の遊び場環境と園外保育（模擬保育実践 朝の 集い、体操、親子ダンス）		
12	幼児の遊び場環境と園外保育（模擬保育実践 親子 ゲーム、自由遊び、オリエンテーリング、終わりの 集い）		事後学習：レポート2 園外保育後に予想 される保育の展開や子どもの姿、援助、留意 点、環境構成について
13	園外保育の反省・評価と園外保育計画の改善 1 （模擬保育の分析、検討）		事後学習：レポート2 園外保育後に予想 される保育の展開や子どもの姿、援助、留意 点、環境構成について
14	園外保育の反省・評価と園外保育計画の改善 2 （園外保育計画の再作成）		
15	まとめ 身近な環境に主体的にかかわる	講義	事前学習：これまでの授業内容を振り返り、 配布資料に目を通しておく
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習	○	○	○					○	○	○						○	○	○
体験学習／調査学習			○	○	○							○	○	○	○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○					○	○		○	○	○	○		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容の指導法・言葉		単位	1
科目名（英語）	Instructional Method of Contents in Early Childhood Care and Education (Language)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	世良君江			
授業概要	子どもは自らの活動の場において絶え間なく言葉を獲得している。保育者として受容と応答の重要性を認識し、言葉の成長を促していく。子どもの言葉が豊かに育つ為に必要な援助を考える。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	犬越和孝編「言葉とふれあい言葉で育つ」・保育所保育指針・幼稚園教育要領冊子			
参考図書・教材等	絵本、紙芝居、映像、多くの児童文化財 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メール・講義後質問受付回答。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	新生児から就学前の子どもの言葉の獲得のプロセスを知る。
	思考・判断・表現	(DP3)	言葉の発達を促す為、保育者としての子どもの言葉とどう向き合うか考える。
		(DP4)	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	言葉の受容と応答の大切さを事例で考える。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育所保育指針や幼稚園教育要領に示された幼稚園教育、保育の基本を踏まえ領域「言葉」のねらい及び内容を理解し専門性を身につける。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「言葉」の発達・獲得に必要な様々な具体的事項を実践することで、乳幼児の言葉の進化を理解し必要な促し方の重要性を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	演習	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				40	20	20	20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)			○	○	○	○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○	○	○	○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	オリエンテーション(講義内容・評価方法・シラバスの説明)	講義
2	幼児と言語発達の理解	保育所保育指針・幼稚園教育要領 領域「言葉」について	講義
3	言語、非言語による言葉の構築	胎児の世界より	講義・DVD
4	情報機器、及び教材の活用	言葉の進化「発達年齢別」	講義
5	言葉と身体表現の関係	オノマトペと感性	講義
6	地域伝承言葉遊び	グループ討議・発表	講義・演習
7	領域「言葉」について	指針・要領に沿って「ねらい」と「内容」の組み立て方	講義
8	言葉と心の関係	言葉(発語)による情緒・感情の育み	講義・演習
9	児童文化財を用いた実践①	課題に沿って話づくり・発表	講義・演習

10	児童文化財を用いた実践②	課題に沿って紙芝居づくり・発表	演習
11	育ちを支える保育者同士の人間関係①	言葉を育てる児童文化・発表	講義・演習
12	育ちを支える保育者同士の人間関係②	言葉を育てる地域文化・発表	講義・演習
13	育ちを支える保育者のあり方	自らの言葉の振り返り	演習
14	異文化と保育の関わり	保育の中での異文化	演習
15	多様な状況の言葉の捉え方とかかわりについて	言葉についてまとめ（子どもの言葉の獲得について）	講義
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
講義回数																		
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容の指導法・表現A			単位	1
科目名（英語）	Instructional Method of Contents in Early Childhood Care and Education (Self-expression A)			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	櫻井晋伍				
授業概要	<p>本科目は、幼稚園教育要領に示された幼児期の造形教育に必要な知識と技術を身に付ける事を目的とする。幼児一人ひとりの発達に即して、子どもが主体的・対話的で深い学びを実現するために、その指導のあり方について造形教育の観点から理解を深める。</p> <p>様々な材料・技法を用いた製作課題を通して、造形が楽しく有意義であることに理解を深めるとともに、現場での保育実践を意識した教材発表等を通して、将来の造形教育の基盤となる技能を身に付ける。また、幼児の造形的発達を捉えるための知識の習得を行う。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得希望者に限ります。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	原則として、授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	幼稚園教育要領等に示されている領域「表現」のねらい及び内容について理解し、造形教育の視点から説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	グループワークやレポート課題等に主体的・積極的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	乳幼児の遊びに必要な造形材料の使い方を習得し、それを用いた表現活動ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育内容「表現」のねらいと内容を理解し、幼児の造形教育に関する基礎的な実践力が身に付いている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
保育内容「表現」のねらいと内容を理解し、自己の造形表現等に活かすことができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20			50	30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考	「その他」については、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や、授業中の発言・態度、準備学習の取組状況を元に評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 授業の概要、評価方法等の説明	講義、演習	今後の製作課題等の構想を練ること。
2	「幼児期の絵画」幼児の認識と造形的発達	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
3	「子どもの造形的発達を支える保育実践」事例紹介	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
4	道具・工具の使い方に関する指導法及び、幼児造形教育におけるICTの活用事例について	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
5	「色彩の基本」子どもが見やすい色使いについて	講義、演習	振り返りのレポートをまとめること。
6	「レタリング①」子どもが親しみを感じる文字の形について	講義、演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
7	「レタリング②」	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。

8	「物語と造形表現①」紙芝居の製作	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
9	「物語と造形表現②」教材製作の続き	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
10	「物語と造形表現③」教材製作の続き	演習	難しいと感じた製作技法を復習すること。
11	「物語と造形表現④」教材発表と振り返り	演習	振り返りのレポートをまとめること。
12	「子どもとの造形活動を想定した模擬保育①」実践事例の紹介と、活動内容の構想を練る	講義、演習	授業外にも製作等を進める。
13	「子どもとの造形活動を想定した模擬保育②」指導案の作成	講義、演習	授業外にも製作等を進める。
14	「模擬保育の実践①」12～13回目を踏まえた模擬保育の実践と振り返り	演習	振り返りのレポートをまとめること。
15	「模擬保育の実践①」12～13回目を踏まえた模擬保育の実践と振り返り	演習	振り返りのレポートをまとめること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内容	個々の技能に応じた製作指導等を行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育内容演習			単位	1
科目名（英語）	Seminar on the Content of Early Childhood Education			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	鷲野彰子・櫻井晋伍・大久保淳子				
授業概要	<p>幼児が様々な体験を積み重ねながら総合的に発達することに鑑み、保育内容各論で学習した内容の総合化を試みる。具体的には、実習等で得た体験や観察をもとに子どもの活動の総合性を確認し、誕生会や運動会、生活発表会などで催される総合的な活動を体験する。とりわけ各種表現手法とその総合化については、パネルシアターや手遊び、劇、器楽演奏など、子どもの前で役立つような実技を発表会として構成し、近隣の保育園の前で発表する。</p> <p>以上の実践を踏まえて、幼児教育の基本である「遊びを通しての総合的な指導」について理解を深める。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。				
テキスト	<p>「幼稚園教育要領解説」文部科学省（平成30年）、保育所保育指針解説」厚生労働省（平成30年）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府（平成30年）</p> <p>その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。</p>				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場で行う行事の現状・課題について紹介します。（12回～15回）	授業中の撮影	○		
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	実践の場面を想定しながら、5領域・幼児期において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（必要性等）」との関連について理解し説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	保育題材の様々な提示方法のあり方をふまえ、実践につなげるための工夫について意見が述べられる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	パネルシアター、劇、器楽演奏など総合的な保育の題材を企画・実践することにより必要なスキルを身に付け、活用することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
実践の場面を想定しながら、保育内容5領域を総合化すること（必要性等）について理解し説明できる。また、保育題材の様々な提示方法のあり方をふまえた上で、保育・幼児教育の現場を十分に意識して、パネルシアター、劇、器楽演奏などを取り入れた会を企画・実践することができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
実践の場面を想定しながら、保育内容5領域を総合化すること（必要性等）について理解し説明できる。また、保			

育題材の様々な提示方法のあり方をふまえて、パネルシアター、劇、器楽演奏などを取り入れた会を企画・実践することができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		40		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)				○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○		○	
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション（担当：鷺野）	本授業の意義や目的、そして発表会に向けての取り組み方について説明する。	グループで時間を調整し、練習する。
2	発表会へ向けての準備 1（担当：櫻井）	役割分担などを決め、脚本・大道具・小道具作り、器楽演奏の練習を進める。	
3	発表会へ向けての準備 2（担当：櫻井）		
4	発表会へ向けての準備 3（担当：櫻井）		
5	発表会へ向けての準備 4（担当：櫻井）		
6	発表会へ向けての準備 5（担当：鷺野）		

7	発表会へ向けての準備6 (担当: 鷺野)		
8	発表会へ向けての準備7 (担当: 鷺野)		
9	発表会のリハーサル (1回目) を行う (担当: 櫻井)	効果的な演出方法などについて検討する。	
10	発表会のリハーサル (2回目) を行う (担当: 鷺野)		
11	発表会を行う (担当: 櫻井、鷺野)	近隣の保育園の子どもたちを招いて発表会を行う。	
12	教育課程の編成と行事について (担当: 大久保)	5領域に示された「ねらい」と「内容」、幼児期において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と実践 (行事) 後の幼児理解に基づいた評価について概説する。	事前学習: 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所について読む。 事後学習: 配布資料を読む。
13	指導計画の作成 (行事) と幼児理解に基づいた評価 (担当: 大久保)		
14	幼児理解に基づいた評価の実施 (1) 評価の実施 (2) 評価の妥当性や信頼性の確保 (担当: 大久保)		
15	まとめ (担当: 大久保)		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○						
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育・教職実習演習		単位	2
科目名（英語）	Practical Training Seminar for Nursery and Kindergarten Teachers		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許・保育士資格	
標準履修年次	4年	開講時期	後期	
担当教員	大久保淳子・池田孝博・伊勢慎・櫻井晋伍・董秋艶・中藤広美・鷺野彰子			
授業概要	<p>この授業は、保育者としての自己の課題を自覚し、専門的な知識・技能等を習得し、その定着を図り、保育者として円滑に歩むことを目指すものである。内容としては、以下の事項である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者に必要な社会的視野を広げるために、保育に関する現代的課題について分析及び検討する。 2. 事例検討や模擬保育等を通して、様々な視点に基づいた適切な指導計画について検討する。 3. 保育者に必要な専門性と役割、職員間・保護者との信頼関係の構築、子ども理解と評価、学級経営の方法等について、これまでの学修を振り返りながら、事例を考察したり、グループや全体で討議したりする。 			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を履修中であることが望ましい。			
テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省）			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	教員経験者担当回は、保育・教育現場の今日的課題を紹介する場合があります。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	それぞれのテーマについて保育の現状とその問題点を調査・検討後、自分の意見を発表し、討議を進めることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	現在、求められている保育者像を探求し、実践場面における事例検討の際、他者の意見も参考にして、グループ討議を進め、保育者としての役割や子ども理解・評価等について、具体的に説明することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育の実践を多面的な視点から検討し、その視点を踏まえて適切な活動に基づく指導計画を作成することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者としての専門的知識・技能等を習得し、保育に関する今日的課題について、分析及び検討をすることができる。 ・ 模擬保育等を通して、様々な視点に基づいた適切な指導計画を作成することができる。 			

・保育者に必要な専門性と役割、職員間・保護者との信頼関係の構築、子ども理解と評価、学級経営の方法等について説明することができる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
・保育者像の現状と課題を調査・検討後、具体的に説明することができる。 ・保育の実践を多面的な視点から検討し、その視点を踏まえて適切な活動に基づく指導計画を作成することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○					
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○			
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	オリエンテーション （授業の意義と進め方、履修カルテの活用の仕方等）	・授業の意義、ねらい、進め方等を説明する。	事前：実習日誌の省察、内容を整理・復習する。 事後：履修カルテの整理
2	保育者の専門性と役割、職務内容、責任等について	講義	事前：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。
3	保育者に求められる対人関係能力について	講義	事後：授業と関連箇所を読んで、復習をする。
4	保育に関する現代的な課題について 1		

5	保育に関する現代的な課題について 2	・グループごとにテーマを選択し、選択したテーマについて調査・検討、全体での報告と討議を行う。	グループごとの事例検討の発表の準備・模擬保育等を実施する場合は、各グループで事前に準備を行う。	
6	保育に関する現代的な課題について 3			
7	領域・保育内容等の指導力に関する事項 1	・グループごとに事例検討や模擬保育等を実施し、5領域・10の姿を踏まえた活動に基づく指導案の検討をする。 ・5領域・10の姿の視点から、就学前に必要な様々な活動について考察する。		
8	領域・保育内容等の指導力に関する事項 2			
9	領域・保育内容等の指導力に関する事項 3			
10	領域・保育内容等の指導力に関する事項 4			
11	領域・保育内容等の指導力に関する事項 5			
12	領域・保育内容等の指導力に関する事項 6			
13	子ども理解と学級経営について	・様々な事例等をグループで検討する		事前：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。 事後：授業と関連箇所を読んで復習をする。
14	子ども理解と評価について			
15	まとめと省察	講義		
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他（ ）																	
内容	4回～12回はグループに分かれて事例検討及び発表や模擬保育をする。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼稚園教育実習事前事後指導		単位	1
科目名（英語）	Preliminary Course for Teaching Practice in Kindergarten		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許	
標準履修年次	通年	開講時期	3年後期～4年前期	
担当教員	大久保淳子・董秋艶			
授業概要	この講義は幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に「幼稚園教育実習Ⅰ」および「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前・事後指導として、3年次後期から4年次前期にかけて実施するものである。 なお、「幼稚園教育実習Ⅰ」の実習先幼稚園の選択、実習依頼の手続きは、2年次に行く必要があることから、この講義とは別に2年次（追って連絡する）に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許取得科目を履修中であること。			
テキスト	「幼稚園教育要領」平成29年3月告示 文部科学省 「指導計画の作成と保育の展開」文部科学省 平成25年7月改定			
参考図書・教材等	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 平成30年 適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での現状・課題等を紹介します。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	実習の事後指導を通して、実習の省察を行い、新たな課題や学習目標を明確に示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。 ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について説明することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の事後指導を通して、実習の省察を行い、新たな課題や学習目標を明確に示すことができる。 		

・保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89 履修目標を達成している
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69 到達目標を達成している
不可：～59 到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1～15	<p>「幼稚園教育実習Ⅰ」の事前及び事後指導（3年次）</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義（講義） ・実習の目的・実習の概要（実習の内容と方法、実習の時期と手続き、必要書類等） 実習の内容と課題の明確化（講義） 実習に際しての留意事項（講義） （1）子どもの人権・個人情報の保護と守秘義務 （2）実習生としての心構え 実習の計画と記録（演習） （1）実習における計画と実践 		<p>・過去の実習日誌をできるだけ参照し、実習の実際を理解しておくこと。</p> <p>・指導計画(指導案)を作成し、模擬保育をする。その際に、全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるように準備しておくこと。</p>

16～ 30	<p>(2) 実習における観察、記録及び評価 (実習日誌の作成について・記録の取り方)</p> <p>5. 教材研究と模擬保育 (演習)</p> <p>6～7 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (講義)・実習報告会</p> <p>「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前及び事後の指導 (4年次)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習オリエンテーション (講義) <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育実習Ⅱの意義・実習の内容と方法 2. 観察記録の取り方、実習日誌の作成について (講義) 3. 指導計画(指導案)の作成と教材研究 (演習) 4. 指導計画(指導案)の作成と模擬保育 (演習) 5. 指導計画(指導案)の作成と実習に対する指導・助言 (講義) 6. 事後指導における実習の総括・実習報告会 7. 今後の自己課題、学習課題の明確化 (講義) 	<p>・事前に配布プリントや過去の実習生の指導計画案(指導案)を参考にして作成する。</p> <p>・模擬保育を行う場合は、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p>
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容			適宜、グループワークをする。16回～29回は、適宜、指導計画案の発表をする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼稚園教育実習 I			単位	2
科目名（英語）	Teaching Practice in Kindergarten I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種免許		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	大久保 淳子				
授業概要	<p>この実習は、幼稚園教諭一種免許状の取得希望者を対象に実施するものであり、原則として学生の希望する幼稚園で3年次後期（10月下旬）に期間を定めて2週間実施する。実習を通して、幼稚園の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>また、保育の計画、観察、記録及び自己評価や幼稚園教諭の業務・職業倫理について具体的に学ぶ。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修中か履修済みでないとは履修できない。また、履修していても他の免許関係科目の単位修得状況、その成績によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 幼稚園教諭一種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、この実習2単位「幼稚園教育実習Ⅱ」2単位、合計5単位を必要とする。</p> <p>④ 実習の説明会を実施する場合がある。</p>				
テキスト	<p>「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 平成30年</p> <p>「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 平成25年7月改定</p>				
参考図書・教材等	適宜、紹介します。				
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での保育者の現状・今日的課題等を紹介します。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	<p>実習期間中の質問など、メールで対応します。</p> <p>教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をします。</p>				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。
		(DP4)	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
・ 幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。 ・保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)					○	
	(DP4)					○	
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考	実習状況を鑑みて、総合的に評価をします。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
---	------------	----------	---------

以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。

1. 実習の段階と内容

- ① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。
- ② 部分実習（部分指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。
- ③ 担任実習（全日指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動の指導・援助を担当する。
幼稚園教育実習Ⅰでは、原則として②までを体験して指導を受けるものとする。

2. 実習勤務及び指導

実習生は職員に準じて勤務実習する。

指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員の指導を受ける。

3. 実習状況の報告及び実習日誌

- ① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。
- ② 実習生は毎日「実習日誌」を実習指導担当教員に提出して指導を受ける。
- ③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入・報告していただく。

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	幼稚園教育実習II			単位	2
科目名（英語）	Teaching Practice in Kindergarten II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	幼稚園教諭一種		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	大久保 淳子				
授業概要	この実習は、幼稚園教諭一種免許状取得希望者で「幼稚園教育実習I」の単位を修得済みの者を対象に実施する実習であり、原則として学生の希望する幼稚園で4年次前期（5月中旬）に期間を定めて2週間実施する。実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であり、この実習では原則として③までを体験する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修中か履修済みでないとは履修できない。また、履修していても他の免許関係科目の単位修得状況、その成績によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 幼稚園教諭一種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、この実習2単位、「幼稚園教育実習II」2単位、合計5単位を必要とする。</p>				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 平成30年 「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 平成25年7月改定				
参考図書・教材等	適宜、紹介します。				
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での保育者の現状・今日的課題等を紹介します。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	実習期間中の質問など、メールで対応します。 教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。
		(DP4)	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。 ・ 保育の理論を再確認し、保育の実践について、幼稚園教育実習Iを踏まえて、自分の考えを適切に表現することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

・保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。 ・保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89 履修目標を達成している
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69 到達目標を達成している
不可：～59 到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)					○	
	(DP4)					○	
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考	実習状況を鑑みて、総合的に評価をします。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
<p>以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 幼稚園教育実習Ⅱでは、原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p>			

2. 実習勤務及び指導

実習生は職員に準じて勤務実習する。

指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員の指導を受ける。

3. 実習状況の報告及び実習日誌

- ① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。
- ② 実習生は毎日「実習日誌」を実習指導担当教員に提出して指導を受ける。
- ③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入・報告していただく。

備考

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習指導 I			単位	2
科目名（英語）	Childcare Field Study Guidance I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2年～3年	開講時期	通年		
担当教員	伊勢 慎・杉野 寿子				
授業概要	<p>保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。また、実際の実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を具体的に理解し、事前及び実習中の健康管理、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、個人情報保護と守秘義務等について理解する。事後には実習の総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。</p> <p>また、この授業は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習 I」の事前事後指導として2年次後期から3年次前期にかけて実施するものである。実習先の選択の仕方、実習依頼の手続きと必要書類等についても説明し、実際の実習手続きを行うので、保育士資格の取得希望者は必ず出席すること。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この授業を履修しないと「保育実習 I」は履修できないので、履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>③ 実習手続きについては、必要に応じてメールによる個別の連絡や報告を求められることがある。</p>				
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	<p>東京家政大学「教育・保育実習のデザイン」研究会 編『教育・保育実習のデザイン』萌文書林</p> <p>愛知県保育実習連絡協議会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい</p>				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育実習（保育所・施設）の実際について、現場の経験、実践を交え演習をする。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、実習に関する質問・疑問・不安等はいつでも電子メールで受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	実習の意義、目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	保育参加・補助の方法、子ども理解の方法、実習日誌の記録の仕方、子どもの年齢に応じた指導計画の作成方法等を検討することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	実習を自己点検・反省・評価し、自分の課題を抽出し、探究することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。また、実際の実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を具体的に理解し、事前及び実習中の健康管理、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、個人情報の保護と守秘義務等について説明できる。事後には実習の総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にできる。</p>			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。実際の実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を具体的に理解し、事前及び実習中の健康管理、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、個人情報の保護と守秘義務等について説明できる。事後には実習の総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にできる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表・討議	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)			○			
思考・判断・表現	(DP3)			○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業での報告・発表、討議への参加、指導案の作成、模擬保育などにより評価する。 なお、出席回数が規定の条件に達しない場合、実習生として必要な姿勢や態度、基礎的技能が著しく欠けていると判断される場合などは「保育実習Ⅰ」の履修を許可できないことがある。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回）	【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1				

2	1. オリエンテーション（講義）（伊勢・杉野）	<p>授業内容を整理・復習すること。</p> <p>過去の実習日誌をできるだけ多く参照し、実習の実際を理解すること。</p> <p>グループごとに指導案を作成・発表し、これを全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるようにしておくこと。</p> <p>その際、過去の実習生の指導案や幼児教育・保育雑誌等を参考にすること。</p> <p>自らの実習課題を明確にしていくために施設実習に関する事前レポートや実習計画書を作成するので準備すること。</p> <p>学外授業または外部講師による授業に備えて関連する事前学習を行う。</p> <p>基礎的保育実技を含む模擬保育は基本的に一人ずつ行うので、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p> <p>実習後は、各自の実習目標の達成度や課題等について振り返ること。</p>
3	・保育実習の意義と目的、実習の内容と方法、実習の手続きと必要書類等	
4		
5	2. 保育所実習のポイントと実習日誌の書き方（講義）（伊勢）	
6	・乳幼児の園生活と保育環境、乳幼児の活動と保育者の関わり、園行事等	
7	・実習日誌の書き方の実際と注意事項	
8	3. 施設実習における基礎的理解と実習日誌の書き方（講義）（杉野）	
9	・施設での生活と保育者・養育者・支援員等、障害児者の介護・援助、学習指導、家族支援等の理解	
10	・実習日誌の書き方の実際と注意事項	
11	4. 児童福祉施設の現場の理解のため、施設訪問または外部講師による学習を行う。（施設等の都合でできない場合もある）	
12		
13	5. 指導案および実習計画書の作成と模擬保育（演習）（伊勢・杉野）	
14	・指導案・実習計画書の作成・発表と討議 ・絵本、紙芝居、折り紙、指人形、手遊び・指遊び等の実技を含む模擬保育の実施	
15	6. 実習反省会と今後の学習の進め方（演習、講義）（伊勢・杉野）	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容	指導案、模擬保育等の発表を踏まえたグループ・ディスカッションを行う。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習 I			単位	4
科目名（英語）	Childcare Field Study I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	伊勢 慎・杉野 寿子				
授業概要	<p>既習教科の内容を踏まえ、保育所及び児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、子どもへの理解、発達支援の内容と方法、指導計画、保護者・地域との連携等の実際を子どもとの関わりを通して学ぶ。また、保育士の計画・観察・記録及び自己評価、そして業務内容や職業倫理等の実際を学ぶ。</p> <p>また、この実習は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に実施するものであり、3年次の6月に保育所（園）で10日間の実習を行い、9月に原則として入所（生活）型の児童福祉施設で10日間の実習を行う。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「保育実習指導 I」を履修中か履修済みでなければ履修できない。また履修していても、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、成績状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じてメールによる個別指導や報告を求めることがある。</p>				
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。				
実務経験を生かした授業	保育現場での実習・授業であるため、実務経験者が指導に当たる。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習中の質問・疑問・不安等はメールで随時受け付け、回答する。また複数の教員が分担してそれぞれの実習園を訪問し、指導・助言を行う。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	児童の状況と場面に応じた環境設定、必要な発達支援や援助等について実践的な検討ができる。
		(DP 4)	保育・養護等の理論を再確認し、その進め方について自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保育・養護等に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	状況と場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践する能力を身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
既習教科の内容を踏まえ、保育所及び児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、子どもへの理解、発達支援の内容と方法、指導計画、保護者・地域との連携等の実際を子どもとの関わりを通して学んだことを			

言語化できる。また、保育士の計画・観察・記録及び自己評価、そして業務内容や職業倫理等の実際について学んだことを説明できる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
------	--

既習教科の内容を踏まえ、保育所及び児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、子どもへの理解、発達支援の内容と方法、指導計画、保護者・地域との連携等の実際を子どもとの関わりを通して学んだことを言語化できる。また、保育士の計画・観察・記録及び自己評価、そして業務内容や職業倫理等の実際について学んだことを説明できる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	誠実性・ 明朗性、 積極性	子どもの 理解・子 どもとの 関係	保育の 観察力・ 分析力	実習態 度・保育 補助への 参加度	環境設 定・整 備	指導能力・ 技術	実習日 誌・記 録	合計
総合評価割合	20	10	10	20	10	10	20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○		○	
	(DP4)		○	○	○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)	○						
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)					○		
備考	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習園からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回）	【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1				

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習指導Ⅱ-A			単位	1
科目名（英語）	Childcare Field Study Guidance II-A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	伊勢 慎				
授業概要	<p>「保育実習Ⅱ-A」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育についての総合的な視点を身につけると共に、自身の課題をより明確にして「保育実習Ⅱ-A」に向けての意識を高める。また、未満児を対象とした「クリスマス会」を企画・実施することで、子どもへの働きかけとその反応を実体験から学ぶ。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅱ-A」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等にもふれるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅱ-B」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この授業を履修しなければ「保育実習Ⅱ-A」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>③ この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。</p>				
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	必要な資料については適宜、配布する。				
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育実習（保育所）の実際について、現場の経験、実践を			授業中	の撮影
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答で対応するが、質問等は随時メールでも受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	保育士の業務内容や役割について、また適切な児童とのかかわり合い方について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	よりよい保育や援助の方法について考えることができ、また実習の場において臨機応変に適切な判断ができる力を身につけている。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、高い意識をもって実習に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育所の実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	保育所の実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ実践力の基礎、応用を身につける。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)			○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業計画に記した内容に加えて、各学生に実践的課題を課す。評価については上記評価項目を基に総合的に行う。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（説明）	講義	これまでの実習における自身の日誌や指導案、実習中のメモ等から、注意点や課題を確認しておくこと。
2	これまでの実習の反省点や課題点についての討議（実習体験をもとに課題を明確化する）	講義・演習	これまでの実習における自身の日誌や指導案、実習中のメモ等から、注意点や課題を確認しておくこと。
3	「保育実習Ⅱ-A」の意義と目的	講義	配布資料を読む。

4	実習日誌の書き方についての討議	講義・討議	これまでの実習における自身の日誌から注意点や課題を確認しておくこと。
5			
6	未満児を対象にした「クリスマス会」の企画と準備	演習・準備	必要に応じて、時間外にも各自あるいはグループで練習や準備を進めること。
7			
8			
9			
10			
11			
12	クリスマス会の実施	発表・演習	クリスマス会の反省を各自まとめる。
13	指導案の書き方についての討議	講義・討議	これまでの実習における自身の指導案から注意点や課題を確認しておくこと。
14			
15	まとめ	講義	実習に関する準備する内容を確認する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				グループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習Ⅱ-A			単位	2
科目名（英語）	Childcare Field Study II-A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	伊勢 慎				
授業概要	この実習は、人間形成学科の学生で「保育実習Ⅰ」の単位修得済みの者を対象に実施する、保育所（園）での10日間の実習であり、原則として出身地の保育所（園）で3年次の後期（2月下旬）に行う。 そのねらいは、「保育実習Ⅰ」での保育所実習の経験を基に、自ら実習先施設を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、社会的背景、児童の生活状況・課題等をより深く理解するとともに、保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得することである。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	①履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。 ②この実習は「保育実習Ⅰ」の単位を修得していないと履修できない。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。 ③必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。				
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。				
実務経験を生かした授業	保育現場での実習・授業であるため、実務経験者が指導に当たる。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで随時受け付ける。 複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	児童の状況と場面に応じて適切な判断、実践的な検討を行うことができる。さらに、現場での実践者の立場に立ち、適切な保育を判断、検討を行うことができる。
		(DP4)	保育・養護の理論を実践に活用しつつ、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	保育士を目指す者として、必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	児童の現状を鑑み、保育、援助のあり方について検討し、指導の計画、実践を工夫し、実践できる技術を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
既習教科の内容、保育実習Ⅰの経験を基に、保育所の役割と機能、社会的背景、児童の生活状況・課題、子育て支援等を具体的な実践を通してより深く総合的に理解する。保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術、業務内容、職業倫理等を習得するとともに、実習における自己の課題を明確化する。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
既習教科の内容、保育実習Ⅰの経験を基に、保育所の役割と機能、社会的背景、児童の生活状況・課題、子育て支援等を具体的な実践を通してより深く総合的に理解する。保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術、業務内容、職業倫理等を習得するとともに、実習における自己の課題を明確化する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	実習に対する姿勢・態度	授実習に対する取り組み方	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○					
	(DP4)	○					
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)	○					
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○				
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅲ」で説明する。 1. 実習の段階と内容 ① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。		
2			
3			
4			
5			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習指導Ⅱ－B			単位	1
科目名（英語）	Childcare Field Study Guidance II-B			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	<p>「保育実習Ⅱ－B」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育・養護についての総合的な視点を身につける。また、保育所以外の施設における保育や養護について、実践事例等を通して理解を深める。さらに、以前の実習経験等をもとに自己の課題を明確化し、「保育実習Ⅱ－B」に臨む意識を高める。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅱ－B」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等の説明や提出等があるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅱ－A」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② 15回すべての授業に出席のこと。</p> <p>③ この授業を履修しなければ「保育実習Ⅱ－B」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。</p>				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	入所型・通所型の児童福祉施設での実務経験、および子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	他専門職や他機関との関わり方も含め、施設保育士の業務内容や役割について理解し、説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、意見を述べるができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、保育実習Ⅱ－Bに臨む意識について述べるができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
施設を利用する子どもやその家族の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、意見を述べるができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
他専門職や他機関との関わり方も含め、施設保育士の業務内容や役割について理解し、説明できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発表	その他	合計
総合評価割合		20	20	30	30		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○	○		
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○		
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義、グループワーク	これまでの実習の振り返りをする
2	これまでの実習のふりかえり・課題について	講義、グループワーク	これまでの実習の振り返りをする
3	「保育実習Ⅱ-B」の意義・目的	講義、グループワーク	実習の意義を整理する
4	施設の機能と役割について1	講義、グループワーク	実習計画書・自己紹介書を作成する
5	施設の機能と役割について2	講義、グループワーク	実習計画書・自己紹介書を作成する
6	施設の機能と役割について3	講義、グループワーク	配布資料を読む

7	外部講師による現場の理解	講義、グループワーク	外部講師の専門分野について調べる
8	子ども、利用者とのかかわり方と援助方法について1	講義、グループワーク	配布資料を読む
9	子ども、利用者とのかかわり方と援助方法について2	講義、グループワーク	配布資料を読む
10	研究発表1	発表	テーマに基づいた発表準備をする
11	研究発表2	発表	テーマに基づいた発表準備をする
12	施設保育士の役割と資質について	講義、グループワーク	配布資料を読む
13	施設保育士の役割と資質について	講義、グループワーク	配布資料を読む
14	実習前準備としての留意点	講義、グループワーク	配布資料を読む
15	まとめ	講義、質疑応答	
備考	実習指導の授業は、多岐にわたって詳細な内容が含まれるため、具体的内容については、初回の授業で配布資料とともに説明を行う。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習							○	○	○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	保育実習Ⅱ-B			単位	2
科目名（英語）	Childcare Field Study II-B			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保育士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	杉野寿子				
授業概要	保育所以外の施設での実習を3年次の後期（3月）に実施する。「保育実習Ⅰ」での施設実習を踏まえ、施設の目的と機能、社会的背景、利用者の生活状況・課題等をより深く理解し、施設保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② 「保育実習Ⅰ」の単位を修得済みであること。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。</p>				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。				
参考図書・教材等	授業にて紹介する。				
実務経験を生かした授業	入所型・通所型の児童福祉施設での実務経験、および子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら授業する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	保育・養護の理論と実践の関係を具体的に理解し、それを基に状況に応じた適切な判断を行い、そのことについて理論的に説明することができる。
		(DP4)	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	保育士として必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保育・養護の理論と実践の関係を具体的に理解し、それを基に状況に応じた適切な判断を行い、保育士として必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
保育・養護の理論と実践の関係を具体的に理解し、それを基に状況に応じた適切な判断を行うことができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	実習に対する姿勢・態度	実習に対する取り組み方	その他	合計
総合評価割合							100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)				○		
	(DP4)			○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)				○		
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習施設からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。詳しくは「保育実習指導Ⅱ－B」で説明する。						

IV. 授業計画

回	実習内容
	<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅱ－B」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 「保育実習Ⅱ－B」では原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数 実習生の配属（依頼）は、原則として施設はおおむね2～4名とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導 実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p>

- ① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。
- ② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。
- ③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。

備考

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	学習心理学及び言語の習得(学習・言語心理学)		単位	2
科目名（英語）	Psychology of Learning and Language		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、認定心理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	古橋 啓介			
授業概要	人間形成学科・心理コースの専門教育科目として、人間行動の学習に関する学習理論と言語習得の機序に関する理論について講義する。人間は環境の変化に適応するため、絶えず自身の行動を変化させる。この行動の変化、行動傾向の変化を学習という。また、言語を習得し活用することによって、人間はより適応的に柔軟に環境に対応できるようになる。人間行動の学習と言語習得に関する行動理論、認知理論、発達理論を統合的に整理し講義する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	なし			
参考図書・教材等	・山内光哉・春木豊編、グラフィック学習心理学、サイエンス社、2001年、2800円 ・岩立志津夫・小椋たみ子編、よくわかる言語発達、ミネルヴァ書房、2017年、2400円			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	行動の学習と言語の習得に関する心理学的理論が説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	行動の学習や言語の習得に関する現実的問題に活用できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
人間の学習と言語習得に関する理論を理解し、説明し、活用できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学習理論と言語習得に関する理論の概要が説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	行動の変化と学習理論	講義	事後に「学習理論」の整理
2	行動の測定と実験的検討	講義	事後に学習内容の整理
3	生得的な行動と学習	講義	事後に日常的事例の確認
4	レスポナント条件付け	講義	事後に日常的事例の確認
5	オペラント条件付け	講義	事後に日常的事例の確認
6	両条件付けと認知的要因	講義・小テスト	事後に「両条件付けの異同」の確認
7	社会的学習(模倣と観察)	講義	事後に日常的事例の確認
8	社会的学習の過程	講義	事後に日常行動との対応を確認
9	自己強化	講義	事後に日常的事例の確認
10	行動理論から認知理論	講義	事後に両理論の立場の整理
11	言語習得の理論と前言語期	講義	事後に「言語習得理論」の整理
12	初語の出現と語彙の発達	講義	事後に「概念学習理論」の整理
13	二語文の出現と文法の獲得	講義	事後に「言語習得過程」の整理
14	言語習得における障害	講義・小テスト	事後に日常的事例の確認
15	行動の変化と言語の習得	講義	事後に講義内容を全体的視点から整理
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	心身科学		単位	2
科目名（英語）	Psychological and Physical Science		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士	
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	麦島 剛			
授業概要	心理学ではこころを身体の働きとして捉えるのが基本的な前提である。この授業では、まず、こころを生み出す神経系および内分泌系を知るため、神経科学（neuroscience）の知見と理論を解説する。さらに、ストレス学説と行動理論について解説し、ストレス関連障害・発達障害の心身相関について考察する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	テキストはとくに定めない。			
参考図書・教材等	参考にできる文献を授業の中で適宜紹介し、プリントを適宜配付する。			
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	こころが身体の働きの上で成立していることを理解する。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	神経科学の見方を通じて科学的思考を身につける。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)	卒業後に各分野で活躍する際の土台となる知識と思考を身につける。	
	技能	(DP 7)		
		(DP 8)		
		(DP 9)		
		(DP10)		
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
神経系を中心としたこころに関連する身体の構造と機能を理解し、心身の相関を理解する。その上で生命と人間と社会に関する諸原理と諸現象の理解に延伸させる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
神経系を中心としたこころに関連する身体の構造と機能を理解し、心身の相関を理解する。				
成績評価の基準				
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。			
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。	
C : 60~69	到達目標を達成している。
履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。	
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		90	10					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	こころとからだの関係	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄(解剖学的配置など)の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>	<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>
2	神経細胞の構造と機能(1) 平衡電位		
3	神経細胞の構造と機能(2) 活動電位		
4	神経細胞の構造と機能(3) 伝導・シナプス		
5	神経細胞の構造と機能(4) 神経伝達物質1		
6	神経細胞の構造と機能(5) 神経伝達物質2		
7	神経細胞の構造と機能(6) 神経伝達物質3		
8	脳の構造と機能(1) 概要		
9	脳の構造と機能(2) 脳幹		
10	脳の構造と機能(3) 間脳		
11	脳の構造と機能(4) 小脳・大脳基底核		
12	脳の構造と機能(5) 後頭葉・側頭葉		
13	脳の構造と機能(6) 頭頂葉		

14	脳の構造と機能(7) 前頭葉	
15	ストレス関連障害・発達障害への応用	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	比較心理学		単位	2
科目名（英語）	Comparative Psychology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期集中	
担当教員	和田由美子			
授業概要	ヒトとヒト以外の動物には様々な相違点と類似点が見られる。比較心理学は、ヒトを含む様々な動物種の行動とその背景に存在する心的過程（感情、知覚、学習、認知等）を観察・比較することによって、各動物種における心と行動の独自性と共通性が「なぜ」生まれたのかを解明しようとする学問である。本講義では、進化論と遺伝学の基礎について概説した後、様々な動物種の心と行動を比較し、主に進化的観点からの解説を試みる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の心理学関連科目を履修済みであることが望ましい。			
テキスト	使用しない			
参考図書 ・教材等	https://yumiwada43.wixsite.com/hikaku から資料をダウンロードすること（授業1週間前までにアップロード予定） M.R. パピーニ著・比較心理学研究会訳（2005）パピーニの比較心理学 行動の進化と発達 北大路書房 藤田和生著（1998）比較認知科学への招待―「こころ」の進化学 ナカニシヤ出版 長谷川真理子著（2002）生き物をめぐる4つの「なぜ」 集英社新書			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問・相談は授業のHP経由で受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	進化、遺伝、動物行動に関する理論と用語を正しく理解し、説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	進化的観点に基づき、特定の行動がなぜ生じるのかについて根拠や具体例を挙げながら説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	ヒトを含む各動物種における心と行動の独自性と共通性について、進化的視点に基づいて説明できる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
進化、遺伝、動物行動に関する理論と用語を正しく理解し、説明できる。 進化的観点に基づき、特定の行動がなぜ生じるのかについて根拠や具体例を挙げながら説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		66	34				100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP 3)		○	○			
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	比較心理学とは： 動物行動学、モーガンの公準、ティンバーゲンの4つのなぜ	●講義を中心に進めるが、理解を深めるために動画の視聴を随時取り入れる。 ●講義中に講義内容に関する質問やコメントを求める。自分自身やクラスメートの考えを整理し、理解を深めるために、積極的に発言すること。 ●5回目、10回目、15回目に、4人程度のグループに分かれて、教員の指定したテーマについてのディスカッションを行う。 ●理解度の確認のために、5回目、10回目、15回目に小テストを行う (評価対象)。 ●授業進度および受講者の理解度により、シラバスに提示した授業内容を若干変更する場合がある。	【事前学習】 (1) 授業の HP から資料をダウンロードし、質問事項をまとめておく。 https://yumiwada43.wixsite.com/hikaku (2) 授業の HP のリンクしてあるネット記事、論文、動画等に一通り目を通す。 (3) 授業 HP に記載してある Question に対する答えを入力する。 【事後学習】 授業内容を復習し、指定されたレポート課題を提出する。
2	進化の概念： 自然選択、性選択、血縁選択		
3	遺伝と行動 (1)： メンデルの法則、行動変異体		
4	遺伝と行動 (2)： 量的形質、近交系、選択交配		
5	総合討論、質疑応答、小テスト		
6	求愛・配偶・生殖 (1)：オスとメス、求愛行動、配偶者選択		
7	求愛・配偶・生殖 (2)：オス間闘争、配偶システム		
8	求愛・配偶・生殖 (3)：養育行動、親と子の対立		
9	コミュニケーション・情動：フェロモン、音声、ディスプレイ、表情		
10	総合討論、質疑応答、小テスト		

11	動物の学習（1）：初期の学習と行動、学習の比較分析	
12	動物の学習（2）：学習の生物学的制約、プログラムされた学習	
13	動物の認知（1）：感覚と知覚、概念形成、言語	
14	動物の認知（2）：社会的認知、社会的知性	
15	総合討論，質疑応答，小テスト	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○					○					○
その他（ ）																	
内容			4人程度のグループに分かれて講義内容に関連するテーマについて討論を行い，全体で共有する。														

I. 科目情報

科目名 (日本語)	生理心理学及び神経心理学(神経・生理心理学)			単位	2
科目名 (英語)	Physiological Psychology and Neuropsychology (Neuro- and Physiological Psychology)			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士・公認心理師		
標準履修年次	2	開講時期	後期		
担当教員	麦島 剛				
授業概要	この授業では、心身科学で履修した神経科学 (neuroscience) についての理解を踏まえ、心理学的諸理論とその生物学的基盤について紹介する。なぜ外界を知覚できるのか、感覚はなぜ生じるのか、なぜ睡眠と覚醒を繰り返すのか、なぜ学習や記憶が可能なのか、なぜ幻覚や妄想が生じるのか。これらは生理心理学的に議論され、現在も、より本質的な答えが求めつづけられている問いかけである。これらを体系的に解説する。				
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心身科学を履修していることが強く望まれる。				
テキスト	テキストはとくに定めない。				
参考図書・教材等	参考にできる文献を授業の中で適宜紹介し、プリントを適宜配付する。				
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	それぞれの心理学的事象がどのような神経系の機能に関連するかを理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。伝統的な文系・理系の枠組みを超えた総合知に挑む。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	神経科学の用語と理論を用いて心理学的諸事象を説明できる力を身につける。
		(DP 6)	神経科学の用語と理論を用いて心理学的諸事象を説明できる力を身につける。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	こころが身体の働きの上で成立していることを理解する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
神経科学 (neuroscience) としての心理学理論を体系的に理解する。その上で生命と人間と社会に関する諸原理と諸現象の理解に延伸させる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
神経科学 (neuroscience) としての心理学理論を体系的に理解する。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。
C：60～69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10					
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○				
	(DP6)	○	○				
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○				
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	生理心理学と精神生理学	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹</p>	<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>
2	神経細胞の構造と機能（「心身科学」要点復習）		
3	脳の構造と機能1（「心身科学」要点復習）		
4	脳の構造と機能2（「心身科学」要点復習）		
5	感覚・知覚		
6	脳波		
7	意識・覚醒・睡眠		
8	学習・記憶(1) 学習理論・記憶の理論		
9	学習・記憶(2) 記憶障害		

10	学習・記憶(3) 記憶の神経回路	介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。 ◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。
11	情動・動機づけ・依存	
12	こころの不調(1) 統合失調症・不安・うつ の神経基盤	
13	こころの不調(2) 神経心理学的症状	
14	こころの不調(3) 発達障害の神経基盤	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	加齢基礎論			単位	2
科目名（英語）	Gerontology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士		
標準履修年次	2	開講時期	後期		
担当教員	麦島 剛				
授業概要	<p>社会の高齢化が急速に進行しつつある現在、加齢の諸問題にいかに対処していくかが問われている。加齢は基本的には生物学的プロセスであるいっぽう、社会的問題とも密接に関連している。加齢自体が一つの社会問題ともいえる。このような背景に基づき、老年学（gerontology）という学際的分野が成立した。この授業では、老年学における議論に沿って、加齢の生物学的側面と社会的側面の双方を解説する。双方の理解は、実りある加齢（サクセスフル・エイジング）とは何かを考察することにつながる。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	テキストはとくに定めない。				
参考図書・教材等	参考のできる文献を授業の中で適宜紹介し、プリントを適宜配付する。				
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	心理学・生物学・社会諸科学等を土台とした老年学の知見・考え方・課題を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	加齢に関する様々な社会現象・自然現象が繋がっていることを理解する。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	古典的な文系・理系の枠を超えた総合知に挑む。
		(DP 6)	高齢化社会を牽引するために土台となる知見と考え方を身につける。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年学における加齢の生物学的側面と社会的側面の双方を体系的に理解する。その上で生命と人間と社会に関する諸原理と諸現象の理解に延伸させる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

老年学における加齢の生物学的側面と社会的側面の双方を体系的に理解する。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。
C : 60~69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		90	10					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	老年学における考え方	◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。 ◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立てる。 ◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。 ◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹	事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。
2	寿命学1		
3	寿命学2		
4	高齢化社会と経済		
5	高齢者社会における就労1		
6	高齢者社会における就労2		
7	プロダクティビティ		
8	高齢者QOL		
9	生物学的老化学説		

10	生物の進化と個体死	介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。 ◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。
11	テロメア(1) DNA複製	
12	テロメア(2) テロメア短縮	
13	老化遺伝子をめぐる近年の動向	
14	エラー破局説とアポトーシス	
15	寿命の生命科学をめぐる近年の動向	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	知覚心理学（知覚・認知心理学）		単位	2
科目名（英語）	Perceptual Psychology (Psychology of Perception and Cognition)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士，公認心理師	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	原 口 雅 浩			
授業概要	知覚の中の視覚の機能と役割について学ぶ。簡単な実験やデモンストレーションを通じて、われわれ（の眼と脳）がどのようにこの世界を創造しているのかを理解する。なお、受講生の人数によって実験内容を変更する可能性があります。また、ポートフォリオ評価をします。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理学統計法，心理学実験Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。			
テキスト				
参考図書・教材等	参考文献は、授業の時間中に紹介する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	個別の質問・相談等をメールで応じる。全体的に説明が必要な事項は授業中に解説する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	知覚心理学についての専門知識を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	知覚心理学に関連する現象がなぜ起きているかを説明できる。
		(DP4)	知覚機能について自分の考えを適切に表現できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	知覚心理学に関する科学的手法（スキル）について説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	簡単な実験やデモンストレーションを通じて、われわれ（の眼と脳）がどのようにこの世界を創造しているのかを理解できる。		
	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	簡単な実験やデモンストレーションの結果を理解できる。		
	成績評価の基準		
	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	視覚障がい者の支援について理解することができる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		
	われわれ（の眼と脳）がどのようにこの世界を創造しているのかを理解できる。		
	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
	簡単な実験やデモンストレーションの結果を説明できる。		
	C：60～69 到達目標を達成している。		

簡単な実験やデモンストレーションの結果を理解できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

簡単な実験やデモンストレーションの結果を理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			25	45		30		100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○		○		
思考・判断・表現	(DP3)		○	○		○		
	(DP4)		○	○		○		
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○		○		
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	講義の概要(感覚・知覚・認知)	講義	視覚経路図の作成
2	眼の構造	盲点の位置の測定	盲点の位置の計算
3	脳の構造	講義	脳地図の作成
4	心理物理学	マグニチュード推定法	散布図の作成
5	視覚1(形態視)	錯視の実験	錯視量の計算
6	視覚2(色)	マッカロウ効果の実験	ベンハムのコマ作成
7	視覚3(立体視)	両眼立体視の実験	エームズの部屋作成
8	視覚4(運動視)	エームズの窓のデモ	パークスのらくだ作成
9	聴覚	講義・閾値デモ	触覚刺激作成
10	その他の感覚(味覚・嗅覚・体性感覚)	講義・点字デモ	高次脳機能障害調べ1
11	幻肢	VTR・講義	幻肢のメカニズム
12	盲視	講義	高次脳機能障害調べ2
13	半側空間無視	VTR・講義	高次脳機能障害調べ3
14	先天盲	VTR・講義	ポートフォリオ提出
15	まとめ	講義	立体折り紙作成

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	認知心理学（知覚・認知心理学）			単位	2
科目名（英語）	Cognitive Psychology (Psychology of Perception and Cognition)			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	光藤 宏行				
授業概要	ヒトは、自分で意識できるできないに関わらず、外界からの情報を取り入れて意思決定、思考、行動を行なっている。これを支える認知的プロセスについての基礎的な事柄を中心に紹介する。授業は理解を助けるための映像資料を交えながら進める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理学実験Ⅰ・Ⅱ、知覚心理学を履修していることが望ましい。				
テキスト					
参考図書・教材等	参考文献①：箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（編）『認知心理学』有斐閣，2010 参考文献②：松尾太加志（編）『認知と思考の心理学』サイエンス社，2018 参考文献③：越智啓太（編）『心理学ビジュアル百科』創元社，2016 参考文献④：越智啓太（編）『意識的な行動の無意識的な理由：心理学ビジュアル百科認知心理学編』創元社，2018				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	電子メールで受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	認知心理学についての専門知識を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	認知心理学に関連する現象がなぜ起きているかを説明できる。
		(DP4)	認知過程について自分の考えを適切に表現できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	認知心理学に関する科学的手法（スキル）について説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
認知心理学の基本的概念および基礎的知見を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
認知心理学の重要概念、基礎的知見、およびそれらの関係についての確に説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			100				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○				
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	スクリーンに映像資料を投影しながら授業を行う。授業中に、簡単なデモンストレーションなどを通じて体験できるや実験を通じて理解を深める。	授業内容に記載された事項について、参考文献を事前に読んで内容を予習する。 授業で紹介した事柄について、参考文献からさらに調べて理解を深める。
2	認知心理学の研究手法		
3	考えられない(認知・思考の障害)		
4	何に注目するか(注意)		
5	何を見るか(物体認識)		
6	誰を見るか(顔の認知)		
7	心に浮かぶもの(意識)		
8	中間のまとめ		
9	子どもはどう認識するか(発達)		
10	何を覚えているか(記憶)		
11	何を選ぶか(意思決定)		
12	認知は何のためか(問題解決)		
13	どうやって考えるか(思考)		

14	言葉の理解（言語）	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	対人心理学		単位	2
科目名（英語）	Social Psychology of Interpersonal Relationships		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	前期	
担当教員				
授業概要	福祉社会を支える人材として対人関係に関わる心理を知っていることは有利になります。この講義では対人コミュニケーションに困らないための初歩を説明します。人に好感をもたれること、人を理解すること、人に説明すること、対人葛藤を解決すること、コミュニケーションを通して心理や行動が操作されやすいこと等を取り上げます。なお授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」を同時に履修することが望ましい			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	対人コミュニケーションで失敗しないための初歩の知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	積極的に他者より良いコミュニケーションをとろうとすることができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
対人心理学の知識を積極的に学習できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た対人心理学の基礎知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人間関係を振り返る	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
2	話を聞く1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
3	話を聞く2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
4	話を聞く3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
5	話を聞く4	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
6	説明する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
7	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
8	説明する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
9	説明する3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
10	聞いて、説明する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
11	聞いて、説明する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
12	解決する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
13	解決する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
14	解決する3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。 通常は自分の人間関係をチェックするための課題をペアで行います。 復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日はダウンロードした提示資料を持参してください。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会心理学（社会・集団・家族心理学）			単位	2
科目名（英語）	Social Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士 高等学校教諭一種免許状		
標準履修年次	1	開講時期	後期		
担当教員	上野 行良				
授業概要	社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また「人格心理学」を同時に履修することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を積極的に学習する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の課題を通して自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を知る。。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	ステレオタイプ 1	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
2	ステレオタイプ 2	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
3	ステレオタイプ 3	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
4	ステレオタイプ 4	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
5	ステレオタイプ 5	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
6	基本的な帰属の誤り	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
7	中心ルート・周辺ルート	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
8	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
9	社会的促進と抑制	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
10	傍観者効果	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
11	少数派の影響	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
12	制度規範	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
13	集団極性化現象	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
14	集団思考	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
15	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learning の資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				<p>毎回異なるメンバーとグループを作る。</p> <p>①前回までの内容に関するチェックテストと採点（事前・事後学習としてテストの準備をすること）</p> <p>②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる</p> <p>④内容の概説</p> <p>⑤前回の質問に対する回答</p> <p>⑥各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する</p> <p>⑦与えられたテーマでコメントを書く</p> <p>⑧グループでコメントを共有する</p> <p>⑨授業内容についてのコメントと質問を書く</p> <p>毎回、前回までのテキストを持って来ること。</p> <p>復習課題のときは、事前に課題を説明するので、準備をして来ること。また、ダウンロードした提示資料を持参すること。</p>														

I. 科目情報

科目名（日本語）	産業・組織心理学			単位	2
科目名（英語）	Industrial and Organizational Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中		
担当教員	縄田 健悟				
授業概要	<p>産業・組織心理学とは、産業活動に関わる企業や公的機関といった組織で働く人の心理と行動を研究する心理学の一領域である。本授業で扱うテーマの例は以下のものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の人間関係を改善するにはどうしたら良いか？ ・優れたチームは、そうでないチームと何が違うのか？ ・消費者の心を掴む広告の特徴はどのようなものか？ <p>本授業では、組織心理学の研究知見や理論に基づいて、上記の問いの答えとなる、組織における人間の心理や行動を説明する。これによって、学生自身が卒業後に実際に組織で働く際に問題となる組織的・心理的課題を考察する機会を設け、その解決策への示唆を行う。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の心理学に関する科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	なし。授業資料を配布する。				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	講義で紹介した産業・組織心理学に関わる知識を理解し、獲得する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	獲得した知識を現実の社会場面に応用する思考能力を養い、実践するスキルを身につける。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
産業・組織心理学の知識・視点・方法を正確に理解した上で、現実社会と結びつけながら自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
産業・組織心理学の知識・視点・方法について用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

産業・組織心理学の知識・視点・方法について正確かつ応用面まで理解した上で、現実社会と結びつけながら自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
産業・組織心理学の知識・視点・方法について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
産業・組織心理学の知識・視点・方法についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
産業・組織心理学の知識・視点・方法について用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
産業・組織心理学の知識・視点・方法について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	70				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	産業組織心理学とは何か	講義は、配布プリントおよびパワーポイントを用いて行う。適宜、最新の研究動向や、時事問題を取り上げながら、授業内容の理解を深めていく。	<事前課題> 随時、講義内容と関連したワークシートを配布し、次回の授業に臨むことが求められる。 <事後課題> 毎講義後に、ウェブ上でのコメントを提出してもらい、その提出をもって、授業への出席とみなす。
2	働く人のモチベーション	同上	
3	キャリア発達	同上	
4	組織における対人関係 1	同上	
5	組織における対人関係 2	同上	
6	組織コミュニケーション	同上	
7	集団のダイナミックス	同上	
8	集団意思決定	同上	

9	チームワーク 1	同上	
10	チームワーク 2	同上	
11	リーダーシップ	同上	
12	産業事故と安全	同上	
13	職場のメンタルヘルス	同上	
14	消費者行動	同上	
15	まとめ	同上	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	司法・犯罪心理学			単位	2
科目名（英語）	Forensic and Criminal Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	後期集中		
担当教員	日高みちえ				
授業概要	司法・犯罪心理学の基礎知識を学び、犯罪・非行を抑止する方策について一緒に考えます。 ①犯罪・非行の概念、理論、現状、②犯罪者・非行少年の処遇と心理的支援 ③犯罪被害者への心理的支援、④家事事件の基礎と心理的支援 ⑤犯罪・非行を抑止する上で必要なこと				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	岡本吉生編「司法・犯罪心理学」野島一彦・繁榊算男監修『公認心理師の基礎と実践』第19巻、遠見書房、2019、2,600円＋税				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義中及び講義の前後に個別の質問・相談に応じます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	司法・犯罪心理学の基礎的な事柄について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	司法・犯罪分野における諸問題についての意見が述べられる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	犯罪・非行の抑止策についての意見が述べられる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らが体験したことや見聞きしたことを踏まえて DP 2、3、5 について説明し、意見が述べられる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP 2、3、5 について説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内レポート	小テスト	発表				合計
総合評価割合		40	30	30				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	ガイダンス、犯罪・非行とは 犯罪心理学の歴史	各回とも講義とディスカッション、質疑応答などを行う。	適宜、テキストの対応する箇所を読む。
2	科学的な犯罪捜査と犯罪・非行の予防に関する心理学		
3	犯罪・非行の心理アセスメント		
4	事実への接近のための様々な心理面接と技法		
5	犯罪心理学に関する法律と制度		
6	少年法制における非行少年への心理支援		
7	司法機関における犯罪加害者への心理アセスメントの実際		
8	矯正施設における加害者臨床		
9	各種犯罪類型の特徴と心理支援		
10	犯罪被害者への心理支援		
11	社会内処遇における心理支援		
12	家事事件における法律と制度		
13	離婚と子どもの心理、離婚後の家族関係と子どもへの支援		
14	犯罪・非行を抑止するには		

15	まとめ、小テスト、レポート	講義全体の振返り、質疑応答、小テスト回答、レポート作成	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第1回から第14回に、グループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年心理学	単位	2
科目名（英語）	Psychology of Aging	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	麦島 剛		
授業概要	<p>社会の急速な高齢化に伴い、高齢者に関する科学的な理解の重要性がますます高まりつつある。老年期の心理学的側面について科学的に理解する分野が老年心理学である。近年、老年心理学的研究が進むにつれ、従来の素朴な老人観の不確かさが次々と明らかにされてきた。この授業では、感覚知覚、記憶、知能、人格などが加齢に伴ってどのように変化するのか（しないのか）を中心に、生涯発達心理学の視点より解説する。また、実りある老年期を過ごすための心理学的研究についても紹介する。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	テキストはとくに定めない。		
参考図書・教材等	参考にできる文献を授業の中で適宜紹介し、プリントを適宜配付する。		
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	高齢期に関する心理学的諸現象と諸理論を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	高齢期に関する心理学を支える論理的統一性と多角的観点を理解する。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期の心理学的側面について科学的に理解する。その上で生命と人間と社会に関する諸原理と諸現象の理解に延伸させる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
老年期の心理学的側面について科学的に理解する。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 8 割以上 9 割未満の成果が認められる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の 7 割以上 8 割未満の成果が認められる。
C : 60~69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 6 割以上 7 割未満の成果が認められる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の 6 割未満の成果が認められる。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10					
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP 3)	○	○				
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	老年心理学とは	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された</p>	<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>
2	老年心理学の研究法(1)		
3	老年心理学の研究法(2)		
4	記憶と加齢(1) 記憶のメカニズム		
5	記憶と加齢(2) 実験室場面での研究		
6	記憶と加齢(3) 日常的場面での研究		
7	知能と加齢(1) 知能の基本的知識		
8	知能と加齢(2) 年をとると頭が鈍るのか?		
9	人格と加齢(1) 人格の基本的知識		
10	人格と加齢(2) 年をとると人柄が変わるのか?		
11	老年期の環境適応		
12	主観的幸福感・死にゆく過程の研究		

13	老年期のこころの不調 認知症	公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。
14	老年期のこころの不調 その他	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族心理学			単位	2
科目名（英語）	Family Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師(読替)、認定心理士		
標準履修年次	4年	開講時期	前期		
担当教員	吉岡和子				
授業概要	<p>1. 家族の問題に心理学的見地から取り組むことの必要性が、ますます高まっています。現代家族が直面している心理的な諸問題に対しての理解を深めるために、家族心理学の基本的枠組みや家族にかかわる心理的諸問題について取り上げます。</p> <p>2. 家族への心理臨床的介入に関するアプローチを学ぶと共に、臨床事例のなかで家族についての思いに触れることで、各自が家族についての体験を再考し、家族についての考えを深める機会になればと思います。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	①家族の心理 第2版 家族への理解を深めるために（平木典子・中金洋子・藤田博康・野末武義共著 サイエンス社）				
参考図書・教材等	<p>①家族の心理－変わる家族の新しいかたち（小田切紀子・野口康彦・青木聡編 金剛出版）</p> <p>②家族心理学入門（岡堂哲雄編 培風館）</p> <p>その他、授業中に紹介及び適宜配布する。</p>				
実務経験を生かした授業	医療機関、心理教育相談室等で家族への心理援助に従事した経験を生かして授業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。</p> <p>さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。</p>				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	家族に関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるかを説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	実際の事例の中で、その視点をいかに生かすのかについて意見を述べるができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自分なりの家族観について意見を述べるができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自分の家族体験を再考した上で、DP 2、3、5について述べるができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
DP 2、3、5について述べるができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		授業への参加度	発表	まとめレポート			合計
総合評価割合		30	40	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	10	40				50
思考・判断・表現	(DP3)	10					10
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	10		30			40
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。	各自、発表準備を行う。
2	家族とは何か（第1章）	①発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。
3	家族の健康性とは（第2章）		
4	家族づくりの準備①（第3章 3-1~3-3）	②発表者が事前に担当する章からキーワードを3つ選んで調べて発表。	また、発表者以外の受講者も、その場ではじめて聞くのではなく、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。
5	家族づくりの準備②（第3章 3-4~3-5）		
6	夫婦の発達とは（第4章）	③参加者と共有したいテーマを提出する。	以上のような予習に加えて、具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
7	子どもが育つ場としての家族（第5章）		
8	変化する社会の中の家族（第6章）	④各自が感想や疑問を発表し、発表者からのテーマについての考えを述べる。	また、疑問がある場合は適宜質問してください。
9	家族理解に役立つ臨床理論（第7章）		
10	家族の変化に役立つ臨床的援助技法（第8章）	適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりDVDを視聴したりしながら、理解を深めていく。	

11	家族への臨床的アプローチの実際①心理援助の形態（第9章 9-1）	
12	家族への臨床的アプローチの実際②家族にふりかかるストレス／喪失に対する臨床的アプローチ（第9章 9-2／9-5）	
13	家族への臨床的アプローチの実際③家族間に起こる暴力に対する臨床的アプローチ（9章 9-3）	
14	家族への臨床的アプローチの実際④思春期・青年期の子どもがいる家族への臨床的アプローチ（9章 9-4）	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				第3回から第15回に、グループ・ディスカッションを行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	感情・人格心理学/人格心理学		単位	2
科目名（英語）	Psychology of Emotion and Personality/ Personality Psychology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士	
標準履修年次	1	開講時期		
担当教員	上野 行良			
授業概要	福祉社会を支えるためにひとりひとりの人間に対して深い理解をもつことは不可欠です。他者を「嫌な性格」ですまし、自己の問題を「性格を直す」ですますような浅く無意味な対処は知識のなさや誤ったスキーマ処理に起因する態度です。本授業では個人を理解するために必要な心理学的な知識を説明します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また同時に「社会心理学」を履修していることが望ましい。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人格の概念と形成について心理学的な知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自己や他者のパーソナリティについて客観的に考えようとする事ができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	「個人」を理解するために必要な心理学的な知識を積極的に身につけることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た「個人」を理解するために必要な心理学的な知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人格心理学・感情心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
2	人格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
3	欠点・性格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
4	人格形成の要因	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
5	環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
6	環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
7	マクロな環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
8	マクロな環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
9	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
10	マクロな環境3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
11	行動を変える1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
12	行動を変える2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
13	行動を変える3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
14	行動を変える4	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他（ ）																				
内容				全回課題があり、他者とのコミュニケーションがある。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	障害者・障害児心理学			単位	2
科目名（英語）	Psychology for Adults and Children with Disabilities			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	小山 憲一郎				
授業概要	近年、障害児・者に対して教育現場では特別支援教育がはじまり、福祉領域においても「発達障害者支援法」も成立し、障害児・者を取り巻く支援環境は大きく変わり始めているものの、ここ最近の事件報道に加害者として取り上げられる等のさまざまな問題を抱えている。この講義では、さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深めていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	一年次に基本的な心理学の知識を身に着けていること。				
テキスト					
参考図書・教材等	田中新正 古賀清治 編著 新訂『障害児・障害者心理学特論』NHK 出版				
実務経験を生かした授業	心理実践の実務経験のある教員が発達障害や中途障害を持つ人への心理的理解と支援の方法について講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業終わりのリアクションペーパーで受け付けます。主なものは次回の授業の中で扱いますが、個別に回答を要する場合はメールでアポイントを取ってください。メールでの回答、もしくはオフィスアワーにて対応いたします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	さまざまな『障害』の特性について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について考察を深められる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	60				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30	40			
思考・判断・表現	(DP3)		10				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	障害とは何かー障害者・障害児の心理社会的課題ー	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのリアクションペーパーを配布します。その中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。	参考文献や、テーマに関する論文を講読すること
2	知的障害に関する心理と支援		
3	自閉性スペクトラム障害の心理と支援		
4			
5			
6	ADHDに関する心理と支援		
7			
8	学習障害に関する心理と支援		
9	特別支援教育と発達障害者支援法に関して		
10	精神障害に関する心理と支援(統合失調症・うつ病・不安障害)		
11	運動障害に関する心理と支援		
12	中途障害・進行性疾患に関する心理と支援		
13	障害児・者の家族の心理と支援		
14	早期発見・早期療育(乳幼児期の支援)		
15	まとめ		

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康・医療心理学			単位	2
科目名（英語）	Health and Medical Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	小山 憲一郎				
授業概要	<p>こころとからだは密接に影響しあっているものであり、日常生活におけるストレスは、その双方に影響を与える。こころの問題や身体症状に取り組む時には、その密接な関連を視野に入れ理解しておくことが必要である。そこで、この講義では具体的には以下のことを学習し、理解を深める。</p> <p>1. 心身医学的、また、心理臨床的な臨床実践の中で、こころとからだの関係はどのように理解され、どのように身体症状に取り組まれてきたかを学習する。</p> <p>2. 心身医学領域においては認知行動療法が心理療法の主流となりつつあり、疾患ごとの技法パッケージが作られている。しかしながら技法に目を奪われると認知行動療法はうまくいかないことが多々ある。そのため、伝統的な心理療法との共通部分である技法以前のクライアントーセラピスト関係の重要性を理解した上で、専門的な技法の知識と共にそれらの導入について学習する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	<p>参考文献：坂本真士「臨床に活かす基礎心理学」東京大学出版 2010、熊野宏明「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012</p> <p>山上敏子「方法としての行動療法」金剛出版 2007 ヘルツォーク「心身医学の最前線 医療と心理療法の新たな展開」創元社 2015 適宜、資料を配付する。</p>				
実務経験を生かした授業	医療領域での実務経験のある教員が担当する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等（koyama@fukuoka-pu.ac.jp）にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	伝統的心理臨床の流派と認知行動療法について共通部分と相違点について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	からだに対するこころの影響やそれを踏まえた心理臨床的な実践について説明することができる
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生物心理社会モデルに基づき、心理的援助の方針を検討するための基礎知識を身に着ける。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
健康・医療領域における心理的支援の対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、方法、に関する用語の意味が理			

解できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
健康・医療領域における心理的支援の対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際について実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
健康・医療領域における対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
健康・医療領域における対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
健康・医療領域における対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際に関する用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
健康・医療領域における対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	60				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス からだへのこころの影響（心理社会的ストレスモデル・臨床に活かす基礎心理学）	講義	参考図書：臨床に生かす基礎心理学の該当箇所を読む。 心理社会的ストレスモデルについて復習する。
2	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援	質疑応答、講義	健康・医療領域における心理的支援に関する論文等を購読する。
3	保健活動の現場における心理社会的課題及び必要な支援 トランスセオレティカルモデルについて	質疑応答、講義	保健活動、予防医療に関する心理的支援の論文等を購読する。トランスセオレティカルモデルについて復習する。

4	行動療法（応用行動分析）	質疑応答、講義、	応用行動分析を用いた心理的支援に関する論文を購読する。
5	認知療法—精神分析と行動療法をつなぐ—	質疑応答、講義	認知療法を用いた心理的支援に関する論文を購読する。
6	認知行動療法の発展（行動療法と認知療法の出会いとストレスマネジメント）	質疑応答、講義	ストレスマネジメントに関する論文を購読する。
7	リラクセーション（呼吸法・自律訓練法・漸進性弛緩法）	質疑応答、講義、体験的学習	リラクセーションを用いた心理的支援に関する論文を購読する。日常生活においてリラクセーションを実施してみる。
8	第二世代の認知行動療法—カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション—	質疑応答、講義	認知療法・認知行動療法に関する論文等を購読する。
9	第三世代の認知行動療法の導入（マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメント：カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション）	質疑応答、講義	アクセプタンス&コミットメントセラピーや行動活性化療法に関する論文を購読する。
10	第三世代の認知行動療法2（マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメントを活かした介入技法）	質疑応答、講義、体験的学習	マインドフルネスに関する論文を購読する。
11	うつ病に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／行動活性／認知再構成／マインドフルネス等）	質疑応答、講義	うつ病に対する心理的支援に関する論文を購読（認知行動療法を中心に）。
12	不安症および災害関連のPTSDに対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／リラクセーション／エクスポージャー／マインドフルネス）	質疑応答、講義	不安症に対する心理的支援に関する論文を購読（認知行動療法を中心に）。
13	ストレス関連疾患（心身症）に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／不安管理訓練）	質疑応答、講義	ストレス関連の身体疾患に対する心理的支援に関する論文を購読。
14	認知行動療法を用いた医療現場での多職種連携	質疑応答、講義	チーム医療における心理師の役割に関する論文を購読。
15	まとめ	質疑応答、講義	これまでの講義について復習しておく。
備考	事前事後学習で自ら検索し、購読した論文、書籍等についてはリアクションペーパーにて申告した上、必要があれば質問すること。成績評価における加点の対象とする。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習										○				○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				リラクセーションやマインドフルネスエクササイズを体験する。グループディスカッションは適宜取り入れる。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学的支援法	単位	2
科目名（英語）	Methods of Psychological Support	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、認定心理士
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	岩橋宗哉・吉岡和子		
授業概要	<p>下記についての知識及び技能を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界（#1～7） ・プライバシーへの配慮（#8,9） ・訪問による支援や地域支援の意義（#8,9） ・心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援（#8,9） ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法（#10～14） ・心の健康教育（#15） 		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書 ・教材等	<p>①川瀬正裕・松本英夫・松本真理子「心とかかわる臨床心理-基礎・実際・方法-」ナカニシヤ出版、2006年</p> <p>②杉浦京子「臨床心理学講義」朱鷺書房、2002年</p> <p>③川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子「これからの心の援助-役に立つカウンセリングの基礎と技法-」ナカニシヤ出版、2001年</p> <p>④河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房、1970年</p> <p>⑤高橋紀子・吉岡和子「心理臨床、現場入門ー初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版、2010年</p> <p>その他は講義中に紹介</p>		
実務経験を生かした授業	医療機関、心理教育相談室等での心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	<p>基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。</p> <p>さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	①代表的な心理療法やカウンセリング、②訪問による支援や地域支援の意義、③心理に関する支援を要する者の関係者への支援、④心の健康教育について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	プライバシーへの配慮を行うことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法に関する基礎的技能を身につけている。

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
体験的学習をもとに、DP 2 について述べるができる。また、DP 6 及び DP 10 を達成している。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
DP 2 について述べるができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	授業への参加度	まとめレポート					合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	20	40				60
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)	20					20
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP 10)	20					20
備考	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	代表的な心理療法及びカウンセリング 1	資料や DVD 等を通して基本的な考え方を学ぶ。	参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。
2	代表的な心理療法及びカウンセリング 2	心理学的支援法について体験的に学ぶ。	
3	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 1 体験を表現すること①：コラージュ作成を通して	演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。	以上のような予習に加えて、具体的なかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
4	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 2	適宜解説を加えたり、参考資料を紹介	

	体験を表現すること②：コ ラージュ作成を通して	したりしながら、理解を深めていく。 ください。
5	カウンセリングの意義を 体験的に学ぶ3 相互作用の中で表現する こと：スクイグルを通して	
6	カウンセリングの意義を 体験的に学ぶ4 体験を味わい表現する：フ ォーカシングを通して	
7	カウンセリングの意義を 体験的に学ぶ5 ワーク体験の共有	
8	心理学的支援の進め方 1	
9	心理学的支援の進め方 2	
10	心理学的支援の進め方を 体験的に学ぶ1 ラポールの確立①：(傾聴 を支える技術)	
11	心理学的支援の進め方を 体験的に学ぶ2 ラポールの確立②：(面接 環境や面接者の態度の重 要性)	
12	心理学的支援の進め方を 体験的に学ぶ3 質問技法の検討を通して	
13	心理学的支援の進め方を 体験的に学ぶ4 傾聴法①：ロールプレイを 通して	
14	心理学的支援の進め方を 体験的に学ぶ5 傾聴法②：ロールプレイを 通して	
15	心の健康教育：リラックス 法を中心に	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第3回から第15回で体験学習を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar in Psychology	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師
標準履修年次	3年	開講時期	後期
担当教員	吉岡和子・岩橋宗哉・小山憲一郎		
授業概要	<p>知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、かつ、事例検討で取り上げる。</p> <p>（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得</p> <p>（1）コミュニケーション</p> <p>（2）心理検査</p> <p>（3）心理面接</p> <p>（4）地域支援 等</p> <p>（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>（エ）多職種連携及び地域連携</p> <p>（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	<p>臨床心理学 第16巻 第3号 特集 臨床的判断力（金剛出版）</p> <p>臨床心理学 第17巻 第1号 特集 「こんなときどうする？」にこたえる20のヒントー心理職の仕事術（金剛出版）</p> <p>その他は講義中に紹介</p>		
実務経験を生かした授業	医療機関等での心理臨床経験を生かして授業を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。</p> <p>さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	心理的援助のあり方を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	関連する諸問題に対して心理的援助の適切な対応を検討できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	心理的援助のスキルの基礎を用いて社会生活に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	様々な立場にある人々に対する心理的援助のスキルの基礎を修得している。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
事例検討や役割演技をもとに、心理的援助のあり方について理解し、適切な対応であるかを検討できる。心理的援助の基本的なスキルを用いることができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
DP 2、3、6、10 について、最低限身につけている。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	授業への参加度	発表					合計
総合評価割合	30	70					100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	10	20				30
思考・判断・表現	(DP 3)	10	20				30
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)		10				10
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)	10	20				30
備考	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	子ども及び大人の事例の紹介	講義	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。
2	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。
3			
4			
5	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する	発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。
6			
7			

8	心理面接：ロールプレイ	小グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。	具体的なかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
9			
10	子どもの事例についての支援計画	グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う	
11	大人の事例についての支援計画		
12	心理職の実践上の課題	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。	
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			第2回から第15回に、課題解決学習、グループ・ディスカッション及びロールプレイを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理的アセスメント			単位	2
科目名（英語）	Psychological Assessment			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、認定心理士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	池 志保・吉岡和子				
授業概要	<p>この授業では、下記4点について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的アセスメントの目的及び倫理（＃1） 2. 心理的アセスメントの観点及び展開（＃2～15） 3. 心理的アセスメントの方法（観察、面接および心理検査）（＃2～15） 4. 適切な記録及び報告（＃2～15） 				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理コースの学生であること。				
テキスト	授業の中で適宜紹介します。				
参考図書・教材等	授業の中で適宜紹介します。				
実務経験を生かした授業	医療機関等で心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には、授業中に助言をしていきます。また、最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、メールを使って質問時間を予約してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	心理的アセスメントの適応について検討できる。
		(DP4)	心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルの基礎を修得している。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標に加えて、心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現ことができ、様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルの基礎を修得している。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明でき、心理的アセスメントの適応について検討できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について大変よく説明できる。心理的アセスメントの適応について大変よく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを大変適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを大変よく修得している。

A：80～89 履修目標を達成している。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法についてよく説明できる。心理的アセスメントの適応についてよく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルをよく修得している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について問題なく説明できる。心理的アセスメントの適応について問題なく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを問題なく適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを問題なく修得している。

C：60～69 到達目標を達成している。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法についてまずまず説明できる。心理的アセスメントの適応についてやや検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えをまずまず適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルをまずまず修得している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	70				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)		◎	◎			
	(DP4)		◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		◎	◎			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	心理的アセスメントの目的及び倫理	#1：池、吉岡	<p>事前学習 参考文献を調べ、読んでおく。</p> <p>事後学習 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。</p>
2	面接法（インタビュー：生育歴や家族の状況等の把握）	#2～8：池	
3	質問紙法① TEG	#9～15：吉岡	
4	質問紙法② YG	資料やDVD等を通して基本的な考え方を学ぶ。	
5	発達・知能検査① ウェクスラー式（1）実施	心理アセスメントについて体験的に学ぶ。	
6	発達・知能検査② ウェクスラー式（2）分析・解釈	演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。	
7	発達・知能検査③ ビネー式	適宜解説を加えたり、参考資料を紹介した	

8	描画法 バウムテスト	りしながら、理解を深めていく。 レポート課題は授業中に指示します。
9	観察法	
10	家族のアセスメント	
11	投映法① PF スタディ (1)	
12	投映法② PF スタディ (2)	
13	投映法③ SCT	
14	投映法④ SCT	
15	報告書の書き方	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容			第3回～15回で、心理アセスメントの実習やグループワークを行う														

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健学	単位	2
科目名（英語）	Mental Health	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	小嶋秀幹		
授業概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。		
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3200円）		
参考図書・教材等			
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が講義する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、内容を説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、最低限の内容を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を的確に説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を概ね説明できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、基本的な内容は説明できる。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	精神保健とは(1)	講義	テキスト第1章を読む
2	精神保健とは(2)	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
3	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
4	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
5	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
6	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
7	精神保健活動の実際(家庭)	質疑応答、講義	テキスト第4章Iを読む
8	ライフサイクルにおける精神保健(思春期)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIIを読む
9	ライフサイクルにおける精神保健(青年期)	質疑応答、講義	テキスト第2章IVを読む
10	精神保健活動の実際(学校)	質疑応答、講義	テキスト第4章IIを読む
11	ライフサイクルにおける精神保健(成人期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
12	ライフサイクルにおける精神保健(成人期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
13	精神保健活動の実際(職場)	質疑応答、講義	テキスト第4章IIIを読む
14	ライフサイクルにおける精神保健(老年期)	質疑応答、講義	テキスト第2章VIを読む

15	精神保健活動の実際（地域）	質疑応答、講義	テキスト第4章IVを読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉心理学			単位	2
科目名（英語）	Psychology for Social Welfare			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	西原尚之				
授業概要	この授業では①福祉現場における心理職の役割、②心理臨床における社会福祉・ソーシャルワークの意義を学習します。私たちが生活する環境、つまり個人・家族・地域とその関係性のなかで起こる諸課題について、心理的支援、社会福祉的支援がどのように行われているのか理解してもらうことを目的に講義をします。とくに子ども虐待問題については現代の代表的な心理福祉学的課題と位置づけ詳しく講義します。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	テキストは使用しません。レジュメや必要な資料は授業で配布します。				
参考図書・教材等	参考文献は授業で適宜紹介します。				
実務経験を生かした授業	児童相談所の児童心理司経験者（担当教員）が経験事例などをもとに福祉心理学的支援方法を解説する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見は「受講カード」で対応します。 ・授業後の質問、意見も歓迎します。 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ・虐待、認知症に関する支援方法について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉領域において心理職が担う役割を考察し、述べることができる。 ・福祉心理学的アセスメントと支援の有効性を考察し、述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を理解したうえで、自らの考えをまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を理解できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を正確に理解したうえで、文章で的確にまとめることができる
A：80～89	履修目標を達成している。
	福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を正確に理解したうえで文章でまとめることができる
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を理解したうえで文章でまとめることができる
C：60～69	到達目標を達成している。
	福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義をある程度理解したうえで文章である程度まとめることができる
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	福祉領域における心理職の視点と役割、および社会福祉支援（ソーシャルワーク）の意義を十分に理解できていない

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○					○	
思考・判断・表現	(DP3)	○					○	
	(DP4)							

関心・意欲・態度	(DP5)								
	(DP6)								
技能	(DP7)								
	(DP8)								
	(DP9)								
	(DP10)								
備考									

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)	
1	オリエンテーション	講義		
2	家族ライフサイクルと福祉的課題(1)	講義	自分の生育歴を整理しておく	
3	家族ライフサイクルと福祉的課題(2)	講義	家族歴を整理しておく	
4	子ども虐待・暴力問題の概要	講義	子ども虐待の文献を読んでおく	
5	子ども虐待(1)発見・保護・社会的養護	講義	社会的養護の概要を調べておく	
6	子ども虐待(2)トラウマへの対応・自立支援	講義	虐待とトラウマの関連を調べておく	
7	ドメスティック・バイオレンスの概要	講義	DV防止法について調べておく	
8	高齢者(認知症)領域における福祉心理学	講義	認知症の概要を調べておく	
9	障がい者領域における福祉心理学	講義	障害者基本法を読んでおく	
10	貧困問題(1)概要貧困問題	講義	貧困の影響に関してまとめておく	
11	貧困問題(2)貧困と不登校	講義	筑豊地域の特色について調べておく	
12	福祉心理の支援ツール(1)ジェノグラム	講義	事後学習。ジェノグラムの課題を行う	
13	福祉心理の支援ツール(2)エコマップ	講義	事後学習。自分のエコマップを作成する	
14	社会福祉支援(ソーシャルワーク)の概要	講義	ソーシャルワークという言葉の自分なりのイメージを整理しておく	
15	まとめ	講義		
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習															○	○	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			ジェノグラムとエコマップの演習をとおして自己覚知を培う														

I. 科目情報

科目名（日本語）	医学概論			単位	2
科目名（英語）	Medicine			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	渡邊 智子				
授業概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活の中で考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常生活との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	「人体の構造と機能及び疾病」新・社会福祉士養成講座1 中央法規（2200円）				
参考図書・教材等	「医学一般」コンパクト福祉系講義金芳堂（2200円） 「病気がみえる Vol. 1～11」 メディックメディア				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	1. コメントカードで受け付け、毎時間主な質問について解説します。 2. メールにて個別に受け付けます。メールアドレスは、第1回講義時にお知らせします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1. 心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する。
		(DP3)	1. 医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に理解できる。
	思考・判断・表現	(DP4)	
		(DP5)	
	関心・意欲・態度	(DP6)	
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えをわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50	15	15	10		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	人の成長・発達と老化	講義	テキスト 2-24 ページを読む。
2	健康のとらえ方	小テスト 質疑応答・講義・事例検討・発表	テキスト 206-238 ページを読む。
3	国際生活機能分類（ICF）の基本的考えと概要	質疑応答・講義	テキスト 174-203 ページを読む。

4	身体構造と心身の機能	第1回～第3回までの小テスト 質疑応答・講義	テキスト 26-50 ページを読む。
5	疾病の概要：生活習慣病と未病、悪性新生物、脳血管障害、心疾患、高血圧	質疑応答・講義	テキスト 54-71 ページを読む。
6	疾病の概要：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患	質疑応答・講義	テキスト 72-83 ページを読む。
7	疾病の概要：血液疾患と膠原病、腎臓疾患と泌尿器系疾患	質疑応答・講義	テキスト 84-94 ページを読む。
8	疾病の概要：骨・関節疾患と目・耳の疾患と感染症	質疑応答・講義	テキスト 95-106 ページを読む。
9	疾病の概要：神経疾患と難病と先天性疾患	質疑応答・講義	テキスト 107-116 ページを読む。
10	障害の概要：視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由	第4回～第9回までの小テスト 質疑応答・講義	テキスト 130-145 ページを読む。
11	障害の概要：内部障害、知的障害	質疑応答・講義	テキスト 146-150 ページを読む。
12	障害の概要：発達障害、認知症	質疑応答・講義	テキスト 152-160 ページを読む。
13	障害の概要：高次脳機能障害、精神障害	質疑応答・講義	テキスト 162-172 ページを読む。
14	老年症候群と終末期医療 リハビリテーションの概要	質疑応答・講義	【テキスト 117-128 ページを読む。
15	ICF の視点を用いた疾病や障害とともに生きる人の理解（事例検討）	講義・事例検討・発表	【事後課題】レポート提出 レポートテーマ：医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割（1400 字程度：レイアウトの詳細設定は講義中に提示）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○													○
その他（ ）																		
内容				少人数のグループに分かれてテーマに応じて検討し、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年期医学		単位	2
科目名（英語）	Geriatrics		授業コード	361
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	保健医療福祉分野で高齢者を支援する際に必要な老年期医学の基礎知識と、老年期に起こりやすい精神疾患・身体疾患について講義する。最近の老年期医学のトピックスについても随時紹介する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。			
テキスト	特に指定しない。			
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・道場信孝著、日野原重明監修 「臨床老年医学入門 第2版」 （医学書院、2013年、3,200円） ・ e-learning で各回の資料を配布する。 			
実務経験を生かした授業	医師の教員が老年期医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解し、内容を正しく説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解し、内容を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、内容を的確に説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、内容を概ね説明できる。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、基本的な内容は説明できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	老年期医学とは	講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
2	高齢者の健康問題のとりえ方	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
3	高齢者の健康評価	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
4	健康評価の実際	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
5	高齢者の脆弱化	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
6	老年期に起こりやすい疾患①（認知症）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
7	老年期に起こりやすい疾患②（うつ病）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
8	老年期に起こりやすい疾患③（睡眠障害）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
9	老年期に起こりやすい疾患④（骨粗鬆症、転倒）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
10	老年期に起こりやすい疾患⑤（尿失禁・白内障・難聴）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
11	老年期に起こりやすい疾患⑥（呼吸器疾患）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む

12	老年期に起こりやすい疾患 ⑦（循環器疾患）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
13	老年期に起こりやすい疾患 ⑧（低栄養状態）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
14	老年期に起こりやすい疾患 ⑨（悪性腫瘍）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
15	長寿の秘訣	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神医学 I（精神疾患とその治療 I）		単位	2
科目名（英語）	Psychiatry I		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、精神保健福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	公認心理師、精神保健福祉士等、将来、精神医療に従事する学生に必要な精神医学の基礎知識を講義する。進歩の著しい精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。			
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学－精神疾患とその治療」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3,200円）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)		
		技能	(DP 7)	
			(DP 8)	
	(DP 9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
精神医学の総論について理解し、代表的な精神疾患の診断と治療を説明できる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
精神医学の総論と講義で取り上げる精神疾患について理解し、内容を正しく説明できる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。				
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療をについて理解した上で、内容を的確に説明できる。				
A：80～89 履修目標を達成している。				
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療をについて理解した上で、内容を概ね説明できる。				

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解した上で、基本的な内容は説明できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	精神医療の歴史	講義	テキスト第1章を読む
2	脳および神経の解剖生理	質疑応答、講義	テキスト第2章を読む
3	精神医学の概念	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む
4	精神疾患の診断	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
5	精神症状と状態像	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
6	身体的検査と心理検査	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
7	症状性・器質性精神障害	質疑応答、講義	テキスト第5章Iを読む
8	物質使用による精神障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章IIを読む
9	物質使用による精神障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章IIを読む
10	統合失調症①	質疑応答、講義	テキスト第5章IIIを読む
11	統合失調症②	質疑応答、講義	テキスト第5章IIIを読む
12	気分障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章IVを読む
13	気分障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章IVを読む
14	神経症性障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章Vを読む

15	神経症性障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章Vを読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）			単位	2
科目名（英語）	Psychiatry II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	小嶋秀幹				
授業概要	精神医学Ⅰに引き続き、精神障害の各論と治療法等について講義する。精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。				
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学－精神疾患とその治療」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3,200円）				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	精神障害の各論と治療法について理解し、精神疾患の診断と治療を説明できる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	精神障害の各論と治療法等について理解し、内容を正しく説明できる。		
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	精神障害の各論と治療法について理解した上で、内容を的確に説明できる。 履修目標を達成している。		
B：70～79	精神障害の各論と治療法について理解した上で、内容を概ね説明できる。 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

精神障害の各論と治療法について理解した上で、基本的な内容は説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神障害の各論と治療法について理解した上で、最低限の内容は説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神障害の各論と治療法について理解できておらず、内容の説明ができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	摂食障害・睡眠障害	講義	テキスト第5章VIを読む
2	パーソナリティ障害	質疑応答、講義	テキスト第5章VIIを読む
3	知的障害	質疑応答、講義	テキスト第5章VIIIを読む
4	心理的発達の障害	質疑応答、講義	テキスト第5章IXを読む
5	小児期・青年期の精神障害	質疑応答、講義	テキスト第5章Xを読む
6	神経系の疾患 (てんかん含む)	質疑応答、講義	テキスト第5章XIを読む
7	精神科的治療法(向精神薬による心身の変化)	質疑応答、講義	テキスト第6章Iを読む
8	精神科的治療法 (精神療法①)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIを読む
9	精神科的治療法 (精神療法②)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIを読む
10	精神科的治療法(精神科リハビリテーション)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIIを読む
11	病院精神科医療(医療機関との連携)	質疑応答、講義	テキスト第7章I・IIを読む
12	精神科救急医療	質疑応答、講義	テキスト第7章IIIを読む
13	地域精神医療	質疑応答、講義	テキスト第7章IV・Vを読む

14	精神科医療における人権擁護	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
15	司法精神医学	質疑応答、講義	テキスト第9章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学実験 I	単位	2
科目名（英語）	Experimental Psychology Seminar I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師・認定心理士
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	福田恭介・麦島 剛		
授業概要	<p>われわれの心を科学的に調べ、信頼性の高いデータを出すには、心理学実験の手法は欠かすことができない。このような経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、心理学実験のやり方を学習することで、心理学の実験計画や統計分析に関する基礎的知識を増やし、心理学実験に関する基礎的スキルを養成することを旨とする。この授業は、日本心理学会認定心理士資格認定基準にも基づいている。</p> <p>https://psych.or.jp/qualification/standard_new</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。</p> <p>心理学関連科目を受講しておいた方が望ましい</p>		
テキスト	<p>板口典弘・山本健太郎（2017）心理学レポート・論文の書き方—演習課題から卒論まで— 講談社 ¥2,090</p> <p>中野博幸・田中敏（2012）フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ¥2,068</p>		
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> 三浦麻子（2017）なるほど！心理学研究法(心理学ベーシック 第1巻) 北大路書房 USB を常備しておくこと。 授業前にeラーニングから資料をダウンロードして印刷しておくこと。 		
実務経験を生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	<p>授業に対するコメント・質問は、授業開始時に配布される A5 用紙に記述することで行う。次回の授業で紹介されたコメントが、授業への参加度として加点される。</p> <p>その他の質問に対しては、時間が空いていれば受け付ける。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	心理学実験の方法や統計処理についての知識を身につけることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	いくつかの実験を通して、心理学実験レポートを書くにはどのような表現が必要かを理解できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	実験を実施し、実験データ処理のための統計処理 (χ^2 検定、 t 検定、分散分析) ができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	データを処理したり、レポートを書いたりするためにワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトが使えるようになる。刺激を作成したり、実験装置を操作したりすることで、実験手法のスキルを身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自ら調べた文献や論文の内容を手がかりに、実験で得られたデータを分析し、自分の力でレポートを執筆できるようになる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 心理学実験に必要な実験計画と統計分析手法を身につけており、それらをもとにレポートを自ら執筆できる。
A：80～89	履修目標を達成している。 心理学実験に必要な実験計画と統計分析手法をいくつかの手がかりがあれば利用でき、それらをもとにレポートを執筆できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 心理学実験に必要な実験計画と統計分析手法をいくつかの手がかりと援助があれば利用でき、それらをもとにレポートを執筆できる。
C：60～69	到達目標を達成している。 心理学実験に必要な実験計画と統計分析手法をいくつかの手がかりと援助があれば利用でき、援助を受けながらレポートを執筆できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 心理学実験に必要な実験計画と統計分析手法をいくつかの手がかりと援助を受けても利用が困難で、援助を受けてもレポート執筆が困難である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内 レポート	授業外 レポート	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	40	10	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎		◎			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎					
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		◎	◎			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	心理学研究法と心理学実験実施に関する説明	実験に際しての注意事項とレポート提出に際するパソコン利用の解説	板口典弘・山本健太郎（2017）心理学レポート・論文の書き方—演習課題から卒論まで— 講談社「ステップ 1」 p.1-62 を所定の書式 2 頁以内に要約し、最後に 200 字程度のコメントを書く（レポート 1）
2	レポート・発表のためのワード、エクセル、パワーポイントの操作法		「心理学」に関してパワーポイント 15～20 スライド程度にまとめる（レポート 2） 心理学ワールド：

			https://psych.or.jp/publication/world/ 心理学ミュージアム： https://psychmuseum.jp/
3	心理学実験における統計検定の意味	統計検定の意味とやり方に関する解説	各授業の最後に理解を確認する小テストを行う。 「中野博幸・田中敏 (2012) フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社」を用いて、自ら χ^2 検定と t 検定を行っておく。
4	χ^2 検定の意味と実践 (1)		
5	χ^2 検定の意味と実践 (2)		
6	t 検定の意味と実践(1)		
7	t 検定の意味と実践(2)		
8	Key Press ソフトによる反応時間測定 (実験 1)	実験と統計検定の実施	「単純反応時間と選択反応時間」のレポートを所定の書式 2 頁以内にまとめ、最後に 200 字程度のコメントを書く (レポート 3)
9	1 要因分散分析の意味と実践		授業の最後に理解を確認する小テストを行う。 「中野博幸・田中敏 (2012) フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社」を用いて、1 要因分散分析を行っておく。
10	鏡映描写 (実験 2)		「鏡映描写の学習効果」のレポートを所定の書式 2 頁以内にまとめ、最後に 200 字程度のコメントを書く (レポート 4)
11	2 要因分散分析の意味と実践		授業の最後に理解を確認する小テストを行う。 「中野博幸・田中敏 (2012) フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社」を用いて、2 要因分散分析を行っておく。
12	心理学実験における統計検定の意味		「ミューラーリエル錯視に及ぼす矢羽の長さや角度の効果」のレポートを所定の書式 2 頁以内にまとめ、最後に 200 字程度のコメントを書く (レポート 5)
13	ミューラーリエル (実験 3) (1)		
14	ミューラーリエル (実験 3) (2)		
15	プレテスト (1 回目) と解説		心理学研究の考え方・データを示すグラフ作成・データを裏づける統計検定を問う試験問題
16	本テスト (2 回目) と解説	返却されたテストをもとに、心理学実験の方法論および統計検定を振り返っておく	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	◎	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
体験学習/調査学習					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				情報処理教室においてパソコンを操作して実験を実施し、データに対して統計分析を行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学実験Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Experimental Psychology Seminar II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師・認定心理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	福田恭介・麦島 剛				
授業概要	われわれの心を科学的に調べ、信頼性の高いデータを出すには、心理学実験の手法は欠かすことができない。これらの経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、心理学実験Ⅰで得た心理学実験に関する基礎的知識・技能を元にさらに具体的な実験計画、実験実施、データ解析を行い、実験レポートの提出を求める。最終的には、自ら実験を計画し、その実験結果を発表する会を設ける。この授業は、日本心理学会認定心理士資格認定基準にも基づいている。 https://psych.or.jp/qualification/standard_new				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。 心理学関連科目を受講しておいた方が望ましい。 心理学実験Ⅰを受講しておくこと				
テキスト	板口典弘・山本健太郎（2017）心理学レポート・論文の書き方―演習課題から卒論まで― 講談社 ¥2,090 中野博幸・田中敏（2012）フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ¥2,068				
参考図書・教材等	<ul style="list-style-type: none"> 三浦麻子（2017）なるほど！心理学研究法(心理学ベーシック 第1巻) 北大路書房 USBを常備しておくこと。 授業前にeラーニングから資料をダウンロードして印刷しておくこと。 				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間が無いときはメールを利用し、約束の時間を設ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	心理学実験の方法や統計処理についての知識を身につけることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	班のメンバーと協力して行った実験内容について、レポート執筆ができ、口頭発表ができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	データをグラフ化し、それを裏づけるための統計検定を行った後、レポートを提出できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	心理学実験Ⅰから発展し、実験装置を操作し、実験計画・手法を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	自分たちで調べた先行研究をもとに、実験を計画し信頼できるデータを導き出し、それらをグラフ化したり統計処理したりして、何が明らかにされたのかについて自分の力でレポートの執筆ができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

教員の支援を受けて、実験を計画し信頼できるデータを導き出し、それらをグラフ化したり統計処理したりして、何が明らかにされたのかについてレポート執筆ができる
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
先行研究をもとに、独創的な実験を計画し、信頼性の高いデータを出し、それに基づいたレポートを執筆できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
教員の支援を受けて、信頼できるデータを出すための心理学実験計画と統計分析手法を身につけており、それらをもとにレポートを執筆できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
教員の支援を受けて、信頼できるデータを出すための心理学実験計画と統計分析手法を理解することができ、それらをもとにレポートを執筆できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
教員の支援を受けて、信頼できるデータを出すための心理学実験計画と統計分析手法を理解することができ、支援を受けながらレポートを執筆できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
教員の支援を受けても、自ら心理学実験を計画することができず、信頼できるデータを出すための心理学実験計画と統計分析手法を理解することが困難で、支援を受けながらのレポート執筆が困難である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業への参加度	授業外レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10	50	40			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○	○		
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)				○		
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）
1	心理学実験実施とレポート執筆に関する説明 実験室の案内	手引書の配布と、実験概要の説明	班別に分かれて、次の実験場所を確認し、行うべきことを確認する。
2	1桁数字加算課題における反応時間測定（レポート1）	知覚心理学実験室において、装置の操作方法について説明し、全員分の反応時間を測定する	時間内に終わらなかった実験を全員分済ませておき、情報処理教室において全員分の平均値をもとに統計検定を行い、レポートの執筆を行う。
3			

4	二重課題と大脳半球左右差 (レポート 2)	社会心理学実験室などにおいて、操作法について説明し、さらに小グループに分かれて、全員分のデータを測定する。	時間内に終わらなかった実験を全員分済ませておき、情報処理教室において全員分の平均値をもとに統計検定を行い、レポートの執筆を行う。
5			
6	Go/No-Go 課題時の瞬目時間分布 (レポート 3)	生体反応実験室において、刺激呈示と瞬目測定の操作法について説明し、データの分析法について説明する。	時間内に終わらなかった実験を全員分済ませておき、情報処理教室において全員分の平均瞬目時間分布をもとに統計検定を行い、レポートの執筆を行う。
7			
8	仮現運動 (レポート 4)	情報処理教室において、仮現運動の測定のための操作法について説明し、全員分のデータを測定する。	時間内に終わらなかった実験を全員分済ませておき、情報処理教室において全員分の平均値をもとに統計検定を行い、レポートの執筆を行う。
9			
10	血液型と性格検査の関連 (レポート 5)	情報処理室において、全員の性格検査のデータを測定し、これまでの血液型のデータと組み合わせることで関連を探る。	時間内に終わらなかった実験を全員分済ませておき、情報処理教室において全員分の血液型別の平均値をもとに統計検定を行い、レポートの執筆を行う。
11	お好み実験 (1) 実験内容の検討	お好み実験の内容について説明し、グループ (4~5 人) に分かれ、教員の支援を受け、実験内容について話し合う。	実験内容について、先行研究を調べ、研究として期間内に実行可能かを話し合う。
12	お好み実験 (2) 実験の計画	教員の支援を受け、実験計画書を作成する。	実験実施に向けて役割分担を行う
13	お好み実験 (3) 実験の実施	教員の支援を受け、実験を実施する。	実験を実施する。
14	お好み実験 (4) 発表の準備	教員の支援を受け、次週の発表のレジюмеとパワーポイント資料を作成する	レジюме、パワーポイント資料作成、発表担当など役割分担して、発表の準備を行う
15	お好み実験 (4) 発表会	自分たちの研究成果を口頭発表し、質問者と議論を行い、他のグループの発表の評価を行う。	各グループの評価を提出し、発表会で指摘されたことをもとに、レジюмеを作り直す。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	◎	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
体験学習/調査学習		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
その他 ()																	
内容	グループ別の実験を実施し、データの統計分析を行う。発表会の準備を各グループで行い、発表会では相互に議論を行い、別のグループの評価を行う。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学研究法	単位	2
科目名（英語）	Psychological Research Methods	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	上野行良・小山憲一郎・麦島 剛・福田恭介		
授業概要	心理学の基本的な研究方法を学びます。心理学は実証を重視することによって発展してきました。多くの心理学的な知見を学ぶ際も、その実証性を確かめながら理解することが必要です。また受講されるみなさんのほとんどが卒業論文では実証的な研究を行うこととなります。心理をどのように実証的に研究するかを知り、身につけましょう。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし		
テキスト	なし		
参考図書・教材等	なし		
実務経験を生かした授業	14・15回では公認心理師及び臨床心理士の資格をもち臨床経験のある教員が面接と心理検査について教授する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義中及びメールでの質問を受け付けます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	心理学の研究方法を知る。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	心理学研究の技法や計画を行ってみる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	実証研究を行うための基礎的なスキルを身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 心理学研究を実証的に研究する方法を知り、適切に行うことができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 心理学研究をどのように実践するかを知っている。		
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	10	3.3		6.7	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○		○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○	○		○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	仮説検証	グループワークを通し実験計画を立てる。	宿題が出る。
2	研究デザイン	グループワークを通し実験計画を立てる。	宿題が出る。
3	統計的検定	グループワークを通し妥当な統計的検定を選ぶ訓練をする。	宿題が出る。
4	質問紙1	グループワークを行い質問紙を作成する。	宿題が出る。
5	質問紙2	グループワークを行い質問紙を作成する。	宿題が出る。
6	質問紙3	グループワークを行い質問紙を作成する。	宿題が出る。
7	認知心理学実験1	講義形式で行う。	配布する1の資料を読み直し、2の配布資料を読んでおく。
8	認知心理学実験2	講義形式で行う。	上記資料を読み直す。
9	生理と行動1	講義形式で行う。	講義中に指示をする。
10	生理と行動2	講義形式で行う。	講義中に指示をする。
11	生理と行動3	講義形式で行う。	講義中に指示をする。
12	観察1	教員が用意したテーマで、3名から4名のグループワークを行い、レポートを作成する。	観察法を用いた研究論文を講読し、不明点、疑問点について授業内レポートで質問すること。

13	観察 2	教員が用意したテーマで、3名から4名のグループワークを行い、レポートを作成する。	観察法を用いた研究論文を講読し、不明点、疑問点について授業内レポートで質問すること。
14	面接と心理検査 1	教員が用意したテーマで、3名から4名のグループワークを行い、レポートを作成する。	面接法を用いた研究論文を講読し、不明点、疑問点について授業内レポートで質問すること。
15	面接と心理検査 2	教員が用意したテーマで、3名から4名のグループワークを行い、レポートを作成する。	面接法を用いた研究論文を講読し、不明点、疑問点については授業内レポートで質問すること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			上記、授業方法・進め方を参照														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学統計法	単位	2
科目名（英語）	Psychological Statistics	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士，認定心理士（心理調査），公認心理師
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	原 口 雅 浩		
授業概要	教育・心理の分野で使用される統計について、表計算ソフト（EXCEL）および統計ソフト（HAD）を用いて実習を中心に行う。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	小宮 あすか・布井 雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社 2018 3080		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	個別の質問・相談等をメールで応じる。全体的に説明が必要な事項は授業中に開設する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	心理統計における基本用語について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	統計の論理について考えることができる。
		(DP 4)	統計の結果について、適切な図・表を描くことができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	心理統計の必要性について理解し、データを適切に処理することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
表計算ソフト（EXCEL）および統計ソフト（HAD）を用いて分析した結果を文章化できる。			
表計算ソフト（EXCEL）および統計ソフト（HAD）を用いてデータの分析ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
データに応じて、適切な統計を用いた分析ができ、結果を文章化できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
表計算ソフト（EXCEL）および統計ソフト（HAD）を用いて分析した結果を文章化できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

表計算ソフト (EXCEL) および統計ソフト(HAD)を用いて分析した結果を理解できる。
C : 60~69 到達目標を達成している。
表計算ソフト (EXCEL) および統計ソフト(HAD)を用いて分析ができる。
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
表計算ソフト (EXCEL) および統計ソフト(HAD)を使えない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	尺度・基礎統計量	PP・配布資料で説明	課題1 (基礎統計量)
2	不偏推定値	PP・配布資料で説明	課題2 (不偏推定値)
3	区間推定	EXCELで例題を解く	課題3 (区間推定)
4	変数変換 (標準化, 角変換)	EXCELで例題を解く	課題4 (区間推定)
5	平均の差の検定 (t検定)	EXCELHADで例題を解く	課題5 (t検定)
6	関連性の検定 (相関)	EXCEL・HADで例題を解く	課題6 (相関係数)
7	まとめ①	PP・配布資料で説明	レポート1 (課題は講義で発表する)
8	名義尺度の分析	EXCEL・HADで例題を解く	課題7 (χ^2 検定等)
9	順序尺度の分析	EXCEL・HADで例題を解く	課題8 (マンホイットニー検定等)
10	まとめ②	PP・配布資料で説明	レポート2 (課題は講義で発表する)
11	分散分析 (1要因分散分析)	HADで例題を解く	課題9 (ANOVA1)
12	分散分析 (多重比較)	HADで例題を解く	課題10 (Holm, LSD, HSD)
13	分散分析 (2要因分散分析)	HADで例題を解く	課題11 (ANOVA2)
14	分散分析 (交互作用)	HADで例題を解く	課題12 (単純主効果)
15	まとめ③	PP・配布資料で説明	レポート3 (課題は講義で発表する)

備考	USB メモリーを準備しておいてください。
----	-----------------------

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理実習 I	単位	1
科目名（英語）	Practical Training in Psychology I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師
標準履修年次	2年	開講時期	通年
担当教員	小山憲一郎・小嶋秀幹・池 志保・吉岡和子・岩橋宗哉		
授業概要	<p>教育分野における 30 時間の現場体験を通じて、</p> <p>① 公認心理師としてのマナー、倫理、法的義務および、職務と多職種連携について理解。子どもたちへの学習支援や集団活動体験（グループワーク活動やイベント等の体験活動）などへの参加を通して心理実践・援助が必要とされる知識・援助技術の体験的学習。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理実習 I」を履修していること。「公認心理師の職責」及び「心理学的支援法」を履修していることが望ましい。		
テキスト			
参考図書・教材等	授業中に紹介及び適宜配布する。		
実務経験を生かした授業	実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習指導者が随時質問を受ける。 実習担当教員は随時相談、質問を受ける（まずはメールで）。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	教育領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	教育領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	教育領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>DP 2、6、10 について、自らの体験的関与をもとに述べるができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p> <p>DP 2、6、10 について述べるができる。</p>		
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C : 60~69	到達目標を達成している。		
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。		

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		日誌	統括報告書	発表	その他		合計
総合評価割合		30	30	20	20		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	15	10	10			35
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		10		20		30
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	15	10	10			35
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	①実習の目的・意義の理解 ②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方 ⑥施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。各自実習スケジュールを組み、提出すること。
2～6	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習 (学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成)	原則として、通年で10回の実習を行う。 実習中は、実習担当者に指導を仰ぐが、実習5回ごとに、実習担当教員による実習指導を行う。	日誌作成
7	実習指導	①実習の目的・意義の理解 ②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方	5回分の実習指導を受け、自らの知識やスキルの不足点について後半実習に向けて学習しておくこと。
8～13	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習 (学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成)	原則として、通年で10回の実習を行う。 実習中は、実習担当者に指導を仰ぐが、実習5回ごとに、実習担当教員による実習指導を行う。	日誌作成
14	実習指導	5回分の実習に関する総括および質疑応答(小山・小嶋)1時間	全10回分の実習指導を受け、自らの知識やスキルの不足点について後半実習に向けて学習し、レポートを作成。
15	報告会	演習形式で行う	全体でのディスカッションを踏まえ、実習全体の振り返りを行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理実習 II	単位	1
科目名（英語）		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師
標準履修年次	3年	開講時期	前期
担当教員	池 志保・吉岡和子・岩橋宗哉・小嶋秀幹・小山憲一郎		
授業概要	福祉機関における 30 時間の見学実習を通じて、下記 3 点について学ぶ。 ①心理関する支援を要する者へのチームアプローチ ②多職種連携及び地域連携 ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理実習 I」を履修していること。「公認心理師の職責」及び「心理学的支援法」を履修していることが望ましい。		
テキスト			
参考図書・教材等	授業中に紹介及び適宜配布する。		
実務経験を生かした授業	実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習指導者が随時質問を受ける。 実習担当教員は随時相談、質問を受ける（まずはメールで）。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP 2、6、10 について、自らの体験的関与をもとに述べることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP 2、6、10 について述べることができる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	日誌	統括報告書	発表	その他		合計
総合評価割合	30	30	20	20		100
知識・理解	(DP 1)					
	(DP 2)	15	10	10		35
思考・判断・表現	(DP 3)					
	(DP 4)					
関心・意欲・態度	(DP 5)					
	(DP 6)		10		20	30
技能	(DP 7)					
	(DP 8)					
	(DP 9)					
	(DP10)	15	10	10		35
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。					

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	見学実習① オリエンテーション	①実習の目的・意義の理解 ②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方 ⑥施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。
2~10	見学実習①	田川児童相談所 ・8.5時間 (うち実習時間 7.5時間、日誌作成 1時間) ×2回 ・実習指導 1時間 計 18時間 ・1回の実習につき 10名まで参加 ※5~7月を予定 (実習機関と調整) ①援助方針会議への陪席 ②保護課実習。セカンドステップなどの心理教育プログラムへの参加、保護されている児童との関わり。	日誌作成
11	見学実習② オリエンテーション	①実習の目的・意義の理解 ②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方 ⑥施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。

12～ 14	見学実習②	福祉施設（選択） ・5時間（うち実習時間4時間、日誌作成1時間） ・実習指導1時間 計6時間 ・1回の実習につき10名まで参加 ※夏休み期間中を予定（実習機関と調整） ①施設見学	日誌作成
15	報告会	演習形式で行う	統括報告書の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			見学実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理実習Ⅲ	単位	1
科目名（英語）		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師
標準履修年次	3年～4年	開講時期	後期～前期
担当教員	小嶋秀幹・池 志保・岩橋宗哉・小山憲一郎・吉岡和子		
授業概要	保健医療・司法矯正・産業労働機関における30時間の見学実習を通じて、下記3点について学ぶ。 ①心理関する支援を要する者へのチームアプローチ ②多職種連携及び地域連携 ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」を履修していること。		
テキスト			
参考図書・教材等	授業中に紹介及び適宜配布する。		
実務経験を生かした授業	実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習指導者が随時質問を受ける。 実習担当教員は随時相談、質問を受ける（まずはメールで）。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	各領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	各領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	各領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP2、6、10について、自らの体験的関与をもとに述べることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP2、6、10について述べることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	日誌	統括報告書	発表	その他			合計
総合評価割合	30	30	20	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	15	10	10			35
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		10		20		30
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	15	10	10			35
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	見学実習① オリエンテーション	①実習の目的・意義の理解 ②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方 ⑥施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。
2～7	見学実習①	<司法犯罪> 1. 小倉少年鑑別支所 ①機関の役割や仕組みの説明②施設見学 ・2.5時間(うち日誌の作成)×1回 ・1回の実習につき15名まで参加 <産業労働> 2. 浅野社会復帰センター ①センター事業及び心理職の業務説明を受ける②施設内見学③プログラムへの参加 ・6.5時間(うち日誌の作成1時間)×1回 ・1回の実習につき5名まで参加 ※1～3月を予定(実習機関と調整)	日誌作成
8	報告会	演習形式で行う	統括報告書の作成
9	見学実習②	①実習の目的・意義の理解	実習開始までに、実習先に関する事前

	オリエンテーション	②実習先に関する事前学習 ③公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 ④公認心理師の職務及び多職種連携 ⑤日誌の書き方 ⑥施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定	学習などを行う。
10～14	見学実習②	<保健医療>施設選択 ①施設の見学とデイケア、グループ療法、PS ミーティング、カンファレンス等の参加。 ・5.5時間（うち日誌の作成1時間）×2回 ・1回の実習につき5名まで参加 ※8～9月を予定（実習機関と調整）	日誌作成
15	報告会	演習形式で行う	統括報告書の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			見学実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	公認心理師の職責			単位	2
科目名（英語）	Professionalism of Licensed Psychologists			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	吉岡和子・岩橋宗哉・小嶋秀幹・小山憲一郎・池 志保				
授業概要	<p>具体的な学習内容は、以下の8点である。</p> <p>①公認心理師の役割②公認心理師の法的義務及び倫理③心理に関する支援を要する者等の安全の確保④情報の適切な取扱い⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務⑥自己課題発見・解決能力⑦生涯学習への準備⑧多職種連携及び地域連携</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	野島一彦編『公認心理師の基礎と実践シリーズ－①公認心理師の職責』遠見書房				
参考図書・教材等	<p>①『公認心理師現任者講習会テキスト [2019年版]』一般財団法人日本心理研修センター監修 金剛出版②「臨床心理学: シリーズ心理学と仕事8」(2017)太田信夫(監修)・高橋美保・下山晴彦(編) 北大路書房</p> <p>その他は講義中に紹介</p>				
実務経験を生かした授業	心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメールで質問時間を予約してください。</p>				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師の業務と役割について概説できる。 公認心理師の法的義務や倫理について概説できる。 公認心理師が活動する諸分野と多職種連携について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師としての判断、自己解決能力、研究、生涯学習についての考えを持てる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	<ul style="list-style-type: none"> 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を活用できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
DP 2、6、10について述べる事ができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業への参加度	まとめレポート					合計
総合評価割合		45	55					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	◎					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○					
備考		授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	公認心理師の役割 情報の適切な取り扱いについて	講義・演習（吉岡）	テキスト、参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。 以上のような予習に加えて、適宜復習してください。 また、疑問がある場合は適宜質問してください。
2	保健医療分野における具体的な業務	講義・演習（岩橋）	
3	支援者としての自己課題 発見・解決能力		
4			
5	産業・労働分野における具体的な業務	講義・演習（小嶋）	
6	多職種連携と地域連携		
7			
8	福祉分野における具体的な業務	講義・演習（小山）	
9	クライアント／患者らの安全の確保のために		
10			
11	教育分野における具体的な業務	講義・演習（池）	
12			

13	公認心理師としての法的 義務・倫理	講義・演習（吉岡）	
14	司法・犯罪分野における具 体的な業務		
15	生涯学習への準備 公認心理師の今後の展開		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第14回・15回はグループ・ワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健医療福祉行政論Ⅰ（関係行政論）			単位	1
科目名（英語）	Policies on Health Care and Welfare I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師、保健師、公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	四戸智昭・小出昭太郎				
授業概要	保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種の連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	授業時に指示する。				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	わが国の保健医療福祉行政の基礎知識を得ること
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲があること
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明できる			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられており、特定の行政課題について主体的な学習を行っている。			

A：80～89	履修目標を達成している。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられている。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明できる	
C：60～69	到達目標を達成している。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について知識の獲得が最低限できている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について知識の獲得できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40〔50〕		10〔0〕				50〔50〕
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	30〔40〕		10〔0〕				40〔40〕
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	10〔10〕						10〔10〕
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		成績評価は、〔 〕外配分が四戸担当分の割合。〔 〕内配分が小出担当分の割合。最終成績は、四戸担当分、小出担当分をそれぞれ100点満点で算出し、その平均を最終成績とする。最終成績が6割に満たない場合は、再試験を行う。（再試験方法については、再試験が行われる時に通知する。）						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	保健医療福祉行政について（四戸智昭）	講義 日本国憲法や、わが国の行政機関の役割について学習する。 ノートを取りながら授業に参加すること	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）： 授業のノートをまとめる。
2	生活保護祉制度について（四戸智昭）	講義 わが国の生活保護制度について学習する。 ノートを取りながら授業に参加すること	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）： 授業のノートをまとめる。
3	高齢者福祉と介護保険制度（四戸智昭）	講義 わが国の介護保険制度について学習する。 ノートを取りながら授業に参加す	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）：

		ること	授業のノートをまとめる。
4	子ども福祉と児童虐待問題 (四戸智昭)	講義 子どもの福祉、字度虐待について学習する。 ノートをとりながら授業に参加すること	事前学習 (80分) : 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習 (110分) : 授業のノートをまとめる。 まとめの小テストを受講する
5	医療保障 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、医療保障について講義する。 質疑応答を行う。	事後学習 (180分) 配布資料全体を見直すなどして、医療保障についての理解を確実なものにする。
6	医療法 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医療法について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、医療法についての理解を確実なものにする。
7	所得保障、公的扶助 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、所得保障と公的扶助について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、所得保障と公的扶助についての理解を確実なものにする。
8	保健医療福祉の財政 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、保健医療福祉の財政について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、保健医療福祉の財政についての理解を確実なものにする。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	更生保護（関係行政論）		単位	2
科目名（英語）	Rehabilitation of Offenders		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	今村 浩 司			
授業概要	更生保護制度の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中での現状、課題、対策などを検討していくとともに、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について考えていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。			
テキスト	『更生保護制度』社会福祉士シリーズ 20、弘文堂（最新版）			
参考図書・教材等	随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。			
実務経験を生かした授業	刑事施設において触法障害者や高齢者支援を行った経験のある社会福祉士・精神保健福祉士の有資格の教員が、更生保護領域の実践場面での役割や、他機関他職種等との連携の在り方等を解説する		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義の前後の時間随時可。またEメールも可。（imamura_k@seinan-jo.ac.jp）			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察法を説明することができる。 3、更生保護におけるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割の説明ができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	1、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護制度における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明する事ができる。 2、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護の実践と今後の課題、展望について自らの意見を述べる事ができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

①更生保護制度の歴史的背景、概念、構成について。

②更生保護制度の概要や基本的用語について。

③更生保護の現状、課題、対策等を理解し、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について。

以上の3点について、正確に理解をした上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
履修目標に掲げた目標に関して、基本的用語の理解ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標に掲げた3点に関して、実践での応用方法も含めて理解をした上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標に掲げた3点に関して、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	演習	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70		10	10		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○		○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	更生保護と社会福祉 刑事司法の現況、更生保護法制	講義。	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
2	更生保護制度の概要（1） 仮釈放と生活環境の調整、保護観察、	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
3	更生保護制度の概要（2） 更生緊急保護、恩赦	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

4	更生保護制度の概要（3） 犯罪予防、被害者支援	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
5	更生保護の担い手 地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者、更生保護施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
6	関係機関・団体との連携（1） 裁判所、検察庁、矯正施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
7	関係機関・団体との連携（2） 福祉事務所や公共職業安定所	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
8	矯正施設と処遇（1） 矯正施設と更生保護制度	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
9	矯正施設と処遇（2） 刑事収容施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
10	矯正施設と処遇（3） 社会復帰援助の現状と展望	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
11	医療観察制度の概要（1） 医療観察法について	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
12	医療観察制度の概要（2） 指定入院医療機関、指定通院医療機関	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
13	医療観察制度の概要（3） 社会復帰調整官、地域処遇	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
14	更生保護における動向と課題（1） 少年司法について	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
15	更生保護における動向と課題（2） 更生保護の総まとめ	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○						○					
その他（ ）																		
内容				少人数グループに分かれて、提供した事例について検討を行い、結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	人的資源管理論		単位	2
科目名（英語）	Human resource management theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>人的資源管理論とは労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すための学問である。この領域は、社会的影響を受けつつも、私達の働き方や生活様式の変化に影響を与える。講義では、人的資源管理が誕生する以前の人事管理と比較しながら米国で誕生し発展した人的資源管理の特徴、そして日本への影響などを概説する。続いて、日本企業における具体的な人的資源管理の内容について議論する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響についても検討していく。更に、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い理論と実践について展望する。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	入門 人的資源管理 第2版（著）奥林 康司（注）第2版です。ご注意ください。			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサル、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	職業社会に関する知識：良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を理解する
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	就業意欲：人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すことを目指す。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
国内外の人的資源管理の歴史と発展について理解する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響について理解する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		20	30			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（テキストや成績などについて）		
2	人的資源管理の役割と生成	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観
3	企業経営と人的資源管理	講義・アクティブラーニング	
4	働く動機づけ	講義・アクティブラーニング	

5	リーダーシップ	講義・アクティブラーニング	点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイルで、深く広く理解することを目指します。
6	職務と組織の設計	講義・アクティブラーニング	
7	人的資源管理の仕組み	講義・アクティブラーニング	
8	能力開発	講義・アクティブラーニング	
9	人事考課制度	講義・アクティブラーニング	
10	専門職制度	講義・アクティブラーニング	
11	賃金制度	講義・アクティブラーニング	
12	福利厚生制度	講義・アクティブラーニング	
13	労使関係	講義・アクティブラーニング	
14	女性労働者	講義・アクティブラーニング	
15	高年齢労働者とワークライフバランス		
備考	5回以上の欠席の場合は単位取得できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他()																		
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会統計学 I		単位	2
科目名（英語）	Social Statistics I		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	社会調査士、上級情報処理士、認定心理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学・推測統計学の基本的な知識と分析手法を中心に、統計的データを適切に読み、まとめ、分析するための方法を学ぶ。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい（履修している学生は復習をしておき、履修していない学生は必ず各自テキスト等で自習しておくこと）。			
テキスト	テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800 円			
参考図書・教材等	参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010 ほか			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。
		(DP 4)	社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内課題・授業への参加度	宿題・授業外レポート					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス、調査データとは何か	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
2	社会調査の手順の概要	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
3	多様な分析の方向性	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
4	既存統計資料やデータの収集と活用の方法	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
5	度数分布表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
6	グラフ	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
7	代表値とばらつき	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
8	標準化、複数回答の扱い方	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
9	2変数のクロス集計表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
10	クロス集計表の関連を表す統計量	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
11	3変数のクロス集計表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。

12	相関係数、偏相関係数	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
13	相関と因果、回帰分析の基礎	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
14	確率論と推測統計学の基礎	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
15	まとめ	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
備考	授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくる。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	発見学習／問題解決学習																	
	体験学習／調査学習																	
	グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
	その他（ ）																	
	内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析 I		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis I		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士、中一種、高一種	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。つぎに変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版、日本評論社、2015年、②大谷信介他「社会調査へのアプローチ」第2版、ミネルヴァ書房、2005年、③青木繁伸「Rによる統計解析」オーム社、2009年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの集計結果や基礎的な統計解析法により解析された結果を適切に解釈できる。
		(DP4)	データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。 基礎的な集計や統計解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。 (社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	データの単純集計、度数分布の作成ができる。 量的データの基本統計量を算出できる。 量的データの母平均・母比率・母分散の区間推定・検定、2群の検定ができる。 質的変数間のクロス集計の作成、量的変数間の相関係数の算出ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
------	--

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	◎			○	
	(DP4)	○	◎			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	記述統計と推測統計について概説	演習・確認テスト	データの尺度の復習
2	記述統計－単純集計表、度数分布表	演習・確認テスト	度数分布の階級数・階級幅の復習
3	記述統計－分布の代表値、散布度	演習・確認テスト	平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差などの復習
4	記述統計から推測統計へ－標準得点と偏差値、正規分布	演習・確認テスト	データの標準化、正規分布などの復習

5	推測統計－母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定	演習・確認テスト・レポート課題提示	標準誤差の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	推測統計－母平均、母比率、母分散の検定	演習・確認テスト	帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ二乗検定の復習
7	推測統計－対応のない2群の検定	演習・確認テスト	対応のない2群の検定の復習
8	推測統計－対応のある2群の検定	演習・確認テスト	対応のある2群の検定の復習
9	質的変数における2変数間の関係－クロス集計、カイ二乗検定	演習・確認テスト	カイ二乗検定・クラメルの連関係数などの復習
10	量的変数における2変数間の関係－相関分析（相関係数、偏相関係数）	演習・確認テスト・レポート課題提示	相関係数・偏相関係数などの復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
12	調査データの解析②－質問項目の作成・ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データのチェック
13	調査データの解析③－調査データの集計（単純集計・クロス集計）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの分析（仮説の検定・変数間の関係）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査報告書作成（結果及び考察・対策を含む）	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習													○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク													○	○	○	○	○
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でデータ処理の演習を行う。第11回からはグループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析II		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis II		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析I」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、分散分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「データ処理とデータ解析I」を履修していること。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二著、赤池弘次監修、『新版 パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年（6,264円）、②石村貞夫著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年（2,160円）、③菅民郎著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年（2,916円）			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの多変量解析により解析された結果を適切に解釈できる。
		(DP4)	データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。 多変量解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。(社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	重回帰分析・ロジスティック回帰分析・判別分析・主成分分析・因子分析ができる。 数量化理論第I類・II類・III類の分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	◎		○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	◎		○	
	(DP4)		○	◎		○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	多変量解析－重回帰分析	演習・確認テスト	重回帰式、偏回帰係数、決定係数の復習
2	多変量解析－ロジスティック回帰分析	演習・確認テスト	オッズ、オッズ比の復習
3	多変量解析－判別分析	演習・確認テスト	相関比、判別関数の復習
4	多変量解析－主成分分析	演習・確認テスト	固有値、主成分負荷量、主成分得点の復習
5	多変量解析－因子分析	演習・確認テスト・レポート 課題提示	因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	多変量解析－数量化理論第 I 類（予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数量の復習
7	多変量解析－数量化理論第 I 類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、重相関係数の復習

8	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類（判別、予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリ数量の復習
9	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別的中率の復習
10	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類（分類、要因、データ構造分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト・レポート 課題提示	アイテム・カテゴリ数量及び散布図、サンプル数量の散布図の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類による解析②（自由記述データの解析）	演習・確認テスト	自由記述データの加工手順を復習
12	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
13	調査データの解析②－ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データ、データの集計結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの集計・解析	グループワーク・確認テスト	調査データの解析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査データの報告書作成	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習														○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク														○	○	○	○
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でデータ処理演習を行う。第12回からはグループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育論		単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	太田華奈			
授業概要	<p>生涯学習はその学習形態や特徴から、フォーマルエデュケーション、ノンフォーマルエデュケーション、インフォーマルエデュケーションの3つの領域に分けて考えることができます(チームス)。ごく簡単に分類すると、1つ目のフォーマルエデュケーションは定型教育で学校教育的なモデルを指します。2つ目のノンフォーマルエデュケーションは、不定型教育で、日本の公的社会教育はこの形態をとっています。なお、日本の公的社会教育とは学校教育と家庭教育以外の領域における、人々の組織的な(組織化しつつある)教育活動を指します。最後、インフォーマルエデュケーションは個人が学習と認識している/していないもふくめた非組織的で、非体型的、非制度的な学習です。</p> <p>本授業では、ノンフォーマルエデュケーション領域に焦点をあてるなかで、社会教育の固有性や特徴を理解すると共に、ノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の可能性や課題を共に考えていきます。</p> <p>具体的にノンフォーマルエデュケーション及び社会教育についての知識を得つつ、自ら考えていくために、丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年)をテキストとして用います。テキストの精読し、考察を行い、問いを立て、みんなで議論してゆきます。こうした一連の作業を通して、問いを深めながら、次の3点について探求します。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。</p>			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にありません。学校教育に疑問を持っている、学校教育について別の視点から考えてみたい、生活に根ざす教育に関心がある、現代社会の課題の解決を探りたい…学生さん！待っています。			
テキスト	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年) ISBN 978-4794809605			
参考図書・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』(エイデル研究所, 2017年)他。随時、授業内で提示します。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後に行います。また、メールでの連絡も受け付けています。 ※「なぜ?」と問いかけることを大事にしていきます。「どうしたら」の前に、「なぜ」という問いをはさみ、考えていくことを意識しましょう。そうして、物事を批判的に考えていきましょう。「なぜ」を持ったあなたが、参加されることを楽しみにしています!			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得できる。社会教育の観点から問いをたてることができる。社会教育のまなざしを獲得できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の意味や価値、可能性、課題は何かについて主体的に考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	

		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得したうえで、社会教育の観点から主体的に問いをたてることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会教育のまなざしを獲得し、そのまなざしでもって次の3点について自ら探求し、他者に伝えていくことができる。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得することを怠らず、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを積極的に他者に伝え、議論を深めていくことができる。			
A：80～89	履修目標を達成している。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性の理解に積極的でありつつ、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを他者に伝えていくことができる。			
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性に関心を持ちつつ、テキストの精読に主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自ら考え、他者に伝えようという志向性をもつことができる。			
C：60～69	到達目標を達成している。		
テキストを読み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、自ら考えることができる。			
不可：～59	到達目標を達成できていない。		
社会教育のまなざしを獲得することの意味を自らに問うことなく、また社会教育のまなざしを獲得しようと格闘することをしない。テキストを精読せず、自らの観点のみでレジメを作成し、発表をやり過ごすように取り組む。授業内で求められても発言を拒むことが続く。他者との議論に参加しようとする意志が著しく見られない。			

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50		25	5		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						

	(DP9)							
	(DP10)							
備考	授業参加度と、レジメの作成・発表も評価の対象とします。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(授業の進め方、発表順決め、自己紹介など)	講義・ワーク	そのままのあなたで臨んでください!
2	ディスカッションについて	講義・ワーク	嫌だったディスカッションをその理由と共に、思い出してきてください。
3	ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴、固有性等について。	講義	「教育」についての疑問をできる限りたくさん考えてきてください。
5	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性』(新評論, 2013年 ※以下『テキスト』)「はじめに」「第1章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「1章」「はじめに」を読み、問いを立ててきてください。
6	『テキスト』「第2章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「2章」を読み、問いを立ててきてください。
7	『テキスト』「第3章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「3章」を読み、問いを立ててきてください。
8	『テキスト』「第4章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「4章」を読み、問いを立ててきてください。
9	『テキスト』「第5章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「5章」を読み、問いを立ててきてください。
10	『テキスト』「第6章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
	『テキスト』「第6章 3」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 3」を読み、問いを立ててきてください。
11	『テキスト』「第7章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
12	『テキスト』「第7章 3・4」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 3・4」を読み、問いを立ててきてください。
13	『テキスト』「第8章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「8章」を読み、問いを立ててきてください。
14	『テキスト』「第9章」「あとがき」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「9章」「あとがき」を読み、問いを立ててきてください。
15	まとめ	ディスカッション	話し合いたいことを考えてきてください。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	図書館情報学	単位	2
科目名（英語）	Libraries and Information Science	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年・3～4年	開講時期	前期
担当教員			
授業概要	図書館の基本的機能を理解し、情報の収集と活用の際に必要な知識を身に付けるための学習をする。高度情報社会における情報の的確な取り扱い等、未来社会における図書館の役割・あり方を追求する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	大学図書館等の研究機関及び近隣の公共図書館の利用と施設概要を把握しておく。		
テキスト	毎回独自のプリントや資料を配付する。		
参考図書・教材等	『新しい時代の図書館情報学』 山本順一編 有斐閣 2016		
実務経験を生かした授業	特別コレクション「映画資料」の収集と整理＝目録(リスト)作成	授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	レスポンスカード、メール、オフィスアワー 何れも可		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	情報資料とは何かを理解し、必要度に応じた活用が出来る。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談者からのレファレンスに対応出来る。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
図書館の社会的使命を自覚すると共に情報資料の活用とその必要性を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
各種の図書館が所蔵する情報資料の効率的活用と資源の共有という保存に関する知識を獲得する。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	授業態度	その他	合計
総合評価割合		80				20		100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○				○		
思考・判断・表現	(DP3)	○				○		
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年)90分(30回: 半期2コマ連続)
1	図書館とは何か?	講義	付属図書館・近隣の図書館施設の見学
2	図書館の情報資料	講義	
3	各種の図書館サービス	講義	
4	利用対象者別サービス	講義	* キーワード = ヤングアダルト、A Y A 世代
5	ニーズに沿うサービスの展開	講義	
6	図書館の歴史 (世界)	講義	
7	図書館の歴史 (日本)	講義	* 付属図書館資料と施設見学
8	図書館資料の分類・目録	講義 + 演習	
9	特別コレクションの研究	講義 + 演習	* キーワード = 特別コレクション
10	レファレンス事例研究	講義 + ディスカッション	
11	図書館協力と資源の共有	講義	
12	図書館サービスと著作権	講義	* キーワード = 著作権
13	図書館員の職務・司書の役割	講義	
14	図書館の将来・目指すもの	講義	

15	図書館サービスの今後と課題	講義	*キーワード=A I ロボット
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習									○								
グループ・ディスカッション ／ダイバート ／グループ・ワーク										○	○	○					
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際教育文化交流論		単位	2
科目名（英語）	International Education and Cultural Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	高 仁 淑			
授業概要	「国際教育文化交流論」では、東アジアを中心とした地域社会と教育の現状について理解を深めるとともに、その課題と論点について国際・比較教育文化学的な視点から事例を紹介します。そして海外調査から国際化・国際協力のあり方を考えます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	初回に適宜紹介し、資料を配布します。			
参考図書 ・教材等	資料等は講義時に情報提供する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	その都度対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	国際化の多義的な概念理解やグローバル化の国際教育文化交流を体系的に学ぶことができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	国際共存問題、国際協力のあり方や真の国際交流について考察することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「国際教育文化交流論」の授業内容を学んで、その課題と論点について国際・比較教育文化学的な視点から、多様・複雑な社会の国際共存問題など国際化・国際協力のあり方を理解し、自らの考えをまとめることができます。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
本授業内容を学び深めた底力を活かしてフィールドワークしたり、関係文献探求や研究方法などのヒントが得られます。さらに草の根の身近なところでの日ごろ国際化・グローバル化に対応する国際感覚を培います。そして実践と事例研究に取り組み、論文の考察や自らの論文作成に活用し、体験することもできます。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	国際教育文化交流とは何か	講義	資料配布しますので、読んでおくことをおすすめします。
2	国際化と教育	講義及び対話型	〃
3	東アジアの交流の現状	講義及び対話型	〃
4	日韓文化論の概要	講義及び対話型	〃
5	グローバル化と国際交流	講義及び対話型	〃
6	グローバル化と留学生	講義及び対話型	〃
7	グローバル化と教育移民	講義及び対話型	〃
8	OECD参加国の少子・高齢化の問題	講義及び対話型	〃
9	子育て支援:保育・幼児教育の現状と政策(OECD比較検討)	講義及び対話型	〃

10	世界学力調査と教育改革の 動向	講義及び対話型	〃
11	民族共生と国際教育	講義及び対話型	〃
12	ライフスタイルの変化と家 族の国際化	講義及び対話型	〃
13	国際結婚と多文化家族	講義及び対話型	〃
14	地域社会における国際交流	講義及び対話型	〃
15	総まとめ	講義及び対話型	〃
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育特講 A		単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	農 中 茂 徳			
授業概要	人権教育・啓発のとりくみは、平成12年に成立の法律によって転機を迎え、とりくむべき内容を、国は「課題」として、福岡県は「分野」として示した。この授業では、日常の暮らしのなかの事象に着目し、そこに存在する普遍的な諸課題について学んでいく。その柱として、「法・制度」「障害」「同和問題」「炭鉱」「性」「平和」等を設定する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	授業ごとに資料を配布する。			
参考図書・教材等	参考文献については適宜提示する。拙稿「三池炭鉱宮原社宅の少年」（石風社）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	随時、相談に応じる。小レポート等の内容を参考に助言・応答を行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	身近な暮らしのなかに存在する人権の諸課題に気づき、差別と人権の関係性を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	個別の具体的な事例から普遍的なものを導き出し、「差別をしない」という認識から「差別をなくす」という認識に到達する。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
人権の学びの大切さについて、人前で話すことが出来るようになる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
人権の諸課題あるいは分野について列記できるようになる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		30	30	30			10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	人権と社会教育	映画の視聴、自由討議	参考図書・参考資料
2	同和教育から人権教育・啓発へ	講義	国の『基本計画』および
3	原点としての同和教育	講義	福岡県の『基本指針』
4	映画『菜の花』『水平社宣言』	16ミリ映画の視聴	社用紙と統一応募用紙
5	「障害」の理解	講義	16ミリフィルム、16ミリ映写機
6	「障害」観を問い直す	講義、ワークショップ	用語および制度の確認
7	「地域所属」のとりくみ	講義	神話と『障害者の権利条約』
8	人生のつまずきと「性」	ワークショップ、講義	拙稿「戦略としての地域所属」
9	「性」と学びの再構成	講義	一枚の絵、一つの物語
10	旧産炭地の諸問題	講義	拙稿「人生を分岐する性の学び」
11	筑豊、三池、沖縄	講義	福岡県内の炭鉱分布図
12	炭鉱（ヤマ）からの伝言	講義、フィールドワーク	炭鉱労働と自己、人命と教育
13	平和を絵にする	ワークショップ、講義	炭鉱絵、復権の塔、エコ・ミュゼ

14	ケーテ・コルヴィッツと鲁迅	講義、ビデオ視聴	版画「たねをこなにするな」
15	「差別をしない」から「差別をなくす」へ	フィールドワークと討議	拙稿「平和の絵を描く」
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習														○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育特講B		単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中	
担当教員	野依 智子			
授業概要	<p>貧困や非正規雇用問題など、女性をはじめとする若者、子ども、高齢者が生きにくい社会である。そうした生きづらさ・働きづらさを抱える社会のシステムをジェンダー・男女共同参画に焦点をあてて明らかにする。また、教育と福祉の関連としての社会教育という視点から、困難を抱えた人々のエンパワメントのための支援と学習について学ぶ。</p> <p>具体的には、グループで男女格差に関する資料を収集・考察し、どのような解決策・支援が必要かを議論し、グループレポートとしてまとめる。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	<p>参考文献:①鹿野政直『現代日本女性史ーフェミニズムを軸として』有斐閣、2004年。</p> <p>②小杉礼子/鈴木晶子/野依智子/(公財)横浜市男女共同参画推進協会『シングル女性の貧困』明石書店、2017年。</p>			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	女性問題と社会教育に関する専門的知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	男女格差に関する資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なのかを議論し、その解決策や支援策を提示することができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
成績評価の基準	<p>労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なのかを議論し、まとめることができる。</p> <p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p> <p>労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なのかを議論し、その解決策や支援策を提示することができ、その内容が優れている。</p> <p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なかを議論し、その解決策や支援策を提示することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なかを議論し、まとめることができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
労働における女性問題の現状を把握し、その課題を分析し、どのような解決策や支援が必要なかを議論し、まとめることができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	講義のねらいと対象	講義	参考文献①を読む
2	男女共同参画社会の現状を知る1～データから読み解く・グループワーク～	グループワーク	
3	男女共同参画社会への歴史	講義	
4	非正規労働と女性～貧困・孤立～	講義	
5	女性の貧困のメカニズム	講義	
6	労働法・労働政策の変遷	講義	
7	貧困女性への就労支援と学習	講義	
8	グループ・レポート作成のための話し合い：テーマ設定	グループワーク	
9	グループ・レポート作成のための資料収集	資料収集	
10	グループ・レポート作成のための章立てと分担	グループワーク	

11	グループ・レポート執筆①	グループワーク	
12	グループ・レポート執筆②	グループワーク	
13	グループ・レポート中間報告	グループワーク	
14	グループ・レポート修正・完成	グループワーク	
15	グループ発表と講評	グループワーク	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習										○							
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○						○		○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容			少人数のグループに分かれて、ディスカッションしながらレポートをまとめ、発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育特講 C			単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education C			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、幼稚園		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	山田 明				
授業概要	主体的な社会参加としてのボランティアの促進は時代のニーズである。そこで、本授業ではボランティアの概念やその意義を理論的に理解したうえで、ボランティアを活用した現代社会における諸課題の発見、認識及びその解決への見通しについて具体的手法（近年注目されているサービス・ラーニングやコミュニティ・デザイン等）を検討していく。また、受講生の積極的な参加と討論を通して共生協働の意識を涵養し、ボランティア実践へのきっかけとなること目的とする。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、現代社会の課題に関する新聞・テレビをはじめとするメディアの報道を注視しておくことが望ましい。				
テキスト	適宜、資料等を配布する。				
参考図書・教材等	内海成治、中村安秀編『新ボランティア学のすすめ』昭和堂、2014年。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後に質問に応じる。メール（勤務先の九州共立大学研究室宛）でも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	学生が主体的な社会参加（ボランティア）に関して、教育学的及び社会学的知見を獲得することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	学生が主体的な社会参加（ボランティア）に関して、根拠資料及びデータを基に論理的に考察し、判断することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ボランティアの概念や意義を理論的に理解し、共生協働の意識を涵養してボランティアへのきっかけとする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ボランティアを活用した現代社会の諸課題の解決について、具体的手法（地域貢献活動・サービス・ラーニング・コミュニティデザイン等）を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	60	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション～ボランティアの概念と意義：主体的な社会参加	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	ボランティアの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
2	ボランティアと市民性(シティズンシップ)の涵養	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	市民性の概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
3	ボランティアの現状と課題	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	現代ボランティア事情を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
4	地域社会(コミュニティ)の日米比較	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	日米における地域社会の推移を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
5	ボランティア(サービス)の日米比較	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	日米におけるボランティアの現状を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
6	ボランティアの諸事例①(機関ボランティア・病院ボランティア・地域ボランティア・環境ボランティア)	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	日本におけるボランティアの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
7	ボランティアの諸事例②(学校ボランティア・災害ボランティア・国際ボランティア)	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	本におけるボランティアの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
8	ボランティア・マネジメント	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	日本におけるボランティア・マネジメントの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
9	NPO(非営利組織)によるボランティア	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	NPOの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
10	NGO(非政府組織)によるボランティア	講義、授業課題プリント (配布) を基にした意見交換及び討論	NGOの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。

11	サービス・ラーニング(社会貢献学習)	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	サービス・ラーニングの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
12	コミュニティ・デザイン	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	コミュニティ・デザインの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。
13	これからの時代におけるボランティアの構想	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	これからのボランティアのあり方について検討し、講義後にノートに整理し、深める。
14	プレゼンテーションと討議	課題(事前配布)を基にしたプレゼンテーション及び討論	プレゼンテーションの準備(事前)と振り返り(事後)により深める。
15	総括	講義、総括討議、レポート課題の説明	本講義についてノート等を活用して振り返り(事前)、まとめの講義、総括討議を基に深める(事後)。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15				
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
その他()																			
内容	毎回の授業において、講義内容に関するグループ討論を実施する。																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育特講D		単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education D		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	田中喜久			
授業概要	<p>現代社会において「マスコミュニケーション」の与える影響は大きい。この授業では、マスコミュニケーションの歴史と新聞、雑誌、テレビ、ラジオの4媒体及びインターネット等の特性について述べ、その受け手である大衆の心の動きについて考察を行う。</p> <p>さらに、マスメディア及び広告コミュニケーションについて解説を行い、受け手である生活者が適切な判断と行動を行うためのポイントについて考察を行う。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する			
実務経験を 生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	適宜、個別の質問・相談等にも応じる			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	マスメディア及びインターネットの歴史と特性について理解を深め、自ら正しい情報を選択する手法を身に付けることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	コミュニケーションとは何かを自ら考え、主体的な感性を磨くことができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
授業で学んだことを実際の消費行動の中で生かしていく。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
マスメディアについて関心をもち、講義終了後は、当該メディアについて新しい目で観察、評価していく。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		期末レポート	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	50					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	講義概要 ①コミュニケーションとメディア ②日本型マスコミュニケーションの特性 ③広告コミュニケーション	VTR使用と講義	マスメディアがいま何をどのように報道しているのかを知り、社会の出来事について自分なりの考えを持つように心がけてください。
2	コミュニケーションとはその基本的な「仕組み」とメディアのもつ特性について	以下、同じ	以下、同じ
3	マスコミュニケーションの存在意義 現代における大衆(マス)とメディアの相互関係について		
4	言語と映像①-意味とイメージ 情報構成の核となる「言葉」(意味)と「映像」(イメージ)について考察		
5	言語と映像②-映像の影響 手塚治虫のアニメーション映像に見る「イメージとコミュニケーション」		
6	マスメディアの歴史と特性 マスメディアの歴史は、社会のコミュニケーション範囲の拡大の歴史		

7	日本型マスメディアの形成 (戦前)		
8	日本型マスメディアの形成 (戦後)		
9	日本型マスメディアの形成 (まとめ)		
10	4大メディアの広告料金と主な 特徴		
11	テレビ的コミュニケーションに ついて		
12	広告の存在意義と広告が創り出 す価値とは		
13	情報の「受け手」についての考察 ～「ターゲットプロファイル」		
14	広告「クリエイティブ」は何を創 造するのか		
15	戦後を特徴づけたキーワードと 三つの商品／質疑応答		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育特講 E		単位	2
科目名（英語）	Special Lecture of Social Pedagogy E		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	宮本 聡			
授業概要	本講義では、「子どもと生活世界」をテーマに講義を行う。子どもを取り巻く生活世界の移り変わりを日本社会に焦点化し概観していく。生活世界における教育実践として、地域社会で実践される祭礼、儀礼や地域習俗を題材にし、地域に根付く教育/学習の場の課題と可能性について考察を深める。また、本講義では、受講者各自の地域での教育実践に関する発表等の積極的な参加を前提としている。			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	テキストは指定しない。			
参考図書・教材等	参考文献は飯島吉晴[著]『子供の民俗学』光生館,1991年/J.レイヴ&E.ウェンガー[著],佐伯胖[訳]『状況に埋め込まれた学習:正統的周辺参加』産業図書,1995年、など。その他、授業中に参考文献を紹介したり、適宜プリントを配布して補足を行う。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義後などに随時相談に応じる。また、メールでの学習相談にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	日本社会における子どもの生活世界の変容とその意味を理解し、説明できる。社会教育とともに民俗学、地域における学習に関する基礎的知識を連続的に理解し、活用できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	子どもを地域社会に関する現代的課題を理解し、考察することができる。資料や地域社会での実践を読み解き、自分の考えをもって議論に参加することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地域における教育実践の課題と可能性について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
地域における教育実践の課題と可能性についてに関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
地域における教育実践の課題と可能性について実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
地域における教育実践の課題と可能性について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
地域における教育実践の課題と可能性についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
地域における教育実践の課題と可能性についてに関する用語の意味が理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
地域における教育実践の課題と可能性についてに関する用語の意味が理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	講義の説明	講義	講義中に指示を行う。
2	子どもと生活世界(1)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
3	子どもと生活世界(2)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
4	子どもと生活世界(3)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
5	子どもをめぐる習俗(1)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
6	子どもをめぐる習俗(2)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
7	子どもをめぐる習俗(3)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
8	子どもをめぐる習俗(4)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。
9	子どもをめぐる習俗(5)	講義、ディスカッション	講義中に指示を行う。

10	地域社会と教育の場(1)	講義、発表、ディスカッション	講義中に指示を行う。
11	地域社会と教育の場(2)	講義、発表、ディスカッション	講義中に指示を行う。
12	地域社会と教育の場(3)	講義、発表、ディスカッション	講義中に指示を行う。
13	地域社会と教育の場(4)	講義、発表、ディスカッション	講義中に指示を行う。
14	地域社会と教育の場(4)	講義、発表、ディスカッション	講義中に指示を行う。
15	まとめ	講義、ディスカッション	事後：レポート作成
備考	受講生は自身の地域に根付く教育実践の研究や発表を予定している。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他（ ）																		
内容	配布する資料や文献の内容に関して、少人数のディスカッション等を行う。																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	キャリア論	単位	2
科目名（英語）	Career	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	教員資格
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	井上奈美子		
授業概要	<p>進路選択は、個人が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動でもある。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。これによって、将来教員を目指す者にとってはキャリア教育の実践力が身に付き、民間企業や公的機関への就職を目指す者にとっては就職活動に有意義な知識を獲得することができる。なお本講義では履修生主体のアクティブラーニングを行う。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>本学のプレインターンシップ、社会人基礎力などを履修することが望ましい。</p>		
テキスト			
参考図書・教材等	<p>教職志願者は教科書を生協にて購入してください。それ以外の方には適宜資料提供します</p>		
実務経験を生かした授業	<p>長年、大学の就職課で就職（キャリア）進路支援を行った実務経験者が指導する。キャリア教育の教員に求められる知識と資質、さらに民間や公的機関の採用試験の動向について議論する。</p>	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。授業中の質問、発言は成績評価の加点となります。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。
履修目標	<p>授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。</p>		
<p>社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

進路指導、キャリア教育の教育意義を理解し、さらに現代の子供たちの進路選択や悩みを理解することができる。現代社会で若者が抱える就職活動の悩みや新卒労働市場の動向などについて理解する。キャリア教育の理論を理解し、自身の進路選択や人生に活かすことができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

5回以上の欠席は不可となります。ご注意ください。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		60			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		20		30			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		20		30			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（講義の進め方、課題、成績評価の説明など）	講義、履修目的の明確化	
2	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ 第1回講義	教職課程履修生には、講義に加えて文部科学省発行の資料などを読み込む	毎回、講義の復讐として自習を行う。配布資料は各自でダウンロード、印刷を行うこと
3	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育 第2回	課題が別途あります。予習復習として	
4	キャリア教育推進施策の展開 第3回	自己学習が必要になります。	
5	キャリア発達支援 第4回	民間企業や公的機関への就職を希望する履修生には資料課題はありません	
6	主体的進路選択 第5回 資料なし	さんが、講義で学んだことを就職活動や	

7	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程 第6回	その後の社会活動に活用できる知識の獲得を目指します。 本講義は学生主体で学びあうアクティブラーニングを取り入れます。その中で進路指導の模擬事業を行っています。 学生へのプレゼン発表・グループ	
8	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ 第7回資料なし		
9	キャリア意思決定（文部科学省提言）第8回 資料なし		
10	キャリア自己効力感－社会認知的キャリア理論		
11	現実的探索・試行と社会的移行準備		
12	職業観・勤労観の確立		
13	キャリアと協働、キャリア自己概念		
14	生涯にわたる主体的キャリア形成		
15	学習の振り返り、プレゼンテーション		
備考	同じ人が作業や発言をしないようチームワークを重視した学習活動を行う		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
その他（ ）																	
内容	毎回、なんらかのグループでのアクティブラーニングを行う。模擬授業や模擬面接もあり																

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報数学			単位	2
科目名（英語）	Information Mathematics			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	石崎 龍二				
授業概要	<p>コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり画像や音声のデジタル信号処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。</p> <p>本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報のデジタル化と情報通信の基礎となる符号理論、コンピュータのハードウェア設計の基礎となる命題論理、ソフトウェア設計の基礎となる述語論理・オートマトン理論・形式言語理論・プログラミング言語などの基本的概念を学ぶ。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	独自テキストを配付する。				
参考図書 ・教材等	開講時に紹介する。				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」「プログラミング言語」に関する基本的概念を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	文字、音、画像等の情報の2元符号化ができる。 情報量・平均情報量の計算ができる。 論理式を使った論理演算、命題変数の真理値表での表現ができる。 命題を述語論理の論理式として表現できる
		(DP 4)	
		(DP 5)	
	関心・意欲・態度	(DP 6)	
		(DP 7)	
	技能	(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解し、情報の2元符号化、情報量・平均情報量の計算、論理式を使った論理演算や命題変数の真理値表での表現、命題を述語論理の論理式で表現できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解している。		

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)		◎			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	事象と確率	講義	事象と確率について整理
2	指数関数と対数関数	講義	指数関数と対数関数について整理
3	2 元符号化理論－進数変換、負数の符号化	講義	進数変換、負数の符号化について整理
4	情報源符号化理論－情報量・平均情報量	講義	情報量・平均情報量について整理
5	情報源符号化理論－情報源符号化定理	講義	情報源符号化定理について整理
6	情報源符号化理論－通信速度、通信容量	講義	通信速度、通信容量について整理
7	論理演算と論理回路	講義・レポート課題提示	論理演算と論理回路について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	命題論理	講義	命題論理について整理
9	述語論理	講義	述語論理について整理

10	オートマトン理論の基礎	講義	オートマトン理論の基礎について整理
11	オートマトン理論の応用	講義	オートマトン理論の応用について整理
12	チューリングマシンとコンピュータ	講義	チューリングマシンとコンピュータについて整理
13	形式言語理論	講義・レポート課題提示	形式言語理論について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	プログラミング言語	講義	プログラミング言語について整理
15	まとめ	講義	本講義の履修目標に達していない部分について復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	Web デザイン演習		単位	1
科目名（英語）	Web Design Practicum		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	インターネットでは様々な Web サイトが運営されている。Web ページがどのように作られているのか、Web ページを構成する代表的な技術（HTML, CSS, JavaScript）について学び、自ら情報発信を行える技能を身に付ける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	こもりまさあき・赤間公太郎『Web デザインの新しい教科書（改訂新版）』，エムディーエヌコーポレーション，2016，¥2,500+税			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	Web サイトの構成について理解している。 HTML, CSS, JavaScript といった Web 関連技術に関する知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	アクセシビリティ、ユーザビリティを考慮して Web ページをデザインすることができる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
		(DP 7)	
	技能	(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	HTML を使って Web ページの開発を行うことができる。 HTML と CSS を組み合わせて Web ページの構成デザインを行うことができる。 JavaScript を使ったプログラミングを実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web 関連技術を十分に理解し、目的やユーザ層を鑑みながら、Web サイトの仕様策定、設計、制作を実施することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
Web 関連技術を理解し、HTML, CSS などを用いて Web ページを作成することができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○					
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○					
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○					
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	Web サイトの構成（システム構成、Web サーバ）	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
2	Web サイトの設計。アクセシビリティ、ユーザビリティ	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
3	Web サイト制作の設計計画	Web サイト制作のための作成計画 演習	事前にどのような Web サイトを作るか、ある程度の構想を建てておく。 次週までに Web サイトの構成、仕様策定、ある程度のデザインなどの計画書を作成する。
4	HTML（1）： タグ、属性、Web ページの基本構造	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。

5	HTML (2): 文章記述、修飾	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
6	HTML (3): 画像表示とリンク	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 今後、Web サイトに使うための素材や画像を準備しておく。
7	HTML (4): リストと表	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 WebサイトのトップページのHTML作成を進めておく。
8	HTML (5): HTMLでのトップページの完成	Web ページ作成演習	次週までにWebサイトのトップページのHTMLを完成させる。
9	CSS (1): CSSの役割。HTMLへのCSSの適用。	講義と CSSによるデザイン演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
10	CSS (2): セレクタと画像	講義と CSSによるデザイン演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 WebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を進めておく。
11	CSS (3): ボックスモデル	講義と CSSによるデザイン演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 WebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を進めておく。
12	CSS (4): レスポンシブルデザイン	講義と CSSによるデザイン演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までにWebサイトのトップページのCSSレイアウト作成を完成させる。
13	JavaScript (1)	講義と JavaScriptプログラム演習	事前に資料の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
14	JavaScript (2)	講義と JavaScriptプログラム演習	事前に資料の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
15	Webサイトの仕上げ	Webサイト制作演習	締切までにWebサイトを完成させ、仕様書と共に提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング概論		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Programming		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	コンピュータプログラミングの基本的な概念や技法を習得する。 代表的なプログラミング言語（C言語やJavaScript等）を例にして、プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）、アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）、関数の作り方、ファイル処理などを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの技法を身につける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自テキストを配付する。			
参考図書・教材等	開講時に紹介する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）を理解している。 アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	問題に応じて変数の宣言を適切にできる。 問題に応じて制御文（順次、分岐、反復など）を適切に使ったプログラミングができる。 問題に応じて関数を適切に使ったプログラミングができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解し、問題に応じて変数の宣言、制御文、関数を適切に使ったプログラミングができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解している。		

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		5	70			25	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	◎			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	プログラミングの概要	講義・演習・確認テスト	プログラミングの概要について整理
2	基本的なデータ表現	講義・演習・確認テスト	基本的なデータ表現について整理
3	簡単なデータの入出力	講義・演習・確認テスト	簡単なデータの入出力について整理
4	数値データの入力・計算・出力	講義・演習・確認テスト	数値データの入力・計算・出力について整理
5	選択処理－分岐	講義・演習・確認テスト	選択処理－分岐について整理
6	反復処理－繰り返し	講義・演習・確認テスト	反復処理－繰り返しについて整理
7	1次元配列・2次元配列	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	1次元配列・2次元配列について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	関数の作り方	講義・演習・確認テスト	関数の作り方について整理
9	文字列操作関数・数学関数	講義・演習・確認テスト	文字列操作関数・数学関数について整理
10	ファイル処理	講義・演習・確認テスト	ファイル処理について整理

11	JavaScript－データの入出力	講義・演習・確認テスト	JavaScript－データの入出力について整理
12	JavaScript－選択処理	講義・演習・確認テスト	JavaScript－選択処理について整理
13	JavaScript－反復処理	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	JavaScript－反復処理について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	JavaScript－フォームの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－フォームの活用について整理
15	JavaScript－メニューの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－メニューの活用について整理
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でプログラミング演習を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	個人情報法制		単位	2
科目名（英語）	Information Privacy Law		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	後期	
担当教員	森脇敦史			
授業概要	情報社会においてデータは「21世紀の石油」と言われるほど、社会活動において重要度を増している。中でも「個人情報」は、適切に取り扱われることが個人の基本的人権として要求される一方、その適切な利用は本人及び社会への利益の観点からも重要である。本講義では、個人情報の「保護」だけでなく「利用」の側面について、現行の法制度と実際の運用を講義する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	(レジュメを配布する)			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	個人情報に関わる法制度に関する基本的知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	個人情報について生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理し、より望ましい制度設計を考察できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎					
思考・判断・表現	(DP3)	◎					
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
2	個人情報法制の歴史と法体系……個人情報とプライバシー、条例と法律	講義	同上
3	個人情報保護法①……個人情報の定義、個人情報取扱事業者	講義	同上
4	個人情報保護法②……個人情報に対する義務	講義	同上
5	個人情報保護法③……個人データ・保有個人データに対する義務	講義	同上
6	個人情報保護法④……匿名加工情報、実効性確保	講義	同上
7	行政機関個人情報保護法①……定義、保護	講義	同上
8	行政機関個人情報保護法②……開示・訂正・利用停止請求	講義	同上
9	その他の個人情報関連法……医療ビッグデータ法、住基法、番号法	講義	同上
10	個人情報の国際的保護……EU 一般データ保護規則、アメリカの個人情報保護	講義	同上
11	事例検討……個人情報ビジネス①	講義	同上
12	事例検討……個人情報ビジネス②	講義	同上
13	事例検討……行政機関と個人情報	講義	同上
14	事例検討……医療・福祉・教育と個人情報	講義	同上

15	まとめ	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク												○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報ネットワーク論			単位	2
科目名（英語）	Information Network Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。ネットワークセキュリティに関する基盤技術について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。ネットワークセキュリティについて理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		20	20			100
知識・理解	(DP1)	○		○			
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)				○		
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	○		○			
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	インターネットの技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
3	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	プロトコル技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	LANシステムの構成	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	IP アドレス	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	サーバー (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	サーバー (2)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	ルーター	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
10	スイッチと VLAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	ファイアーウォール	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	暗号化、ユーザ認証	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	無線 LAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	音声、動画の通信	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報ネットワーク論			単位	2
科目名（英語）	Information Network Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。ネットワークセキュリティに関する基盤技術について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。ネットワークセキュリティについて理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		20	20			100
知識・理解	(DP1)	○		○				
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)	○		○				
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	インターネットの技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
3	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	プロトコル技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	LANシステムの構成	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	IP アドレス	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	サーバー (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	サーバー (2)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	ルーター	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
10	スイッチと VLAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	ファイアーウォール	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	暗号化、ユーザ認証	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	無線 LAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	音声、動画の通信	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	データベース論			単位	2
科目名（英語）	Database Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	世の中にある多くの情報システムにおいてデータベースはデータ管理の中核となっている。本講義では、情報システム設計の基本となるデータベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学習する。また、Microsoft Access を利用して実際にデータベースの構築を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	e ラーニングで資料配布します。 Access の操作については、『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦（オーム社）を使用				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業					授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。 データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。 SQL の記法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実事象を適切にモデル化することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	データベースの設計・構築を行うことができる。 SQL を使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題・ レポート	授業態度・ 参加度	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	データベースとは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	データベース管理システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	関係データベース（1）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
4	関係データベース（2）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	関係代数	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

6	Access の操作演習	Access による DB 検索演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
7	SQL (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	SQL (2)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
9	SQL (3)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	データベースの設計(1)三層スキーマ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	データベースの設計(2)E-Rモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	データベースの設計(3)正規化1	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	データベースの設計(4)正規化2	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
14	データベース設計演習(1)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	データベース設計演習(2)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング演習			単位	1
科目名（英語）	Programming Practicum			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3	開講時期	前期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	問題解決を図るためには論理的思考が必要である。プログラミングは論理的思考能力を身に付けるのに非常に有効である。 「プログラミング概論」で身に付けたプログラミング手法を応用し、具体的な目的を達成するためのアプリケーション開発を行う。そのために必要なモデル化、モジュール化の知識を修得し、実践に活かす力を身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングシステムで資料提供する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解している。 論理的思考を行うための前提知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実問題をモデル化することができる。 大問題を小問題の群として再構成し、問題解決方法を模索できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	目的を達成するために、アルゴリズムを設計し、プログラム開発を行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
問題解決のために、問題をモデル化し、解決手段を論理的に検討することができる。またプログラミングを用いて問題解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解し、オブジェクト指向型プログラミングを作成できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
2	C言語の復習	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
3	メソッド	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
4	アルゴリズムの基礎（1）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	アルゴリズムの基礎（2）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
6	オブジェクト指向型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

7	.Net Framework	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
8	Windows アプリケーションの作成基礎	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
9	イベント駆動型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	カプセル化	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
11	継承 (1)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
12	継承 (2)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
13	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
14	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報検索システム論			単位	2
科目名（英語）	Information Retrieval Systems			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	インターネットや情報システムの中には膨大なデータが蓄積されており、今もなお増加している。我々はその膨大なデータの中から必要な情報を検索・抽出しなければならない。本講義ではWeb検索エンジンを例にテキスト検索を中心に、情報検索がどのように行われているのか、その仕組みについて学習する。また一般に判別技術についても学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にないが、「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングで資料配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	Web検索エンジンの仕組みについて理解している。 検索関連技術について理解している。 機械学習手法の基礎を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	情報判別手法の基本を理解し、問題解決に応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	機械学習（教師あり学習）を実践に応用できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web検索エンジンに関する基盤技術を理解している。AIに関する基盤技術を理解し、問題解決への応用を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Web検索エンジンの仕組みを理解している。AI技術の基礎的な知識を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	10	20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	情報検索とは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	テキスト検索:文書の表現	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	検索エンジンの構成、クローリング	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	形態素解析:単語の抽出	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
5	索引付け	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	辞書	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	検索の評価値(1):PageRank	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	検索の評価値(2):その他 (tf/idf、コサイン類似度、PMI、シソーラス類似度)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	画像の検索	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
10	情報検索システムの評価:適合率、再現率、F値	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
11	情報検索システムの評価テスト:機械学習、クロスバリデーション	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	検索質問の拡張:対話型検索、自然言語検索、QA	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	情報検索技術の応用:自動要約、文書分類、情報推薦	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	情報検索技術の応用:セマンティックウェブ、対話システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	情報検索技術の応用:判別技術	機械学習に関する演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	組織マネジメント		単位	2
科目名（英語）	Organizational management		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>公的機関、民間企業、非営利団体に限らず、事業を遂行し、目標を達成するには、組織的な運用は不可欠です。更に、仕事の場に限らず、生活全般にわたって組織と関わることもある現代において、組織について学ぶことは、人が社会で生きていくためにも重要になってきています。本講義は、理論的枠組みを理解しやすいよう説明していきます。まず、組織の定義や組織の成立条件について学ぶことからスタートします。そして、組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて学びます。また、組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革についても取り上げます。これらの学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に付けることができます。なお、本講義では、実際に組織（チーム）を形成し、講義の中でグループワークを行い、教員との双方向による議論を展開します。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	はじめての経営組織論、高尾義明、 有斐閣 ストウディア 1900（+税）			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学の管理職として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む組織マネジメントについてわかりやすく指導する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	組織論と経営学の領域を多面的に捉え、理論的枠組みの理解と理論の実践を体験的に学ぶことで、組織運用のための思考と実践力を高める。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	変化する社会において、不確実性のともなう組織マネジメントでは、個人が組織内において将来を見越して主体的に行動するダイバーシティマネジメントが実行できるよう専門的スキルを身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
組織の定義や組織の成立条件について理解します。組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて理解します。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革について理解します。学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に着けます。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20		30			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	なぜ組織について学ぶのか：①協働する場としての組織②個人をエンパワーする組織	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイル
3	組織の定義：①経営組織と経営資②意思決定からのアプローチ	講義・アクティブラーニング	
4	組織目的：①組織の目的と個人が組織に参加する目的との関係②ステークホルダーからの経営資源の調達と組織均衡	講義・アクティブラーニング	

5	コミュニケーションと調整:①調整と決定前提②組織におけるコミュニケーション③コミュニケーションの円滑化	講義・アクティブラーニング	ルで、深く広く理解することを目指します。
6	貢献意欲:①組織メンバーの参加確保②貢献意欲の必要性の増大③関係づけメカニズム	講義・アクティブラーニング	
7	合理的システムの設計:①組織の発展に伴う構造の変化②典型的な組織形態	講義・アクティブラーニング	
8	自生的システムの創発:①社会的ネットワーク②組織文化	講義・アクティブラーニング	
9	組織プロセス:①様々なリーダーシップ②ポリティクスとコンフリクト③組織プロセスの複雑性	講義・アクティブラーニング	
10	経営資源としての変化する人:①モチベーションの源泉への注目…ニーズ(欲求)理論②モチベーションの複雑性…プロセス(過程)理論	講義・アクティブラーニング	
11	戦略と組織学習:①組織と戦略の関係②組織の学習	講義・アクティブラーニング	
12	イノベーションと組織:①イノベーション創出に向けた組織マネジメントの特徴②知識の創出と獲得	講義・アクティブラーニング	
13	変化を続ける組織:①変化し続ける組織①変化を増幅する学習	講義・アクティブラーニング	
14	企業・団体組織マネジメントケース分析、まとめ	アクティブラーニング	
15	パワーポイント用いたプレゼンテーション	プレゼンテーション	
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
その他()																			
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	ビジネス倫理		単位	2
科目名（英語）	Business Ethics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	<p>学生が将来、仕事上の倫理問題に直面したとき、責任をもって倫理に適った望ましい決断を下せるよう、ビジネス倫理に関する基礎知識の習得と意思決定の訓練を行う。過去の企業不祥事など具体的なケースについて分析しながら、経営戦略や日常の企業活動において求められる倫理を学ぶ。現在のビジネス倫理に必須の個人情報保護、危機管理についても同時に理解を深める。民間企業だけでなく、行政機関や医療機関なども分析対象とする。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	なし。			
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	明確な根拠をもって意思決定した内容について、わかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	仕事で出会う倫理問題について自ら考え、意思決定する能力を身につける。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
仕事上直面しうる倫理問題について自ら考え、明確な根拠をもって意思決定し、その内容をわかりやすく伝えることができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「ビジネス倫理講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「ビジネス倫理講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）
2	仕事と意思決定	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
3	個人情報の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
4	個人情報の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第1回）	
5	民間ビジネスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
6	民間ビジネスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第2回）	
7	医療・福祉サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
8	医療・福祉サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
9	行政サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	

		小レポート（第3回）	
10	行政サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
11	地域社会の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第4回）	
12	地域社会の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
13	SDGs（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
14	SDGs（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第5回）	
15	まとめ	学期全体の学習内容を復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				具体的なケースに関するグループ・ディスカッションを随時行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	問題解決演習		単位	1
科目名（英語）	Problem Solving		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子			
授業概要	<p>現代社会では、個人の能力を発揮することによって、地域社会が発展することが重要視されています。授業では、地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。</p> <p>授業の中では、具体的な社会課題を考えるため可能な限り身近な課題を扱う予定です。これまでは、めんべい、博多座、西部ガスなどの企業から提供された課題を解決することに挑戦しました。授業時間には限りがあるため、授業内容を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度、チームでの協同作業への主体的な取り組みが求められます。なお、授業の連続性が高く学外の方との協同作業も含まれるため、毎回の授業出席は重要になります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前向きな姿勢でグループワークに参加し、授業を欠席しないよう努めること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	企業や行政にマネジメントや人材育成について助言アドバイスをしている教員が諸経験を活かし、社会で活躍するために必要になる基礎的能力育成を目指して講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
		(DP3)	
	思考・判断・表現	(DP4)	チームの内部及び外部の者に対して、問題の設定や解決に関する情報を的確に伝達できる。
		(DP5)	
	関心・意欲・態度	(DP6)	地域社会に存在する問題を発見し、自らその解決に向けて具体的に活動することができる。
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	問題の発見、解決に必要なとなる情報の収集、分析を適切に行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	与えられた課題を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度をはぐくみます。また、チームでの協同作業への主体的な取り組み姿勢を身に着けます。パワーポイントを作成し、社会人を相手にプレゼンする力を身に着けます。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30		60		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		10		20			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		10		20			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10		20		10	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	多様な地域課題の背景と課題間の関係性について考える	講義・アクティブラーニング	本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあいます。課題を提供していただくのは、民間企業や行政機関となります。1・2回は現場を見学する予定です。土曜日に見学訪問を行う可能性が高いです。課題の内容や活動の状況によっては、予定を変更することがあ
3	地域課題の抽出、チームビジョンの共有、チームリーダー決定	講義・アクティブラーニング	
4	企業分析のためのツールや分析方法について	講義・アクティブラーニング	
5	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	

6	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	ります。
7	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
8	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
9	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
10	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
11	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
12	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
13	変課題解決案の発表会の準備	講義・アクティブラーニング	
14	プレゼンテーション	アクティブラーニング	
15	振り返り	プレゼンテーション	
備考	5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（ ）																		
内容				グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	演 習		単位	2
科目名（英語）	Seminar		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	岩橋宗哉			
授業概要	<p>卒業論文の作成に向けて必要な、以下にあげる知識や技能を修得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得すること。 2. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらを応用する能力を身につけること。 3. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識を修得すること。 4. 受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にすること。 			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	自らが研究しようとするテーマについての基礎的な概念、専門的知識を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 調査研究、あるいは実験などに必要な知識や技能を修得する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP2,5,10 を十分に達成する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP2,5,10 を最低限、達成する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				100			
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)			20			20
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			60			60
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			20			20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1 ~ 15	研究テーマを明確にするために、研究論文等を検索し、まとめ、発表する。	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。	事前に発表資料を作成する 事後に新たな課題を検討する。
16 ~ 20	今までの研究を概観し、具体的に研究テーマを明確にし、研究方法の検討も行う。 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。	

21 ～ 30	問題・目的・研究方法についての概要を作成する。	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				前半はグループディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	認定心理士
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	吉岡和子		
授業概要	1. 卒業論文の作成に向けて、受講者各自の問題意識を明確にする。 2. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 3. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。 4. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人間形成学科の3年生で、ゼミ選択した者		
テキスト			
参考図書・教材等	よくわかる卒論の書き方[第2版] 白井利明・高橋一郎(著) ミネルヴァ書房 その他、授業の中で各自に指示		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	受講者各自の問題意識を明確にする。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 ・調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP 2、5、10 が達成できている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP 2、10 が達成できている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		演習					合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	30					30
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)	40					40
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)	30					30
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回：通年) 90分 (30回：半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	
2~15	<ul style="list-style-type: none"> 各自が問題意識を明確化していくための基本的な概論書や論文を読む。 テーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。 今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。 	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。	授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。 各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。
16~30	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。 各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。 	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数				1	2～30											
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容				2～15回はグループ・ディスカッションを行う。												

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータを集めて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修の前に必ず担当教員と所属学科の教務担当教員に相談してから履修すること。 遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。			
テキスト	テキストは授業内で相談の上決定する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけ、結果を論理的にまとめ、表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業外レポート	演習					合計
総合評価割合		40	60					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○					
備考	授業では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している場合に評価する。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4-12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
13-14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
16	ガイダンス	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
17-22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。

	の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスをしあう。		
23-29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	柴田 雅博		
授業概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会の中でICTがどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を自主的に収集、分析することができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ある程度の研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を収集、分析することができる。研究テーマに関するICTの基盤知識を理解する。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習	授業態度・参加度	発表	課題・レポート	その他	合計
総合評価割合		20	20	30	30		
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○		○	○	
思考・判断・表現	(DP3)		○		○	○	
	(DP4)		○	○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○		○	○	
	(DP6)				○	○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。
2,3	輪読用の文献決め。分担	演習	
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジユメの作成、討議を含む。	演習	担当部分について、レジユメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。
13,14	後半に向けての研究テーマ決め	演習	研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。
15	中間のまとめ・後期の研究計画	演習	後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。
16	今後の研究方法を検討	演習	
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。	演習	各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集や PC での作業を進めておくこと。
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議	演習	討議の内容について、回答を出す。
28,29	研究レポートの作成	演習	各自テーマについて、研究レポートを

			作成する。
30	後期のまとめ	演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
講義回数																		
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	演 習		単位	2
科目名（英語）	Seminar		授業コード	385
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	心理学に関する研究を行う上で必要な知識と技能を修得し、自分の関心のある心理学研究を計画する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	特になし。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業	心理学研究を実施した経験を持つ教員が実施する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問・相談は、演習時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	心理学に関する研究方法の知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自分の関心に沿った心理学に関する研究を計画できる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	自分の関心に沿った心理学に関する研究を計画できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
心理学に関する研究方法の知識を身につけ、心理学に関する研究を適切に計画できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心理学に関する研究方法の知識を身につけ、心理学に関する研究を計画できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
心理学に関する研究方法の知識を十分身につけ、研究計画が大変優れている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
心理学に関する研究方法の知識を身につけ、研究計画が優れている。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

心理学に関する研究方法の知識を身につけ、研究計画が概ね良好である。
C：60～69 到達目標を達成している。
心理学に関する研究方法の知識を身につけ、研究を計画できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
心理学に関する研究方法の知識を身につけておらず、研究を計画できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	演習	合計
総合評価割合			30	20		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)			○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○	○		
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション		
2	担当者による文献紹介 （計28回、各学生は6回程度、興味を持った文献を読み、その内容を要約して自分の担当回に発表する。）	担当者の発表とディスカッション	興味を持った文献を読み、その内容を要約する。自分の発表に合わせて、発表内容のレポートを作成する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
29			
30			

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし																
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3	開講時期	通年
担当教員	上野 行良		
授業概要	実際の研究を各自で行いながら、心理学に関する研究を行うために必要な知識と技能を修得する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人間形成学科の決定によって担当教員が指導教員となった者		
テキスト	自分で探す		
参考図書・教材等	なし		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	相談・質問は始動中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	心理学の研究方法に関する知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	心理学的な問題について仮説を立て、実証する方法を考えることができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	心理学の実証研究を行うことができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>オリジナリティのある仮説を立て、文献を積極的に収集し、実証方法を立案、実行することができる</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p> <p>仮説を立て、実証研究を実行することができる。</p>		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		
	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
	C：60～69 到達目標を達成している。		

グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	研究の実施														

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3	開講時期	通年
担当教員	森脇敦史		
授業概要	本演習では、卒業論文の執筆に必要となる研究手法の基本的事項を学ぶ。教科書として指定した文献の輪読により法律学の基本的な方法論を学ぶとともに、卒業論文のテーマについて定期的に報告する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門（第3版）』（日本経済新聞出版社、2019年）		
参考図書・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	法律学の基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会問題を、法的観点から説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自らの問題関心に基づいて、問いを設定し考えることができる。
		(DP 6)	法的知識に基づき、社会問題の解決に向けた提言ができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	法的議論に必要な資料の収集・分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
法律学の方法論の基礎的手法を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
法律学の方法論の基礎的手法を用いて、自らの問題関心を設定することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合				30	40		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)			◎	◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○		◎	
	(DP6)				○		◎	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	前期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 後期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 ・研究計画の作成	演習	教科書の該当部分を読み、報告を準備
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	杉野寿子		
授業概要	社会福祉、保育ソーシャルワーク、海外の福祉に関連する卒業論文を作成するための演習。グループワークや各自のテーマに基づいた個人研究・発表を中心に演習を進めていく。また、社会福祉分野における視野を広げるためフィールドワークも取り入れ、様々な体験を通して福祉問題について考える機会とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。		
参考図書・教材等	日本保育ソーシャルワーク学会編「改訂版保育ソーシャルワークの世界」2018年		
実務経験を生かした授業	児童福祉施設、障害者施設、高齢者施設での実務経験を生かし、社会福祉の理念、制度、相談援助等の基礎について、事例を挙げながら講義する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究テーマに関連する文献を読み、論理的に考えまとめることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	研究テーマを設定し、適切な研究方法にて調査することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	<ul style="list-style-type: none"> 必要な図書、文献等を検索して収集することができる。 研究方法に基づき、調査・分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会、教育、福祉、保育などに関連する研究テーマを設定し、近年の動向や課題について意見が述べられる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
設定したテーマに基づき、文献を読みながら論理的に考えをまとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業内ワークの取り組み	発表	その他	合計
総合評価割合				30	40	30		
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○	○	○		
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○	○		
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○	○	○		
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション		現代社会の諸問題を挙げる
2～8	・受講生各自の関心事や問題意識を持っていることについて発表 ・論文作成についての基礎理解	発表・討議	<ul style="list-style-type: none"> 常にニュースや新聞記事に注目し、社会の動向をとらえる。 関連文献等を読む。 福祉や保育の現場理解のための情報収集をする。 授業での発表準備とふりかえりを行う。
9～14	・保育、福祉を中心とする社会的問題について、各自で題材（新聞記事や文献等）を持ち寄り討論	発表・討議	
15～20	・福祉・保育等の現場理解 ・関連分野の理解を深める ・卒論テーマの仮設定	学外授業 発表・討議	
21～30	・先行文献の収集 ・研究方法の検討 ・先行研究についての発表 ・まとめ	発表・討議	

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習												○	○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	石崎 龍二		
授業概要	本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	演習の中での話し合いで決定する。		
参考図書・教材等	演習の中での話し合いで決定する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。研究テーマに沿って各種の資料を収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				50	20		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			◎			◎	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (ゼミの進め方)	演習	次回の資料について予習
2~7	演習に関する図書や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習
8	各自の (仮) 研究テーマの設定	演習	研究テーマの設定
9,10	各自の (仮) 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
11,12	各自の (仮) 研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
15	演習(前期)のまとめと演習(後期)に向けての計画	演習	資料・問題整理

16	各自の研究テーマについて中間報告（後期はじめ）	演習	全員、報告資料を用意
17~25	収集した文献、データ等の整理、各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし												
講義回数				1	2~7	8	9,10	11,12	13,14	15	25	17~25	26~30	
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）														
内容				テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成を行う。グループ・ディスカッションにより研究方法を上達させていく。										

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	幼稚園教諭一種免許・保育士資格
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	大久保 淳子		
授業概要	卒業論文の執筆方法と手順を理解するために、各自、興味・関心のあるテーマの先行研究を検索し、その概要を発表する。 その発表を通して、文献検索方法・研究方法（文献研究・質問紙研究・インタビュー研究・観察研究など）を知り、データの分析などを具体的に理解する。その後、研究テーマを決め、卒業論文の執筆の準備をすすめる		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、幼稚園教諭一種免許・保育士資格の取得科目を履修中であることが望ましい。		
テキスト	幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成30年 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府 文部科学省 厚生労働省）		
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。		
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での現状・課題等を紹介します。	授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	卒業論文の執筆方法と手順を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	保育・教育に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	保育・教育の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけている、
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 卒業論文の執筆方法と手順を説明することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 保育・教育に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求し、それに対応するための専門的スキルを身につけている。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
1	1回：オリエンテーション・論文の紹介 2回：文献検索方法について 3～10回：興味・関心のあるテーマの先行研究の発表 11～12回：研究テーマの設定 13～15回：文献リストの作成 16～18回：研究計画の作成 19～20回：研究目的の設定・研究方法の選択 21～23回：データ収集・分析 24回：中間報告 25～27回：研究をすすめる 28～30回：研究方法の再検討	・各回の研究について、質疑応答をする。	・進捗状況を踏まえて、学修課題を提示する。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																		
内容				適宜、グループワークをする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	池 志保		
授業概要	卒業論文の作成に向けて、基本知識と技能を習得する。演習では、各々が関心のある文献を調べて順番に発表していく。ディスカッションを通して問題意識を明確にし、テーマや目的、方法を絞っていく。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理コースの学生であること。		
テキスト	酒井聡樹（2017）『これからレポート・卒論を書く若者のために』、共立出版。		
参考図書・教材等	授業の中で適宜紹介します。		
実務経験を生かした授業	心理臨床で実務経験のある教員が担当しています。	授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究論文に関する専門的知識について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究論文に関する専門的知識について理解していく。自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションを行う。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を身につける。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
研究論文に関する専門的知識について大変よく理解している。自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションが大変よくできる。心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を大変よく身につけている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
研究論文に関する専門的知識についてよく理解している。自らの研究テーマについてよく探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションがよくできる。心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法をよく身につけている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
研究論文に関する専門的知識について問題なく理解している。自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションが問題なくできる。心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を問題なく身につけている。	
C：60～69	到達目標を達成している。
研究論文に関する専門的知識についてまずまず理解している。自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションがまずまずできる。心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法をまずまず身につけている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
研究論文に関する専門的知識について理解していない。自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションができない。心理に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法が身につけられていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)		◎	◎			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		◎	◎			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 ～ 5	<発表と検討> 卒業論文について、テーマを検討する。卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。	受講生が順番にレジメを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。	事前学習 文献の検索及び熟読後、レジメにまとめる。その時々課題に取り組む。 事後学習 ディスカッションで得た検討点について更に探求し、修正をしていく。
6 ～ 10	<発表と検討> 卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、テーマ及び問題と目的を検討する。		
11 ～ 15	<発表と検討> 卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、問題と目的および研究方法を検討する。		
16 ～ 20	<発表と検討> 卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、問題と目的、研究方法をまと		

	める。	
21 ~ 30	<発表と検討> 卒業論文について、仮題目を決める。卒業論文について、問題と目的、研究方法をまとめる。	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	池田孝博		
授業概要	人間の健康、身体活動とそれら関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成するための知識や技能を身につける。具体的には、テーマに則した文献を収集するための方法を学んで、収集した文献の論点を整理し、テーマに関する問題を抽出する。抽出された問題から研究目的を設定し、その解決のための方法論を選択する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	卒業論文の着手要件を満たしていること		
テキスト			
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究テーマに関する20編程度の文献を講読し、その論点を整理できる。データを分析するための統計手法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	学びの中から、興味ある内容をテーマとして抽出できる。自ら設定した課題を解決するための研究方法を選択できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	テーマに関する文献を検索して収集することができる。収集された文献に基づいて、研究課題を設定できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに関する30編以上の文献を講読し、その論点を明確に整理できる。データを分析するための適切な統計手法を理解している。学びの中から、興味ある内容を研究課題として具体的に抽出できる。自ら設定した課題を解決するために妥当な研究方法を選択できる。テーマに関する文献を検索して収集し、整理することができる。収集された文献に基づいて、具体的かつ目的の達成が可能な研究課題を設定できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

研究テーマに関する 20 編程度の文献を講読し、その論点を整理できる。データを分析するための統計手法を理解している。学びの中から、興味ある内容をテーマとして抽出できる。自ら設定した課題を解決するための研究方法を選択できる。テーマに関する文献を検索して収集することができる。収集された文献に基づいて、研究課題を設定できる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション、授業の進め方	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
2	研究における論文作成の手順の理解	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
3-4	文献検索方法の理解と実践	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
5-10	文献購読とリストの作成	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
11-15	先行研究の講読と整理（前期終了）	ゼミ形式	本時の復習と課題
16-18	研究課題の抽出	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
19-21	研究目的の設定	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備

22-27	研究方法の選択	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
28-29	研究計画の作成	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
30	研究計画発表会（4年生との合同ゼミ）	プレゼンテーション	本時の復習と課題
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1・2	3-4	5	～	10	11	～	15	16-18	19-21	22	～	27	28-29	30
発見学習／問題解決学習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	○
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	演習 2 単位
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必須	関連資格	幼稚園教諭・保育士
標準履修年次	3	開講時期	通年
担当教員	二見妙子		
授業概要	<p>これまでの経験や学びを基に、以下①②③の方法で自分の研究を進める。</p> <p>① 先行研究を調査し、自分のオリジナルな「問い」を立てる。 ② 『問い』を解くための方法を考え、資料を集める。 ③ 資料を元に、論理を組み立て、根拠を示して相手を説得するための文書を作成するための礎を身に付ける。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	『情報生産者になる』（ちくま書房：上野千鶴子：2018）		
参考図書・教材等	『特別支援教育を超えて』（徳田茂 2007）『障害を持つ人の家族の心理』（徳田茂 2003）『独立子どもアドボカシーサービスの構築に向けて』（堀正嗣 2017）『バクバクっ子の在宅記』（平本歩 2017）『殺す親殺させられる親』（児玉真美 2019）『糸、筑豊の被差別部落で』（松崎一 1992）『人権保育カリキュラム』（堀正嗣 2000）など、（研究室にて貸し出し可）。		
実務経験を生かした授業	本授業担当者は、特別支援教育及び療育現場での経験を持つ。しかし本授業は、これらをさらに障害学研究の視点で相対化して展開するものである。	授業中の撮影	了承を得る
学習相談・助言体制	随時可（メールなどにて連絡してください）		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	先行研究を調査し、自分のオリジナルな「問い」を立てる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	資料を元に、論理を組み立て、根拠を示して相手を説得するための文書を作成するための礎を身に付ける。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	『問い』を解くための方法を考え、資料を集める。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>① 先行研究を調査し、自分のオリジナルな「問い」を立てる。 ② 「問い」を解くための方法を考え、資料を集める。 ③ 資料を元に、論理を組み立て、根拠を示して相手を説得するための文書を作成するための礎を身に付ける。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
①	先行研究調査の方法を身に付ける。		

- ② 問いを立てる。
 ③ 資料を元に、論理を組み立てるための資料を収集する。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他（ファシリテーション）	合計
総合評価割合		30	30	30		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	10	10	10	40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		10	10	10		30
関心・意欲・態度	(DP5)		10	10	10		30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1～5	各自の問題意識とこれに関係する先行研究の発表と議論。	発表を基に、ファシリテーターが中心となって意見交換を行う。	各自、先行研究を調べながら、自分の問題意識を明確にする。
6～10	研究対象設定に関する資料発表と議論。	発表を基に、ファシリテーターが中心となって意見交換を行う。	各自、研究対象を設定するための資料集数を行う。
11～15	研究方法採択のための資料発表と議論	発表を基に、ファシリテーターが中心となって意見交換を行う。	各自、研究方法を採択するための資料収集を行う。

16-20	各自採択した研究方法によって、一次調査を行う。	発表を基に、ファシリテーターが中心となって意見交換を行う。	各自、調査を実施する。
21-25	調査によって得られたデータを分析する方法について考え、発表する	発表を基に、ファシリテーターが中心となって意見交換を行う。	分析方法や視点を先行研究や参考図書を基に調査する。
26-30	ここまでの研究概要についてレポートにまとめる。提出	個別指導	レポート作成。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし							
講義回数				1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30
発見学習／問題解決学習									
体験学習／調査学習							○		○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○		○	
その他（ ）									
内容									

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	認定心理士
標準履修年次	3	開講時期	通年
担当教員	麦島 剛		
授業概要	生理心理学は、神経科学（neuroscience）や生命科学（life science）の一角を占めるのと同時に、人文・社会科学との強い関連をもっている。この演習では、実験実習、文献講読・論文読解、プレゼンテーションを通して、生理心理学研究の frontline を知り、その理論を議論し、卒業論文作成の礎とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	購読文献を定める。詳細は、事前に受講者と相談の上、決定する。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生理心理学についての具体的な知識と理論を身につける。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	主体的・積極的に取り組み、知の体系に触れ、拓く。
		(DP6)	実験に必要な手技を実習し、研究に必要な文献講読方法を習得する。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	実験に必要な手技を実習し、研究に必要な文献講読方法を習得する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
実験実習、文献講読・論文読解、プレゼンテーションを通して、生理心理学研究の frontline を知り、その理論を議論する。その上で心理学を要とする諸科学における総合知を身につける。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
実験実習、文献講読・論文読解、プレゼンテーションを通して、生理心理学研究の frontline を知り、その理論を議論する。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の8割以上9割未満の成果が認められる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の7割以上8割未満の成果が認められる。
C：60～69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の6割以上7割未満の成果が認められる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の6割未満の成果が認められる。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				100			
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)			○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○			
	(DP6)			○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○			
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	1～15回		
2	① 行動に関する理論、その神経基盤に関する理論を議論する。その材料として、講読文献（最新の洋書が基本）を定め、各自がレジュメを作成して発表する。 ② 卒業論文テーマを明確化する。 ③ 卒業論文における研究に必要な技術を身につけるため、そのテーマに応じて実習（動物の扱い方や行動薬理学実験など）を行う。	◎講読文献や論文の発表については、発表者が必ずレジュメを作成し、分かりやすくプレゼンテーションを行なう。担当教員は、理解の手助けとなる理論や知識を紹介し、受講者間の議論を喚起する。 ◎卒業テーマの明確化については、個別指導またはゼミ内での集団討論の形式で行い、各自の希望テーマの実現可能性を考え、仮説を検討し、練り上げる。 ◎実習については、担当教員が実例を示しながら、ラット等を用いた行動薬理学実験や電気生理学実験を実施し、実践的な技能を身につけさせる。	講読文献や論文についての発表者は、事前に、辞書や専門書を用いながら計画的に読みこなし、読みやすいレジュメを作成するように。発表者以外にも、事前に講読文献を読むように。実習については、実際に手を動かして身につけることが重要である。3年次には、4年生が取り組んでいる卒業論文やデータ処理を積極的に見学し、手伝うことを通じて、理解や技能を深めると良い。
3			
4			
5			
6			
7			
8	16～30回		
9	① 卒業論文の土台となるデータ整理・実験計画法の基本を身につける。 ② 各自が国内外の論文を読み、まとめ、発表する。 ③ 各自が卒業論文の研究計画を立てる。	◎データ整理・実験計画法については、理論の教授と並行して、パソコン上のソフトウェアを用いて例題を解かせながら、実践的に習得させる。	
10			
11			

12		
13		
14		
15		
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	<input type="radio"/>	なし													
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○					○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	ゼミ発表 実験手技実習（当然ながら、進行はあくまで目安）														
あり	<input type="radio"/>	なし													
講義回数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
発見学習／問題解決学習	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○					○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	ゼミ発表 実験手技実習（当然ながら、進行はあくまで目安）														

I. 科目情報

科目名（日本語）	演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	鷲野彰子		
授業概要	音楽に関連する卒業論文を作成するための演習。保育の場での音楽の用いられ方や、音楽教材及びその歴史について、あるいはより広義の音楽教育及び音楽そのものについての研究方法を学ぶ。そこから、既成の方法にとらわれない創造的な音楽教育を行う姿勢を育む。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。		
テキスト	必要に応じて配布する。その他は、各自で用意する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	課題に対して論理的に考え、解決するための手法についての知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	課題に対して問題点を独自に追求し、解決方法を探求する姿勢を身につけている。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	課題を検討するための科学的な手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
課題に対して、探究心や追求する姿勢をもって、論理的に思考し、解決するための知識や手法を身につけている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
課題に対して、論理的に思考し、解決するための知識や手法を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	授業は基本的にディスカッション形式で行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文			単位	6
科目名（英語）	Graduation Research			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	認定心理士		
標準履修年次	4年	開講時期	通年		
担当教員	吉岡和子				
授業概要	<p>卒業論文の作成を以下の手順で支援・指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題意識に基づき、基礎的文献や資料、先行研究について調査・報告をし、討議をしながら研究課題と目的を明確にしていく。 2. フィールドワーク、調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。 3. 調査研究や実験測定を行い、得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。 4. 得られた結果について、考察を進める。 5. 卒業論文の目次構成を考え、執筆していく。 				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人間形成学科の4年生で、ゼミ選択した者				
テキスト					
参考図書 ・教材等	<p>・よくわかる卒論の書き方[第2版] 白井利明・高橋一郎(著) ミネルヴァ書房</p> <p>授業の中で各自に指示</p>				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	各自の問題意識に基づき、調査し、それに基づいて考察を進めることができる。
		(DP 4)	自分の考えを論理的な文章にまとめ、その内容を適切に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	心身に関する諸問題を検討するための基本的な科学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP 3、4、10が達成できている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP 3、10が達成できている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業中の 発表	卒業論文					合計
総合評価割合		50	50					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	20	20					40
	(DP4)	15	15					30
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	15	15					30
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1~10	演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。	授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。 各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。
11~20	得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。		
21~30	卒業論文の執筆を仕上げる。		

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数				1～30												
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容				1～30回で、問題解決学習、調査学習を行う。												

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	前期・後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない（福岡県立大学学部履修規則第4章第20条）。			
テキスト	テーマに応じて適宜紹介する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。
		(DP4)	自ら設定したテーマに関する内容、分析手法、結論を、他者に論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。研究テーマの内容、分析手法、結論を、他者に論理的に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに沿って各種の資料を収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない			

C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		卒業論文	卒業論文 要旨	授業外レポ ート・宿題	卒業論文 発表会	ポートフォ リオ	授業態度・ 授業への参 加度	合計
総合評価割合		75	15		10			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎		◎			
	(DP4)	◎	◎		◎			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	◎						
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション	演習	次回の資料について予習
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。	演習	必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。	演習	草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会	演習	卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。	演習	卒業論文を完成させる。
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。	演習	卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。	演習	発表会の準備をする。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし											
講義回数				1	2~7	8	9,10	11,12	13,14	15	25	17~25	26~30
発見学習／問題解決学習													
体験学習／調査学習													
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）													
内容				自ら設定した研究テーマに関する文献やデータ収集、分析、卒業論文の作成を行う。グループ・ディスカッションにより研究方法を上達させていく。									

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	岩橋宗哉			
授業概要	<p>心理学に関する卒業論文の作成を支援・指導する。 「演習」に引き続き以下の作業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を調査・報告するとともに、討議し、研究課題と目的を明確にしていく。 2. 調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。 3. 得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。 4. 得られた結果について、討議し、考察を進める。 5. 卒業論文の目次構成を考え、その見通しを立てて執筆していく。 			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	各自の問題意識に基づき、調査し、それに基づいて考察を進めることができる。
		(DP 4)	論理的に導いた自分の考えを文章にし、その内容を説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	心理学に基づいて、問題を検討し、論文を執筆することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP 3,4,10 を十分に達成する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
DP3, 4, 10 を最低限、達成する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80～89	履修目標を達成している。
B : 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	卒業論文	合計
総合評価割合					40		60	
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)				20		20	40
	(DP4)				20		20	40
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						20	20
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1 ～ 15	演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究テーマについて考察する。	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。	事前に発表資料を作成する 事後に新たな課題を検討する。

16 ～ 30	得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究テーマについて考察し、卒業論文を完成させる。	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ 調査 ）																	
内容			調査（または実験）研究を行う														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	演習に引き続き、心理学研究の手法による卒業論文を作成する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	特になし。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業	心理学研究を実施した経験を持つ教員が実施する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問・相談は、演習時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	心理学の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。
		(DP4)	科学的手法を用いて、自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	心理学に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
心理学研究の手法による卒業論文を作成し、その内容を発表する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心理学研究の手法による卒業論文を作成し、その内容を発表する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
心理学研究の手法による卒業論文作成とその内容の発表が大変優れている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
心理学研究の手法による卒業論文作成とその内容の発表が優れている。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
心理学研究の手法による卒業論文作成とその内容の発表が概ね良好である。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
心理学研究の手法による卒業論文作成とその内容の発表ができる。	
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。
心理学研究の手法による卒業論文作成とその内容の発表ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	演習	卒論発表会	ポートフォリオ	卒業論文	合計
総合評価割合			30	20		50	100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)		○			○	
	(DP 4)		○	○		○	
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)		○	○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1 ～ 14	研究目的、調査手続きの執筆と調査の実施	担当教員に研究進捗状況を報告し、ディスカッションする。	卒業論文に必要な文献を読み、研究目的、調査手続きの執筆、調査票等の作成を行う。
15	中間発表会で発表する	発表	中間発表に向けた準備
16 ～ 29	結果の整理、解析、考察、卒業論文の執筆	担当教員に研究進捗状況を報告し、ディスカッションする。	結果の整理、解析、考察、卒業論文の執筆
30	卒論発表会で発表する	発表	卒論発表会に向けた準備

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4	開講時期	通年	
担当教員	上野 行良			
授業概要	心理学に関する卒業論文の作成を支援・指導する。①調査研究や実験測定を行って得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。②卒業論文を執筆し、添削を受ける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	演習を単位取得済みであること			
テキスト	自分で探す			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	相談・質問は始動中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	収集したデータについて考察できる
		(DP 4)	論理実証的な文章が書ける
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	心理学論文の執筆ができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	過去の研究を踏まえた上でオリジナリティのある論文を執筆できる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心理学における研究論文としての基本を備えた論文を執筆できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							100	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)						○	
	(DP4)						○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1-2	結果の整理	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
3-4	結果の執筆	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
5-10	考察の構成	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
11-15	考察の執筆	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
16-20	問題の構成	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
21-25	問題の執筆	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
26-28	論文全体の統一,完成	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
29-30	要旨の作成	備考欄参照	書いてきて指導に従い修正する
備考	作成してきた論文に対し、添削を中心とした指導を行う。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			論文執筆														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	杉野寿子			
授業概要	演習で各自が設定したテーマについて論文作成に向け準備し、グループでの討議や個別指導を通じて卒業論文を完成し発表する。卒業論文を作成することで、4年間の学びの集大成とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	なし。授業時に資料を配布する。			
参考図書・教材等	授業時に紹介			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	自ら設定したテーマに沿って、先行研究や調査結果の考察によって結論を見出すことができる。
		(DP 4)	指定された様式に沿って論文を作成し、発表できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	卒業論文を作成するための科学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
論文を作成するための科学的手法を身につけ、研究テーマに沿って先行研究や調査結果の考察による結論を見出すことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
設定したテーマに基づき、文献を読みながら論理的に考えをまとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

体験学習／調査学習															
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	池 志保			
授業概要	心理学に関わる卒業論文をまとめ、完成させる。3年「演習」の授業で各々が関心のある文献を調べて発表していたものを、引き続きゼミナールでのディスカッションを通して、調査、分析及び考察まで行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「演習」の単位を取得していること。			
テキスト	授業の中で適宜紹介します。			
参考図書・教材等	授業の中で適宜紹介します。			
実務経験を生かした授業	心理臨床で実務経験のある教員が担当しています。		授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができる。
		(DP4)	自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができる。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察が大変よくできる。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表が大変よくできる。心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を大変よく身につけている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察がよくできる。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表がよくできる。心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法をよく身につけている。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができる。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表がよくできる。心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけている。
C：60～69 到達目標を達成している。
自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察がまずまずできる。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表がまずまずできる。心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法をまずまず身につけている。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができない。自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表ができない。心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他(卒論)	合計
総合評価割合				20	20		60	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)			◎	◎			
	(DP4)			◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○			
	(DP6)			○	○			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回)	【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)

1 ～ 30	<p>1) 卒業論文について、調査や実験を行い、データを収集する。</p> <p>2) 卒業論文について、データを分析し、考察を進める。</p> <p>3) 卒業論文を完成し、卒業論文発表会で発表を行う。</p>	<p>受講生が順番にレジюмеを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。</p>	<p style="text-align: center;"><u>事前学習</u></p> <p>文献の検索及び熟読後、レジюмеにまとめる。その時々課題に取り組む。</p> <p style="text-align: center;"><u>事後学習</u></p> <p>ディスカッションで得た検討点について更に探求し、修正をしていく。</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	池田孝博			
授業概要	人間の健康、身体活動とそれらに関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成し、発表する。具体的には、「演習」において策定された研究計画に基づいて、研究目的に合致した方法を選択するとともに、それによって得られたデータの分析結果と、収集・整理された文献の論点に基づいて、テーマに関する考察を深める。さらに執筆規程や提出期限を守って論文を完成させ、提出する。最後に、研究成果を指定された方法で発表する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	卒業論文の着手要件を満たしていること			
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	先行研究や分析結果に基づいた思考が行える。
		(DP 4)	指定された体裁で卒業論文を作成できる。 研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。 研究の概要を整理して、要旨を作成することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	選択された研究方法に基づいてそれを実施し、データ収集ができる。 選択された分析手法によってデータを分析できる。 研究課題解決のための科学的手法を身につけている。 指定されたツールを用いて研究成果を発表することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
先行研究や分析結果に基づいた論理的な思考が行える。指定された体裁で卒業論文を作成できる。研究過程および成果についてわかりやすい表現でプレゼンテーションができる。研究の概要の論点を的確に整理して、要旨を作成することができる。選択された研究方法に基づいてそれを実施し、妥当な手法でデータの収集ができる。選択された分析手法によって適切にデータを分析できる。研究課題解決のための適切な科学的手法を身につけている。指定されたツールを用いて研究成果を発表することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	先行研究や分析結果に基づいた思考が行える。指定された体裁で卒業論文を作成できる。研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。研究の概要を整理して、要旨を作成することができる。選択された研究方法に基づいてそれを実施し、データ収集ができる。選択された分析手法によってデータを分析できる。研究課題解決のための科学的手法を身につけている。指定されたツールを用いて研究成果を発表することができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				30		70	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)			○		○	
	(DP4)			○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)				○	○	
備考	論文作成						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1-2	研究計画（目的・方法）の修正または見直し	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
3-5	研究方法の実践（1）測定・調査の準備	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
6-10	研究方法の実践（2）データの配布と回収	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備
11-13	研究方法の実践（3）データの入力と集計	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備 課題
14	研究方法の実践（4）データ分析	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備 課題

15-16	論文構想発表（中間発表）の準備	ゼミ形式	本時の復習と発表会の準備
17	論文構想発表会	プレゼンテーション	発表の振り返りと次回授業の準備
18-19	分析結果の整理	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備 課題
20-21	結果に関する考察または再分析	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備 課題
22-27	論文作成	ゼミ形式	本時の復習と次回授業の準備 課題
28	論文要旨およびプレゼン資料の作成	ゼミ形式	本時の復習と発表準備 課題
29	卒論発表会の準備（3年生との合同ゼミ）	ゼミ形式	本時の復習と発表準備 課題
30	卒論発表会	プレゼンテーション	発表の振り返り
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1-2	3-5	6	～	10	11-13	14	15-16	17	18-19	20-21	22-27	28	29	30
発見学習／問題解決学習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○		○						○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク											○						○
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文			単位	6
科目名（英語）	Graduation Research			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	認定心理士		
標準履修年次	4	開講時期	通年		
担当教員	麦島 剛				
授業概要	各自の研究テーマに従って、その研究分野の国内・国外の文献を網羅的に収集して研究史とその最前線を理解し、実験または調査の計画を立てて、それを実行し、データを適切に処理して事実を発見し、真実に基づいた論文を作成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。			授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	卒論作成における全ての面で相談と助言を行う。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	真実を見極める。
		(DP 4)	真実を真実として表現する。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	科学論文を完成させる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究分野の国内・国外の文献を網羅的に収集して研究史とその最前線を理解し、実験または調査の計画を立てて、それを実行し、データを適切に処理して事実を発見し、真実に基づいた論文を作成する。これを総合知の理解につなげる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究分野の国内・国外の文献を網羅的に収集して研究史とその最前線を理解し、実験または調査の計画を立てて、それを実行し、データを適切に処理して事実を発見し、真実に基づいた論文を作成する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 8 割以上 9 割未満の成果が認められる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の 7 割以上 8 割未満の成果が認められる。
C : 60~69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 6 割以上 7 割未満の成果が認められる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の 6 割未満の成果が認められる。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)					○	
	(DP 4)					○	
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)					○	
備考	卒業論文						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	卒業論文を作成するためのあらゆる面で支援する。授業概要の欄に記載した事項は当然支援する一方で、例えば、動物実験研究を希望する学生には、必要に応じて手術や実験装置作製や制御プログラム作成などにおいて支援する。	一斉指導と個別指導を組み合わせながら進める。	記述のしようがないので省略する。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			

13		
14		
15		
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				文献研究 論文作成 実験 データ処理（当然ながら、進行はあくまで目安）															
あり	○	なし																	
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				文献研究 論文作成 実験 データ処理（当然ながら、進行はあくまで目安）															

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文			単位	6
科目名（英語）	Graduation Research			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	保育士資格 幼稚園教諭免許		
標準履修年次	4年	開講時期	通年		
担当教員	鷲野彰子				
授業概要	音楽に関連する卒業論文作成のための指導を受ける。「演習」で習得した研究方法を応用して自身でテーマを展開し、論文を執筆し、その添削を受ける。適宜、必要に応じて研究の中間発表を行い、進捗状況や方向性、問題点を確認する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	担当教員の「演習」を履修していること。				
テキスト	特になし。各自で用意する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業					授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	原則として授業の前後に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	課題や問題点の解決方法について、論理的に考察することができる。
		(DP 4)	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
課題や問題点の解決方法について、論理的に深く考察し、科学的手法を用いて導かれた自分の考えをわかりやすく表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
課題や問題点の解決方法について、論理的に考察し、科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					40		60	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)				○		○	
	(DP4)				○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○		○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1-15	研究課題に対する仮説をたて、データや資料分析を行う	各回につき 2 名程度の学生がそれぞれの研究の一部あるいは関連項目について発表し、それに対して討論を行う	発表できるよう、各自で発表資料などを事前に用意する
16-30	論文作成指導	グループ指導及び個別指導 グループ：進捗状況を報告し、それに対して疑問点・問題点を議論する 個別：添削を中心とした論文作成指導	各自で論文を書き進める
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			授業は基本的にディスカッション形式で行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	4年間の集大成として卒業研究の結果を卒業論文にまとめる。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象やその問題をモデル化し、資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。
		(DP4)	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や各種資料を適切に収集し、他人の知見を活かしながら的確に調査分析できる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉およびICTに関する専門知識をふまえ、各自で設定した研究課題について、問いを見出し、実態を把握し、検証・考察をへて導き出された結論を他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉に関する問題について文献やデータを収集・分析し、結論を見出すことができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	卒業論文	卒業論文要旨	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		75	15	10			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○	○		
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○		
	(DP4)		○	○	○		
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○		
	(DP6)		○	○	○		
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○		
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	
2~5	各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6~9	関連文献・データの整理。先行研究の検討	演習	必要な文献やデータを収集し、自分の研究との関連性を検討する
10~15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17~25	草稿の内容の改善、データや文献の補充	演習	草稿の修正、補充を進める。
26~30	卒業論文の執筆と完成。卒業論文発表会で研究発表を行う。	演習	卒業論文を完成させる。 卒業論文発表会のための資料作成、その他準備を行う
8			
9			
10			

11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文			単位	2
科目名（英語）	Graduation Research			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	保育士資格・幼稚園教諭一種免許		
標準履修年次	4年	開講時期	通年		
担当教員	大久保 淳子				
授業概要	保育・教育に関する研究テーマを決め、研究目的・方法、データ収集・分析をし、研究の進め方について学ぶ。その後、研究結果から、保育・教育現場の現状・今日的課題を考察する。そして、研究結果を卒論発表会で発表し、プレゼンテーションのスキルを身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「演習」の単位を取得していること。				
テキスト	「幼稚園教育要領」平成29年 文部科学省 「保育所保育指針」平成29年 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」平成29年 内閣府 文部科学省 厚生労働省				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での現状・今日的課題等を紹介します。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)		
		(DP2)		
	思考・判断・表現	(DP3)	文献調査・データ収集後、分析・考察をすることができる。	
		(DP4)	データに基づく論文を執筆することができる。	
	関心・意欲・態度	(DP5)		
		(DP6)		
	技能	(DP7)		
		(DP8)		
		(DP9)		
		(DP10)	保育・教育に関する論文を執筆し、研究結果から今日的課題を考察する。	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
文献調査、データ収集に基づき、分析・考察をし、プレゼンテーションすることができる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
保育・教育に関する論文を執筆し、研究結果から今日的課題を考察することができる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる				
A：80～89 履修目標を達成している				
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない				

C : 60～69	到達目標を達成している
不可 : ～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					100			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)				○			
	(DP4)				○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・研究テーマの選択について ・参考文献・引用文献について 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・質疑応答 	事前・事後 <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献・引用文献について調べる
2～10	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の報告 ・選択したテーマについて、目的、方法の発表 ・中間報告会に向けて、プレゼンテーションの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の発表後に質疑応答をする。 	事前：研究計画に沿って研究を進め、進捗状況を報告する。 事後：選択したテーマについて、目的、方法などを各自、執筆する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会に向けて、各自プレゼンテーションの練習をする。
11～15	<ul style="list-style-type: none"> ・結果、考察について発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の発表後に、質疑応答をする。 	事前：データ分析をし、結果をまとめる。 事後：結果・考察についてまとめる。

16～ 29	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文執筆 ・卒論発表会に向けて、プレゼンテーションの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の発表後に、質疑応答をする。 	<p>事前：データ分析をし、結果をまとめる。</p> <p>事後：結果・考察についてまとめる。</p>
30	卒論発表会		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容			グループワーク・プレゼンテーションをする。														